

科目名	教職論	学年学期	1年後期	単位数	2	ナパ'リング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	リ・ユ・ティ(教育)、高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保健)、高一(保健)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>教職とはどのような役割を担い使命を持つ職業なのかについて概説し、教職の意義と教員の使命・資質、仕事内容、学校の組織特性とそのあり方(チーム学校)、教員の服務と身分保障、研修等について理解を深めます。また、今の教育現場が直面している課題等についても取り上げ、学校現場の取り組みについて理解を深めます。加えて、県教育委員会の講話をとおして、教職に対する理解、関心を深めるとともに、教職が自己の適性に合った職業であるかどうかを見極める機会を提供します。</p>									
学修到達目標									
<p>求められる教員像について理解を深め、「教員」について具体的にイメージできるようになる。併せて、教員を目指すうえで、今日の教育現場の課題等について理解を深め、現状における自己課題が認識できるようになる。</p>									
授業の進め方									
<p>基本的にテキストの内容に沿う形で、講義形式主体で進めますが、パワーポイント及びプリント資料を使用し、討論の場も設け、より内容が充実したものになるようにします。教育基本法等関連する教育法規等の内容にも触れながら学習を進めます。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	教職課程の授業履修等について「教職論」をとおして何を学ぶか				レポート 作成(4時間)			
2	教職の専門性	教員の歴史と専門職論				事前学修: 教員の専門職論 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
3	教員の資質	教員に求められる実践的な資質・能力について(不易と流行)				事前学修: 教員に必要な資質能力 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
4	教員の職務内容	教員の職務と校務分掌及び学校組織(チーム学校)について				事前学修: チーム学校 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
5	教員の研修と待遇	初任者研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修等について				事前学修: 教員の研修制度 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
6	教員の服務	教員の服務及び身分保障並びに懲戒処分について 小テスト				事前学修: 教員の服務 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
7	初等・中等教育と教員	各校種の教員の特性と在り方及び教員の1日について(幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)				事前学修: 教員の仕事内容 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
8	教員の安全注意義務	教員の安全注意義務違反について～教員の過失の要件～(注意義務の範囲、程度及び予見の可能性) 小テスト				事前学修: 教員の過失 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
9	「いじめ」について	「いじめ」とは(定義および具体的事例) 教員の注意義務及び「いじめ」による自殺と教員の過失				事前学修: いじめの現状 レポート 提出(4時間)			
10	教員を目指すうえで の心構え	長野県教育委員会の講話				事前学修: 教員の不祥事 レポート 作成(本時の学習内容 整理)(4時間)			
11	学校の危機管理	事故、事件発生時の対応について				事前学修: 災害や事故発生時の対応 レポート 提出(4時間)			
12	教員の懲戒権と体罰	懲戒の種類について 「体罰」について 小テスト				事前学修: 教員による体罰 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
13	特別支援教育について	特別支援教育の理念及び推進について				事前学修: 特別支援教育 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
14	学校の果たすべき役割	今日の学校教育の目指すべきものについて考える				事前学修: 学校教育への期待 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
15	まとめ	教員を目指すという進路選択について ・教員の厳しさと魅力 ・教員採用試験について				事前学修: 学校現場の課題 レポート 提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>受講態度: 20% 小テスト: 30% レポート: 50%</p> <p>S: 教職の意義や教員の使命等の理解を十分深め、討論等の場では意欲的に取り組み、課題分析力に優れ適切な意見を述べることができ、期待以上の学修到達目標達成状況である。A: 教職の意義や教員の使命等の理解を深め、討論等の場では意欲的に取り組み、課題分析力があり適切な意見を述べる事ができ、期待どおりの学修到達目標達成状況である。B: 教職の意義や教員の使命等について理解し、討論等の場では自分の意見を述べる事ができ、学修到達目標達成を十分達成している。C: 教職の意義や教員の使命等について概ね理解し、討論等の場では自分の意見を述べる事ができ、学修到達目標達成を達成している。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

教職の使命（厳しさ）とやりがい（魅力）を理解し、教員になるうえで不足しているものに気づき、その課題解決に積極的に取り組めるようになってください。学校現場での経験を講義に活かします。

テキスト

（講義にて配布します。）
必要に応じて資料を配布します。

参考書

「学校経営質疑応答集1・2」（第一法規）
「生徒指導提要」文部科学省編

学修成果に対するフィードバックの方法

提出されたレポートを評価・分析し、学修成果がより高まるよう解説・補足を行い、フィードバックします。また、提出されたレポートに必要な応じてコメントを付して返却し、フィードバックを行います。

実務経験のある教員による授業

教員に求められる資質能力は、専門分野の高度な知識だけでなく多様化しています。中学校・高等学校での勤務経験（科目担当教員、管理職）と教育委員会事務局での勤務経験を踏まえ、現場目線の授業内容を展開します。

科目名	教育基礎論	学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>高度に発達し複雑化した現代社会において、全ての人の成長に関わる教育という営みについて、その理念や意義、その背景となる思想や歴史を考え理解することは、教職に関する基礎的な資質を養う上で必要不可欠です。さらに、教育の原理として、教育の機会均等を理念とする学校が果たす役割について考察するとともに、教育に関する基礎的問題を取り上げ、その背景にある要因を理解することによって、現代の教育問題に対する分析視角を身につけることを目的とします。</p>									
学修到達目標									
<p>教育の原理として、現代社会における教育の理念と意義を理解し、説明できる。教育が目指す理念と学校が果たす役割について関係的に理解し、説明できる。教育の基礎的問題を取り上げ、背景にある要因を理解し、その一つについて説明できる。人間の特質と人間の発達要件としての環境の重要性について説明できる。代表的な教育思想について理解し、説明できる。</p>									
授業の進め方									
講義形式を主として進め、適宜、ワークショップ等を行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業内容や進め方の説明などについて説明します。				シラバスを読み、授業全体のイメージをつかむ(4時間)。			
2	教育の理念	現代社会の特徴と人の成長及び教育の理念について説明します。				新聞記事のスクラップブック作成、テキストの予習(4時間)。			
3	教育の意義	現代社会における教育の重要性とその意義について説明します。				新聞記事のスクラップブック作成、テキストの予習(4時間)。			
4	教育と学校	教育の機会均等の理念と学校が果たす役割について説明します。				卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成(4時間)。			
5	学校の目的	法的に見た学校の種類とその基礎的な目的について説明します。				卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成(4時間)。			
6	教育の使命	信州教育の歴史的観点に立った教職の使命について説明します。				長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成(4時間)。			
7	教育の原理	教育の問題に関する背景の要因とその原理について説明します。				長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成(4時間)。			
8	教育の将来	教育に関する動向変化と今後に向けた展望について説明します。				長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成(4時間)。			
9	人間の本質1	人間の新生児の特質について説明します。				第8回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
10	人間の本質2	発達の要件としての環境について説明します。学習指導要領・指導案との関連についても含みます。				前時の復習、第8回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
11	教育の思想1	子ども観、発達観、教育観の変遷について説明します。学習指導要領・指導案との関連についても含みます。				前時の復習、第10回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
12	教育の思想2	子どもの権利、子どもの最善の利益について説明します。学習指導要領・指導案との関連についても含みます。				前時の復習、第10回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
13	教育の歴史1	近代公教育制度の成立について説明します。学習指導要領・指導案との関連、学生の説明力向上としての模擬授業についても扱います。				前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
14	教育の歴史2	近代公教育制度の発展について説明します。学習指導要領・指導案との関連、学生の説明力向上としての模擬授業についても扱います。				前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
15	教育の歴史3	近代以降における学校教育の役割について説明します。授業のまとめ、学生の説明力の向上を目指します。				前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
成績評価の方法・基準									
<p>受講態度：30% 小テスト：30% 定期試験：40% 受講態度とは毎回の授業時に提出する意見カードを指します。S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しながら、論理的に自分の考え、意見を述べることができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
教職課程履修者を対象とする必修科目です。3年次までにこの科目の単位を修得して下さい。本授業は、2年次以降の教職科目履修の基礎となる科目ですので、積極的に受講して下さい。
テキスト
「重要教育答申 '22」（時事通信社）（生協で購入してください。） 「教育用語の基礎知識 '22」時事通信社編
参考書
「未来を拓く教師のため教職課程論」山崎保寿著（学陽書房） 主に2年生で扱いますが、1年次から用語解説をよく見ておいて下さい。 中学校・高等学校「学習指導要領」、『教育法規便覧』学陽書房
学修成果に対するフィードバックの方法
受講票を書き、重要な質問について次回に答えます。
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
グループワーク、ディスカッションを取り入れます。
ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援
インターネットHPを活用し、時事問題を参照します。

科目名	学校の制度	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-14
担当者	御代田 桜子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
現在の学校教育は、社会的諸条件の影響を受けながら、公法的秩序のもとで行われています。そのため、教師を目指す私たちは、教育的諸活動の諸々の側面に関心を寄せ、学校教育を成り立たせている諸条件、組織関係等に関心を払い、それらを検討、見直していくことが必要なのです。本授業では、現在の学校教育を支える基本的事柄を取り上げ、現在の学校教育を理解することを目的としています。さらに、それらを検討、見直すための視点を得ることをも目的としています。									
学修到達目標									
現代の公教育を支えている基本原理を理解し説明できる。教育制度を支えている法制、教育行政の基本を理解し、文部科学省及び教育委員会の役割について説明できる。学校制度の基本を理解し、身近な学校の組織運営の特徴について説明できる。学校と地域の連携及び学校安全について理解し説明できる。制度の意義及び課題について自分なりの考えを持つことができる。									
授業の進め方									
講義形式を主として進め、適宜、グループワークやディスカッションを行います。必要に応じて追加資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業内容や進め方の説明など				シラバスの読み(事前)、新聞に目を通し教育制度に関する時事問題を一つ以上集める(事後)(4時間)			
2	学校制度の基本原則(1)	学校教育と国民主権及び法律主義の関係について説明します。				第1回授業で配布された資料の読み(4時間)			
3	学校制度の基本原則(2)	教育行政・学校の一般行政からの独立について、その考え方と背景について説明します。				第2回授業で配布された資料の読み(4時間)			
4	学校制度の基本原則(3)	学校教育の地方分権と地方自治について、その考え方と背景について説明します。				第3回授業で配布された資料の読み(4時間)			
5	学校制度の基本原則(4)	学校教育の一定水準の確保と機会均等について、その考え方と背景について説明します。				第4回授業で配布された資料の読み(4時間)			
6	学校制度の基本原則(5)	産業革命と市民革命について、その考え方と背景について説明します。				第5回授業で配布された資料の読み(4時間)			
7	中央教育行政の役割と学校制度	文部科学省の役割と学校教育とのかかわりについて説明します。				第6回授業で配布された資料の読み(4時間)			
8	地方教育行政の役割と学校制度	教育委員会の役割と学校教育とのかかわりについて説明します。				第7回授業で配布された資料の読み(4時間)			
9	学校と教員人事の制度(1)	教員の養成・採用・研修の考え方とその運用について説明します。				第8回授業で配布された資料の読み(4時間)			
10	学校と教員人事の制度(2)	教員の服務・監督、懲戒処分と分限処分の考え方とその運用について説明します。				第9回授業で配布された資料の読み(4時間)			
11	学校の組織運営	学校と教育行政とのかかわり、校務分掌、地域連携などについて説明します。				第10回授業で配布された資料の読み、母校や教育実習先のHP、学校要覧等で学校の組織を確認(4時間)			
12	学校の危機管理	子どもをめぐる物的事故や人的事故の代表例と事前・事後対応について説明します。				第11回授業で配布された資料の読み。(4時間)			
13	これからの学校の制度	チーム学校と「開かれた学校づくり」(学校運営協議会、地域学校協議会を含む)について、政策の動向と先進事例に基づき説明します。				第12回授業で配布された資料の読み。都道府県・市町村の教育計画を調べてくる。(4時間)			
14	諸外国の学校制度の改革	欧米やアジアの学校制度の改革動向を説明します。				第13回授業で配布された資料の読み。(4時間)			
15	まとめ	今日の学校制度の改革動向や学校現場での課題を説明するとともに、講義全体のまとめを行いません。				前時までに配布の資料からまでの読み。(4時間)			
成績評価の方法・基準									

定期試験：50% 課題：20% 出席レポート：30%
出席レポートとは毎回授業後の感想・質問を記入するものです。
S: 講義内容を正しく理解し、制度の意義及び問題点についての考えを資料やデータを活用して論理的に述べることができる。A: 講義内容を正しく理解し、制度の意義及び問題点について自分なりの考えを論理的に説明できる。B: 講義内容を理解し、制度の意義及び問題について説明することができる。C: 講義内容を理解し、一般的な制度の意義及び問題について説明することができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

受講するにあたり、クラス環境や授業方法について不具合等ある場合は担当教員にすみやかに連絡してください。私語は勉強したいと思っている学生の学習を妨害することになるので、控えてください。カンニング行為や他人の書いたものを剽窃した場合には、大学の規則に沿って対応します。

テキスト

テキストは使用しません。必要な資料を適宜配布します。必ず熟読し、保管しておいてください。

参考書

「教育小六法」市川須美子、小野田正利、勝野正章、窪田眞二、中嶋哲彦、成嶋隆編（学陽書房）
「未来を創る教育制度論」川口洋誉、中山弘之編（北樹出版）
授業時に適宜紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

出席レポートで書かれた内容を復習および発展的学習の素材として用います。出された質問は、授業内で共有する必要性が高いものについては次の授業で紹介し、授業内の紹介が難しい場合はLMSに回答を掲載します。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

この授業では、グループ討議・発表を行います。また、課題に応じたディスカッションも行います。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

授業内容に関わる資料や授業で扱いきれなかった質問に関する回答をLMS上に掲載し、自主学修に活用できるようにします。

科目名	教育史	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
近世から現代にいたる日本における教育の展開を概観し、日本の教育の発展に関する歴史的知見を得るとともに、歴史的視点から現在の学校や社会が直面しているさまざまな教育問題を読み解く力の基礎を身につけることを目的とします。									
学修到達目標									
本授業の到達目標は次の5点です。1.近世の教育の場について理解し、事例をあげて説明できる。2.日本における教育制度の成立とその変遷について説明できる。3.日本における教育方法の工夫について理解し、事例をあげて説明できる。4.教員免許制度の変遷について説明できる。5.現代の教育を取り巻く諸問題について関心を持つ。									
授業の進め方									
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業内容や進め方について説明します。				シラバスの読み及び教育史に関して興味を持ってそうなテーマを見つける(4時間)。			
2	近世の教育の場1	武家の教育について説明します。				第1回授業で配布した資料の読み、授業時に指示された内容を行う(4時間)。			
3	近世の教育の場2	庶民の教育について説明します。				前時の復習、第2回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
4	近代の教育1	近代学校教育制度の成立について説明します。				前時の復習、第3回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
5	近代の教育2	近代学校教育制度の変遷について説明します。				前時の復習、第4回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
6	近代の教育3	大正期の自由教育の思想について説明します。				前時の復習、第5回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
7	近代の教育4	大正期の自由教育の実践について説明します。				前時の復習、第6回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
8	近代の教育5	教材と教具について説明します。				前時の復習、第7回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
9	戦時体制下の教育	戦時体制下の教育について説明します。				前時の復習、第8回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。			
10	ここまでの授業のまとめ	第9回までの授業内容を振り返り、総括します。				第9回までの授業内容を復習する(4時間)。			
11	昭和戦後期の学校教育制度の成立と変遷	昭和戦後期の学校教育制度の成立と変遷について説明します。				第8回授業で配布した資料の該当箇所の読み、授業時に指示されたことを行う(4時間)。			
12	昭和戦後期の学校教育制度を支えた思想	経験学習について説明します。				前時の復習、第11回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
13	教員免許制度	教員免許制度の変遷について説明します。				前時の復習、第12回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
14	現代の教育を取り巻く諸問題	現代の教育を取り巻く諸問題について説明します。				前時の復習、第13回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
15	まとめ	第10回から第14回の授業を振り返り、総括します。また、授業全体のまとめを行います。				ここまでの授業内容を復習する(4時間)。			
成績評価の方法・基準									
出席レポート：50% 定期試験：30% 課題：20% 出席レポート(毎時間後の感想・質問)、定期試験、課題(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内での課題への取り組み)を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

教員採用試験を受験する方はできるだけ履修して下さい。

テキスト

使用しません。必要な資料を適宜配布します。

参考書

「新訂版資料で考える子ども・学校・教育」遠藤孝夫他著（学術図書出版）
「解説教育六法2021」姉崎洋一他編（三省堂）
「教育小六法2022年版」勝野正章他著（学陽書房）

学修成果に対するフィードバックの方法

試験終了後に解答の開示を行い、質問等を受け付けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

グループで調べ学習を行い、プレゼンを行うなどします。

科目名	教育と発達	学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-01
担当者	藤江 玲子・海沼 亮	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	リ・コ・デ・イ(教育)、高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保健)、高一(保健)、養教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>学校での教育活動に必要な、学習と発達に関する教育心理学の基本的な理論や考え方について講義します。この講義を通して、学習のメカニズム、社会性とパーソナリティ、心身の発達と個人差に関する知識と考え方を身につけられるようにします。同時に、それらの知識や考え方を教育現場に応用するための方法や視点を学び、児童生徒の知・情・意の発達への効果的な支援について理解を深められるようにします。</p>									
学修到達目標									
<p>児童生徒の学習や発達に関して知識として説明できるだけでなく、教職に就いた時に正しい児童生徒理解に役立たせることができるようになる。それによって授業や学級経営に自信を持つことができるようになる。</p>									
授業の進め方									
講義の他、グループディスカッションやグループワークを行い、理解を深めます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス	教育と発達の意味について、教育心理学・発達心理学の概念と内容について理解し、教育と発達を学ぶ意義を理解します。(藤江)				教育と発達の意味について、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
2	ほめることの大切さ	条件づけの基本として古典的条件づけと道具的条件づけについて学び、行動理論の立場から人の行動の獲得について、とくにほめることの大切さについて教育的な視点から考えます。(藤江)				行動理論について、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
3	ほめることの大切さ	よい行動の獲得には観察学習や自己強化による学習が有効であることを理解し、教師が行っている教育的行為をこれらの理論で説明できるように学びます。(藤江)				観察学習や自己強化について、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
4	人のやる気を考える	学習性無力感や統制、自己効力感の概念は人のやる気と関係し、学習場面ではこれらの考え方を効果的に活用することの大切さを学びます。(藤江)				自己効力感について、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
5	人のやる気を考える	学習や対人行動の結果をどう認知するか、内発的に動機づけられた学習が成立するにはどうしたらよいかを、理論と方法から学びます。(藤江)				内発的動機づけについて、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
6	学校カウンセリングの大切さ	誰もが多くの発達課題に直面します。幼児、児童、生徒の困難に対応するための理論と方法を、事例を交えて学びます。(藤江)				学校カウンセリングについて、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
7	学級と学習	学級集団の特殊性や関係性、学級の雰囲気などが、授業における学習効果や人間関係に与える影響を考え、問題行動や不登校などの予防に役立つ足せる方法を学びます。(藤江)				学級集団の特殊性や関係性について、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
8	学級と学習	学級集団の様相を客観的にアセスメントし、人間関係や集団の育成に役立たせるための理論と方法を、実践を通して学びます。(藤江)				人間関係や集団の育成について、学校ではどのように活用するのかレポートする(4時間)			
9	発達を見る目	人の発達と育ちを考える視点を概観し、様々な発達理論に触れることで、人の成長をとらえられるようになります。(海沼)				テキストを読み、発達理論をまとめる(4時間)			
10	胎児期から幼児期までの発達	胎児期から幼児期までの発達を概観し、子どもの発達の様子を理解します。(海沼)				テキストを中心にまとめ、事後は教育に生かすために何が大切かをレポートする。(4時間)			
11	児童期の発達	小学生時代にあたる児童期の発達を概観し、学校生活や仲間、学習などの視点から子どもを支援する視点が持てるようになります。(海沼)				授業で学んだ発達の視点や理論で、自分の児童期を振り返りレポートする(4時間)			
12	青年期の発達	中学生から大学生時代に相当する青年期の発達の特徴を概観し、自分の発達を振り返りながら理解を深めます。(海沼)				この時代の自分の発達について、学んだ理論等から考察する(4時間)			
13	生涯発達の考え方と学習指導	ライフサイクルと大人になることについて理解を深めます。また、生涯発達の視点を踏まえ、子どもたちが身につけるべき学力とその指導方法についても理解を深めます。(海沼)				生涯発達とこれからの子どもたちが身につけるべき学力についてレポートする(4時間)			
14	教育評価の目的と方法	教育評価の多様な目的や方法について心理学の観点から理解を深めます。				教育評価について、学んだことをレポートする(4時間)			
15	発達と障害	発達をアセスメントする必要性とその方法について学び、障害と発達や合理的配慮などについて理解します。(海沼)				合理的配慮について調べ、レポートする(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>レポート：50% 小テスト：50%</p> <p>S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A: 授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

レポートは基本的にワープロ・A4版で提出してください。この予定表は変更になる可能性があります。定期試験はありません。 レポートのネットからのコピー&ペースト、授業中のスマホは禁止です。単位が出ません。

テキスト

「教職に生かす教育心理学」石井正子・中村徳子 編著（みらい） ISBN:978-4-86015-489-9（生協で購入してください。）

参考書

授業時に指定します。

学修成果に対するフィードバックの方法

レポート等については次回の授業の中で質問に答えたり、討論したりします。またリモート授業の場合は、コメントをつけて返却します。

実務経験のある教員による授業

小学校、中学校、高等学校および教育委員会等で教職についた教員が授業を行います。

科目名	特別支援教育概論	学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	
担当者	樋口 一宗	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
特別支援教育はそれまでの特殊教育と比較してどのような点が異なっているのでしょうか。そして我が国が共生社会を目指している中で提案されたインクルーシブ教育システム構築に向けて、特別支援教育はどのように変化していくのでしょうか。本授業は主として小中学校等における特別支援教育について概説し、よりよい特別支援教育を実践するための基礎的な知識を得ることを目的としています。									
学修到達目標									
特別支援学校の種類とそこで行われている指導の特徴について理解している。 特別支援学級と通級による指導(通級指導教室)の種類とそこで行われている指導の特徴について理解している。 合理的配慮の考え方について理解し、具体的な支援を考案する手順を理解している。									
授業の進め方									
講義形式を基本に進めます。授業の学習内容によりグループワークや討論も取り入れます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について学びます。				自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
2	障害とは何か	特別支援教育が対象とする障害のある子供について、その概要を学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
3	特別支援教育とは何か	特殊教育から特別支援教育への転換、障害児教育の歴史と動向について学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
4	特別支援教育の現状と課題	特別な教育的ニーズに対応するための対象障害種の拡大と対象者の増加について解説します。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
5	特別支援学校の教育	特別支援学校が対象とする障害種と、そこで行われている教育の現状と課題について学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
6	小学校等における特別支援教育(特別な場)	特別支援学級、通級による指導、通常の学級における教育の現状と課題について学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
7	小学校等における特別支援教育(通常の学級)	小学校等の通常の学級における特別支援教育の現状と課題について学びます。				授業ノートをまとめ、次回講義の下調べをする(4時間)			
8	学習指導要領と特別支援教育	小中学校等の学習指導要領と特別支援学校学習指導要領を比較して特別支援教育について学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
9	障害者の権利に関する条約とインクルーシブ教育システムの構築	障害者の権利に関する条約により生まれたインクルーシブ教育システムとは何か、自立活動と合理的配慮の関係などを学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
10	合理的配慮の提供	合理的配慮をどのように提供すればよいか、障害の特性や社会的障壁など基本的な考え方を学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
11	合理的配慮の提供	困難の状況に応じた合理的配慮の提供とそれを指導計画に位置付けることについて学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
12	発達障害とは何か	発達障害の定義と特性について学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
13	発達障害への合理的配慮	発達障害のある児童生徒への合理的配慮を提供する場合の考え方について学びます。				授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)			
14	特別な教育的ニーズへの対応	障害はないが、母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある児童生徒への対応について学びます。				授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)			
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答を行います。レポート課題の内容を伝達します。				全授業ノートを振り返りまとめをする(4時間)			
成績評価の方法・基準									
受講態度:80% レポート:20% 受講態度は毎回の授業後に提出する質問の内容によって判断し、成績評価は原則として以下の基準に基づいて行います。 S: 授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A: 授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B: 授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C: 授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

授業内容に関する質問や意見は次回の授業で回答、解説するほか、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。

テキスト

「障害のある子供の教育支援の手引き」文部科学省著 文部科学省のHPからダウンロードし、PC等に保存しておいてください。
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省著 文部科学省のHPからダウンロードし、PC等に保存しておいてください。

参考書

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」文部科学省著 文部科学省のHPからダウンロードし、PC等に保存しておいてください。
「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」文部科学省著 文部科学省のHPからダウンロードし、PC等に保存しておいてください。
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」文部科学省著 文部科学省のHPからダウンロードし、PC等に保存しておいてください。
その他参考書については授業の中で適宜紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

授業内容に関する質問や意見は、授業時間内に回答、解説します。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

合理的配慮の考案は、それまでの学習内容を踏まえて、グループワークによって行います。

実務経験のある教員による授業

知的障害特別支援学校小学部、中学部、高等部のすべてで担任を経験しました。また、文部科学省、県教育委員会の特別支援教育担当者として教育行政に携わりました。制度面と現場の実情の両面から特別支援教育について解説します。

科目名	道徳の指導法	学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・松原 好広	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領改訂で、確かな学力を基盤とした生きる力の育成を目的に、道徳教育は最重点課題の一つとして、道徳の教科化が決まり、小学校では30年度から中学校では31年度から「道徳科」として実施されています。そこで、その課題や今後の具体的な授業の工夫等を扱い理解を深めます。 この講義では、上記を踏まえ道徳の理論と指導法について講義します。 									
学修到達目標									
道徳教育の目標の理解と共に、道徳教育の理論と指導法の理解と実践力を身につけている。									
授業の進め方									
<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の現状を踏まえ、道徳授業の基礎・基本(道徳の指導案の書き方、心に響く道徳の授業のあり方、道徳学習方法論、教材開発等)の理解を深めます。 後半に模擬授業を行い、道徳の授業の実践力を高めます。 									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	道徳の理論	道徳教育の基礎理論				課題レポート - 道徳教育の基礎理論 - (4時間)			
2	授業の理論	道徳性とは何か、道徳の目標				課題レポート - 道徳教育の目標 - (4時間)			
3	授業の理論	道徳性の発達理論、道徳性発達理論に基づく道徳教育				課題レポート - 道徳性発達理論 - (4時間)			
4	授業の理論	日本における道徳教育の歴史、諸外国の道徳教育				課題レポート - 道徳教育の歴史 - (4時間)			
5	授業の指導法	道徳教育の計画、道徳科の基本方針				課題レポート - 道徳科の目標 - (4時間)			
6	授業の指導法	道徳科の学習指導の展開、道徳教材の活用				課題レポート - 学習指導案 - (4時間)			
7	授業の指導法	道徳科における問題解決的な学習				課題レポート - 問題解決学習 - (4時間)			
8	授業の指導法	道徳科における体験的な学習				課題レポート - 体験的な学習 - (4時間)			
9	授業の指導法	道徳科の多様な授業展開例 外部講師(中学校教員)による授業実践から学ぶ。				課題レポート - 多様な道徳授業展開 - (4時間)			
10	授業の指導法	教師に求められる道徳的指導力				参観授業観点別評価表の作成 (4時間)			
11	学習指導案の作成	学習指導案の作成				指導案作り(4時間)			
12	模擬授業	模擬授業(1)導入の工夫				本日の模擬授業振り返りレポート (4時間)			
13	模擬授業	模擬授業(2)発問の工夫				本日の模擬授業振り返りレポート (4時間)			
14	模擬授業	模擬授業(3)板書の工夫				本日の模擬授業振り返りレポート (4時間)			
15	まとめ	道徳の評価、全体でのシェアリング				総合レポート(4時間)			
成績評価の方法・基準									
出席レポート: 30% レポート: 40% 模擬授業30% S: 授業内容を確かに理解し、道徳の授業に探求姿勢を持って意欲的に取り組み、創意工夫した道徳の授業ができる。A: 授業内容を確かに理解し、道徳の授業に意欲的に取り組み、論理的な指導案が書け、発問を工夫した授業ができる。B: 授業内容を理解し、道徳の授業に意欲をもって取り組み、指導案がかけ、道徳の授業ができる。C: 授業内容を概ね理解して、道徳の授業に取り組み、児童・生徒のための授業をしようとする。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
模擬授業とレポートの提出を単位認定の条件とします。文部科学省発行の『中学校学習指導要領』と『中学校学習指導要領解説道徳編』を事前に読んでおいて下さい。
テキスト
「道徳の理論と指導法」柳沼 良太著（図書文化）（生協で購入してください。） 「中学校学習指導要領」（東山書房）（生協で購入してください。） 「高等学校学習指導要領」（東山書房）（生協で購入してください。）
参考書
「やさしい道徳授業のつくり方」鈴木由美子・宮里智恵 編編（溪水社） 「心に響く道徳教育講義」赤坂 雅裕 著（北樹出版）
学修成果に対するフィードバックの方法
課題レポートの添削、指導案作成の添削・評価によってフィードバックします。
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
後半に模擬授業を実施し、実践的な道徳の指導力を高めるようにしています。
実務経験のある教員による授業
中学校教諭として25年、中学校教頭として4年、小学校長として3年、中学校長として5年勤務した。

科目名	教育課程総論	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	リ・コ・デ・イ(教育)、高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保健)、高一(保健)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
学校における教育活動の全体計画である教育課程(カリキュラム)及びその編成に関する基本的事項を理解したうえで、カリキュラム・マネジメントの理論と実際を学びます。学習指導要領の変遷とその背後にある学力問題や学力観の変化をたどり、新学習指導要領が目指す方向とその重点事項を明らかにし、さらに、学校における教育課程とカリキュラム・マネジメントの事例を取り上げ、その内容と特色について考察していきます。									
学修到達目標									
1. 教育課程の意義と役割について理解し、説明できる。2. 学習指導要領の変遷とその背後にある学力問題や学力観の変化、新学習指導要領が目指す方向について理解し、説明できる。3. 教育課程を編成するために必要な基本的事項および編成の方法について理解し、説明できる。4. 学校における教育課程の事例とその特色について理解し、説明できる。									
授業の進め方									
講義形式を主としますが、発表や協議(ディスカッション)の時間も設定されています。配布資料や時間外学修は、授業内容の理解を助け発展させるものなので、該当する授業前までに必ず読み或は実施し、授業に臨んで下さい。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス、教育課程の意義	学校における教育活動の全体計画、社会における役割				シラバスの読み、授業全体のイメージをつかみ、興味が持てそうな内容を見つける(4時間)			
2	教育課程の基礎理論	発達段階と教育課程、経験主義、系統主義、編成の基本原則				第1回授業で配布した資料の読み、授業時に指示した内容を行う(4時間)。			
3	教育課程の法的根拠	教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則				前時の復習、第2回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。			
4	教育課程と学習指導要領	学習指導要領に基づく教育課程の編成、<探究課題の指示1>				前時の復習、第2回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。			
5	戦後学習指導要領の成立	戦後学習指導要領の変遷(昭和20年代~30年代)				前時の復習、第2回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。			
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷(昭和40年代~50年代)				第2回から第5回までの授業の復習(4時間)。			
7	平成期学習指導要領の特徴	新しい学力観とその考え方(平成元年~10年)				第6回授業で配布した資料の読み、授業時に指示した内容を行う(4時間)。			
8	確かな学力と一部改正	確かな学力の経緯と学習指導要領一部改正(平成15年)				前時の復習、第7回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
9	現行学習指導要領の特徴	現行学習指導要領の特徴と重点事項(平成20・21年)				前時の復習、第8回授業で配布した資料の読み(4時間)。			
10	教育課程編成と地域連携の在り方、配慮事項	地域と連携した教育課程編成とその配慮事項、地域連携と教科・領域の横断、単元・学期・学年の複合、<探究課題の指示2>				第2回から第9回までの授業の復習(4時間)。			
11	新学習指導要領が目指す方向とその検討	新学習指導要領に関する改訂の背景と経緯、目指す方向と重点事項、学力の3要素の検討、主体的・対話的で深い学びの意味				授業配布資料に基づいた次時の予習、教科書指定箇所の予習(4時間)。			
12	新学習指導要領と教育課程の編成、キャリア教育	社会に開かれた教育課程と地域連携、キャリア教育の実践事例、カリキュラム評価の考え方、特別講師による授業も計画する				授業配布資料及び教科書指定箇所の予習、課題レポートに関する論文検索と収集(4時間)。			
13	キャリア教育とカリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの理論、キャリア教育とカリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の観点と方法				授業配布資料及び教科書指定箇所の予習、論文検索と収集、課題レポート作成(4時間)。			
14	教科・領域を横断した教育課程、キャリア教育	教科等横断的内容の事例とキャリア教育、単元・学期・学年を複合した事例とキャリア教育				課題レポートの作成と発表・プレゼンテーションの練習(4時間)。			
15	カリキュラム・マネジメントの事例の検討と発表	堅実なカリキュラム・マネジメントの事例とグループディスカッション、全体発表				課題レポート及び発表・プレゼンテーションの修正、授業の復習(4時間)。			
成績評価の方法・基準									
受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、課題(期末課題)を総合して評価します。<評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。									

<p>履修上の注意（学生へのメッセージ）</p> <p>教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する科目です。教職課程履修者を対象とする必修科目ですので、3年次までに本科目の単位を修得するようにして下さい。</p>
<p>テキスト</p> <p>「未来を拓く教師のための教職課程論」山崎保寿編（学事出版）（生協で購入してください。） 「キャリア教育の基礎・基本」山崎保寿編（学事出版） ISBN:978-4-7619-2020-3（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「中学校学習指導要領」（東山書房）（生協で購入してください。） 「高等学校学習指導要領」（東山書房）（生協で購入してください。）</p>
<p>参考書</p> <p>「『社会に開かれた教育課程』のカリキュラム・マネジメント」山崎保寿著（学事出版） ISBN：978-4-7619-2396-9 「『社会に開かれた教育課程』を実現する教育環境」山崎保寿編（静岡学術出版） 『教育法規便覧 令和3年度版』学陽書房 または 『教育法規便覧 令和2年度版』</p>
<p>学修成果に対するフィードバックの方法</p> <p>受講票に質問を書き、次の授業で質問に答えます。</p>
<p>アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施</p> <p>学生の調べ学習、グループワーク、発表を重視します。</p>
<p>ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援</p> <p>PPT、プロジェクトを活用します。</p>

科目名	特別活動の指導法	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・岸田 幸弘・松原 好広	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
特別活動の意義や目的、実施上の課題等について講義します。学級会活動・児童生徒会活動・学校行事・総合的な学習・部活動についての特質を把握して、活動の実例や指導案の検討、評価のあり方、実施の意義と方法が分かるように学びます。									
学修到達目標									
特別活動の内容と指導方法、教育課程における意味についての理解を深め、説明することができる。									
授業の進め方									
<ul style="list-style-type: none"> 前半は講義形式を中心として基礎知識を習得します。 後半では、学校現場の参観実習、外部講師の話、グループワーク等を取り入れ、理解を深めます。 									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	特別活動とは何か	教育課程の中での特別活動の位置づけ (征矢野・岸田)				小中時代の活動の整理(4時間)			
2	特別活動の原理	学習指導要領における特別活動の目標、内容、活動 (征矢野)				テキスト第2章1節の読み(4時間)			
3	特別活動と教育課程の編成	学級会活動・児童生徒会活動・学校行事の年間指導計画と実践 (征矢野)				テキスト第2章2節の読み(4時間)			
4	特別活動の内容とその指導	教科学習や道徳、総合的な学習の時間、部活動との関連 (征矢野)				テキスト第2章2節の読み(4時間)			
5	学級活動の意義と展開	学級活動の内容とその指導について資料の具体事例1~3を通しての解説(岸田)				テキスト第3章1節の読み(4時間)			
6	学級活動の意義と展開	学級活動の内容とその指導について資料の具体事例4~6を通しての解説(岸田)				テキスト第3章1節の読み(4時間)			
7	学級活動と他の教育活動	学級活動と人間関係づくり (岸田)				テキスト第3章1節の読み(4時間)			
8	学級活動の実践事例	学級活動の実践事例の発表とグループワークでの検討 (岸田)				学級活動の事例集め(4時間)			
9	学級活動と人間関係づくり	学級活動とより良い人間関係づくりの意義 (岸田)				学級活動の課題レポート(4時間)			
10	生徒会活動の意義と展開と課題	生徒会活動の目標と意義、内容と指導について具体事例を通しての解説、生徒会活動を自主的・自治的活動とするための理念や方法 (征矢野)				テキスト第3章2節を読む(4時間)			
11	学校行事の意義と展開	学校行事の目標と意義、内容と指導について具体事例を通して解説(征矢野)				学校行事の課題レポート(4時間)			
12	学習指導案の作成	学習指導案の作成 (征矢野)				学習指導案の見直しと作成(4時間)			
13	模擬授業	模擬授業(1) 導入の工夫 (征矢野)				本時の模擬授業学習シートの記入(4時間)			
14	模擬授業	模擬授業(2) 発問・板書の工夫 (征矢野)				本時の模擬授業学習シートの記入(4時間)			
15	まとめ	特別活動の評価、時数、展開に関する解説、シェアリング (征矢野・岸田)				総合レポート(4時間)			
成績評価の方法・基準									
レポート:40% 出席レポート:30% 模擬授業:30% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、授業で学んだことを表現できる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

- ・模擬授業とレポートの提出を単位認定の条件とします。
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説書 特別活動編』を事前に読んでおいて下さい。

テキスト

- 「中学校学習指導要領 解説 特別活動編」（東山書房）（生協で購入してください。）
- 「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導 教育相談」有村久著（金子書房） ISBN: 978-4760823956（生協で購入してください。）

参考書

- 「新訂 キーワードで拓く新しい特別活動」日本特別活動学会編（東洋館出版社）
 - 「高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉解説 特別活動」（東京書籍）
 - 「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」（東山書房）
 - 「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」（東山書房）
- 他の参考書については、講義の中で指示します。

学修成果に対するフィードバックの方法

課題レポート、指導案の添削・評価によってフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

後半には、模擬授業を行い、実践的な授業力を高めるようにしています。

実務経験のある教員による授業

中学校教諭として25年、中学校教頭として4年、小学校長として3年、中学校長として5年勤務した。

科目名	総合的な学習の時間の指導法	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘・征矢野 達彦・松原 好広	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
総合的な学習の時間について、その概要や指導法を身につけます。課題を見付け、素材を分析し、自ら学び自ら考えるといった学習の計画方法や授業方法を身につけます。学習成果をICTや言語活動等を用いて表現する方法を学んでいきます。									
学修到達目標									
総合的な学習の時間の特性を生かして、素材・教材研究を行いながら、指導案を作成し、授業を行うことができる。									
授業の進め方									
講義のほか、具体的な素材研究や教材研究を進め、年間指導案の作成から学習指導案を作成し、模擬授業を展開します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	総合的な学習の時間の概要	ガイダンス及び総合的な学習の時間の概要について学びます。				テキストP1～9の改訂の要点をノートにまとめる。事後は目標を暗記する。(4時間)			
2	総合的な学習の時間の具体的な活動の様子	特色ある教育活動と横断的・総合的な指導の具体について学びます。				テキストP10～17を熟読してまとめる。事後は中学校の年間指導計画を入手し、比較する。(4時間)			
3	中学校における探究的な過程と共同的な学び	主体的で探究的な学習過程と共同的な学びについて理解します。				テキストP21～32の配慮事項を熟読し、事後はノートにまとめる。(4時間)			
4	地域の文化的特色を生かした学習(概要)	地域の文化的特色を生かした学習の授業概要について学びます。				テキストP33～43を熟読し内容についての配慮事項を理解する。事後はノートにまとめる。(4時間)			
5	地域の文化的特色を生かした学習(地域素材と分析)	生徒が資料を作成する際の留意点について学びます。				地域素材を生かした指導事例を数点検索し、特徴を理解する。事後はノートにまとめる。(4時間)			
6	地域の文化的特色を生かした学習(指導案作り)	教材研究及び指導案を作成します。				住んでいる地域の文化的素材を選定し、教材化を考えます。事後は授業展開を考えます。(4時間)			
7	地域の文化的特色を生かした学習(模擬授業)	模擬授業を行い、省察します。受講者同士で批評しあって、授業の進め方に慣れます。				展開案の点検と習熟(4時間)			
8	地域人材や施設を用いた授業	地域人材や地域の施設活用について学びます。				事前に地域の人材や施設について調査、検索によって資料を得る。事後はノートにまとめる。(4時間)			
9	様々な発表・表現の方法及び評価について	ポートフォリオを中心にして様々な発表方法について具体と評価の方法を学びます。				様々なポートフォリオの作成の仕方を調べる。(4時間)			
10	ICTを用いた提示方法	ICTの効果的な活用について学びます。電子黒板やPPT等の発表ツールを比較し、その特徴や有効な表現方法について考えます。				ICTの活用についてその効果や活用方法をノートにまとめる。(4時間)			
11	地域の自然的特色を生かした学習(概要)	地域の自然的特色を生かした学習の授業概要について学びます。				理科等の学習から教材になりそうな素材を洗い出す。事後はその展開案を考える。(4時間)			
12	地域の自然的特色を生かした学習(地域素材の分析)	生徒が資料を作成する際の留意点について学びます。				自然や環境問題等について地域の課題を整理する。事後は展開できそうな素材をまとめる。(4時間)			
13	地域の自然的特色を生かした学習(指導案作り)	素材研究から教材研究に発展させ、具体的な指導案を作成します。				指導案の略案を考える。事後は模擬授業の練習をする。(4時間)			
14	地域の自然的特色を生かした学習(模擬授業)	一人ひとり模擬授業を行い、省察します。				板書計画や教材を確認する。事後は模擬授業の反省をまとめる。(4時間)			
15	教科指導やその他の領域との関連及び評価について	教科学習や学級活動(特別活動)等と総合的な学習の時間の関連を、具体的な事例から学びます。また、評価の方法と考え方について学びます。				テキストP75～80について予習し、事後はノートにまとめる。(4時間)			
成績評価の方法・基準									

レポート：50% 課題：50%

S:授業内容を高度に理解し、指導案の作成や模擬授業で十分な指導力を発揮できる。A:授業内容を十分に理解し、指導案を作成して模擬授業では自分なりに工夫を凝らすことができる。B:知識的理解がおおむね良好で、模擬授業等の与えられた課題を行うことができる。C:学んだ知識を基にして、模擬授業を行うことができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

「総合的な学習の時間」の授業は、生徒自らが課題を見出し、解決するために方策を考え、追求していく学習です。従って教師はファシリテーション力が問われます。

テキスト

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1561-0（生協で購入してください。）

参考書

「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」（東山書房）
授業の中で指示します。

学修成果に対するフィードバックの方法

模擬授業のコメントや、リモートによる授業の場合には、コメントをつけて返却します。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

模擬授業ではICTを活用した授業構成を考えます。

実務経験のある教員による授業

教員として小中学校において総合的な学習の時間を担当していました。

科目名	教育方法論	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	田村 徳至	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保健)、高一(保健)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
基本的・伝統的な学習理論を整理した後、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学びます。また、ICTの活用を含めた模擬的な授業を開発する講義・演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得していきます。									
学修到達目標									
生徒の教育効果を上げることができる教育方法を理解している。学習指導要領の変遷、伝統的な学習理論、ICT・新聞等の具体的な活用方法を学ぶことを通して、教育活動における経験法則を学び、教育現場が抱えている方法的な課題解決の方法を説明することができる。授業記録の探究を通して、教育方法に関わるさまざまな理論を説明することができる。									
授業の進め方									
毎時間、授業の前半は前時の振り返りを行うことと本時の理論を概説します。後半は個人演習やグループワークを取り入れながら学修事項を確実に把握できるようにします。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	教育課程の基本要素と教育方法をめぐる諸問題について説明します。				教育課程の基本要素、さまざまな教育方法の特徴をノートにまとめる(4時間)			
2	学習理論	言語主義・主知主義・系統主義・5段階教授法について説明します。				言語主義・主知主義・系統主義・5段階教授法についてノートにまとめる(4時間)			
3	学習理論	児童中心主義・直観主義・経験主義・感覚主義について説明します。				児童中心主義・直観主義・経験主義・感覚主義についてノートにまとめる(4時間)			
4	学習理論	技能主義・問題解決主義・改造主義・実証主義について説明します。				技能主義・問題解決主義・改造主義・実証主義についてノートにまとめる(4時間)			
5	学習理論	行動主義・能力主義・個別主義・判例学習・その他について説明します。				行動主義・能力主義・個別主義・判例学習・その他の学習方法についてノートにまとめる(4時間)			
6	我が国における学習理論の展開	明治期から現代に至るまでの我が国の学習理論とその方法について学びます。				明治期～令和(現代)の代表的な学習理論をノートにまとめる(4時間)			
7	学習指導要領の変遷	戦後の我が国の学習指導要領の変遷と教育観について説明します。				昭和22年版～平成29・30年版の学習指導要領についてノートにまとめる(4時間)			
8	授業参観と授業分析の技法	授業参観と授業分析(ICTを活用した授業分析を含む)の基本を授業実践例(谷和樹先生の社会科授業)から学びます。				社会科を例として、授業参観の方法と分析技術についてノートにまとめる(4時間)			
9	授業参観と授業分析の技法	授業参観と授業分析(ICTを活用した授業分析を含む)の基本を授業実践例(下野六太先生の体育実技指導)から学びます。				保健体育科を例として、授業参観の方法と分析技法についてノートにまとめる(4時間)			
10	情報機器の活用	コンピュータ等の情報機器を活用した教育方法を学びます。				ICTを活用した学習で可能なこと・先進校の事例についてノートにまとめる(4時間)			
11	情報機器の活用	メディア教材を構成する方法を学びます。				コンピュータを活用した効果的な授業方法と先進校の取り組みをノートにまとめる(4時間)			
12	グループワーク	ファシリテーションの手法(マンダラ法・フィッシュボーン法)を活用した教育方法について学びます。				話し合い活動の充実と生徒が主体的な学習態度になるために必要なことをノートにまとめる(4時間)			
13	グループワーク	前時に作成したフィッシュボーン表を活用しながら、生徒が主体的な学習ができるようになるための方策を発表・評価・振り返りを行います。				他者の考えを見聞したことで、自分の教育方法について考えたことをノートにまとめる(4時間)			
14	新聞を活用した授業	今まで学んできた様々な学習理論を基に、新聞を活用した具体的な授業の実践方法を学びます。				自分が気になった新聞記事を読み、なぜ気になったのか、自分の感想等をまとめる(4時間)。			
15	教育方法のまとめ	各教科の授業に共通する教育方法について				自分の専門教科の教育方法についてノートにまとめる(4時間)			
成績評価の方法・基準									
課題:30% 受講態度:30% 出席レポート:40%									
S:学習方法に関する講義内容を確実に理解し、ICTや新聞を活用し、かつファシリテーションの手法全てを活用した授業展開ができる。									
A:講義内容を理解しており、主体的に授業に参加し、学習方法に関する課題を解決できる。B:講義内容のおおよそを理解しており、学習理論とファシリテーションの手法の一部またはICT・新聞を活用した授業展開をすることができる。									
C:講義内容の約60%程度を理解し、基本的な課題について解決することができる。									

<p>履修上の注意（学生へのメッセージ）</p> <p>毎時間、学修事項に関するリアクションペーパー（出席レポート）の記述を課す（100～300字）。グループワークを行うので積極的に参加してください。</p>
<p>テキスト</p> <p>「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1559-7（生協で購入してください。）各自、自分の専門教科（教員免許状取得教科）の学習指導要領解説編 各自、自分の専門教科（教員免許状取得教科）の学習指導要領 解説編』を各自で購入してください。</p>
<p>参考書</p> <p>「教育効果を可視化する学習科学」ジョン・ハッティイ著（北大路書房） 「日本の15歳はなぜ学力が高いのか？」ルーシー・クレハン著（早川書房） ISBN：978-4-15-209715-6 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」（東洋館出版社） 各自、自分の専門教科（教員免許状取得教科）の学習指導要領</p>
<p>学修成果に対するフィードバックの方法</p> <p>・毎回のリアクションペーパー（学生からの質問回答を含む）の内容を取り上げながら、前回の授業内容の振り返りをしていきます。</p>
<p>アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施</p> <p>第12～13回はファシリテーションの手法を活用したグループワークを行います。また、各回とも適時ミニワークを行う予定です。ファシリテーションについてはコロナウイルス感染状況による変更することがあります。</p>
<p>ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援</p> <p>第10回～11回はコンピュータを活用した教材づくりについて学習します。</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p> <p>・公立中学校に20年教員として勤務し、社会科を主としながら生徒の指導に携わりました。</p>

科目名	教育方法論（ICT活用を含む）	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	田村 徳至	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 （読替科目）					
関連資格	高一（商業）、高一（情報）、中一（社会）、高一（公民）、中一（保体）、高一（保体）、養教一、栄教一、中一（保健）、高一（保健）					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
基本的・伝統的な学習理論を整理した後、優れた実践者の授業から教育内容と教育方法を学びます。後半はICTの活用方法に関する理論を学習した後に、学習教材を作成する方法を学びます。									
学修到達目標									
生徒の学習効果を上げることができる教育理論・方法、ICT活用に関する理論・方法を理解している。学習指導要領の変遷、伝統的な学習理論を学ぶことを通じて、教育方法に関わる様々な理論を説明することができる。									
授業の進め方									
毎時間、授業の前半に前時の学習内容の振り返りを行います。後半は個人演習やグループワークを取り入れながら学習内容を確実に把握できるようにします。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	教育課程の基本要素と教育方法をめぐる諸問題について説明します。				教育課程の基本要素、さまざまな教育方法の特徴をノートにまとめる（4時間）			
2	学習理論	言語主義・主知主義・系統主義・5段階教授法について説明します。				言語主義・主知主義・系統主義・5段階教授法についてノートにまとめる（4時間）			
3	学習理論	児童中心主義・直観主義・経験主義・感覚主義について説明します。				児童中心主義・直観主義・経験主義・感覚主義についてノートにまとめる（4時間）			
4	学習理論	技能主義・問題解決主義・改造主義・実証主義について説明します。				技能主義・問題解決主義・改造主義・実証主義についてノートにまとめる（4時間）			
5	学習理論	行動主義・能力主義・個別主義・範例学習・その他について説明します。				行動主義・能力主義・個別主義・範例学習・その他の学習方法についてノートにまとめる（4時間）			
6	我が国における学習理論の展開	明治期から令和に至るまでの我が国の学習理論とその方法について説明します。				明治期～令和の代表的な学習理論をノートにまとめる（4時間）			
7	学習指導要領の変遷	戦後の我が国の学習指導要領の変遷とその内容について説明します。				我が国の戦後の学習指導要領の変遷についてノートにまとめる（4時間）			
8	情報活用能力（情報モラル・情報セキュリティを含む）育成の指導方法理論	情報活用能力（情報モラル・情報セキュリティを含む）育成の指導方法理論を説明します。				生徒の情報機器活用能力の現状を調べる（事前2時間）、情報モラルの重要性についてまとめる（事後2時間）			
9	オンライン教育に対応した効果的な教材作成と学習評価の理論	パーソナルコンピュータや電子黒板などを活用して教材作成に関する理論を解説します。				情報機器使用の長所・短所を調べる（事前2時間）、学習内容をまとめる（事後2時間）			
10	オンライン教育の意義とデジタル教材を活用した指導理論	オンライン教育の意義とデジタル教材を活用した指導理論を明します。				オンライン教育の意義について調べる（事前2時間）、学習内容をまとめる（事後2時間）			
11	ICTを活用した授業実践（社会科を例にして）	ICTを活用した小学校5年生の社会科授業の視聴後に、グループ内でその特徴と改善点について議論します。				社会科授業におけるICT活用予習（事前2時間）、授業のまとめ（事後2時間）			
12	ICTを活用した授業実践（体育を例にして）	ICTを活用した体育（主に陸上・マット運動）授業の視聴後に、グループ内でその特徴と改善点について議論します。				体育科授業におけるICT活用予習（事前2時間）、授業のまとめ（事後2時間）			
13	これからの学習環境・職場環境の効率化を進めるICT	現在の各学校における生徒の学習環境と教職員の職場環境の効率化を推進する具体的な方法について説明します。				現在の学校の学習環境の状況を調べる（事前2時間）、今後の学習環境のあり方をまとめる（事後2時間）			
14	ICTを活用した教材作成と模擬授業	プレゼンテーションソフトを活用し、授業教材（スライド資料）を作成する。完成後にグループ内で模擬授業を行います。				模擬授業の準備（事前2時間）授業後の振り返り（事後2時間）			
15	ICTを活用した教材作成と模擬授業	プレゼンテーションソフトを活用し、電子絵本を作成します。完成後にグループ内で模擬授業を行い、授業力を高める。何をどのように工夫すればより効果的な授業を行うことができるかについて議論します。				模擬授業の準備（事前2時間）授業後の振り返り（事後2時間）			
成績評価の方法・基準									

受講態度：30% 出席レポート：40% 課題：30%

履修上の注意（学生へのメッセージ）

毎時間、出席レポート（リアクションペーパー）を課します。課題も大切ですが、授業時の態度も重視します。

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1559-7（生協で購入してください。） 各自、自分の専門教科の学習指導要領解説編を購入してください。

参考書

「教育効果を可視化する学習科学」ジョン・ハッティ著（北大路書房）
「日本の15歳はなぜ学力が高いのか？」ルーシー・クレハン著（早川書房）

学修成果に対するフィードバックの方法

毎回の授業時に課すリアクションペーパー（出席レポート）の内容を取り上げ、学習内容を振り返ります。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

適時グループワークを取り入れながら学習内容の定着に努めます。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

第8回目の講義の後半からICT活用に関する内容を講義・演習を行います。

実務経験のある教員による授業

公立中学校の教員として、社会科の授業・学級担任・生徒指導・キャリア教育に携わってきた。

科目名	生徒指導概論(進路指導を含む。)	学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-01
担当者	藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	リ・コ・テ・イ(教育)、高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
生徒指導・進路指導はともに、生徒の個性の伸長を図りながら、社会的自立の基盤となる資質・能力を育む教育活動です。本講座では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けます。									
学修到達目標									
他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や思考力、状況判断力を身に付けている。									
授業の進め方									
講義と演習(ロールプレイ、ペアワーク・グループワーク、発表、討論等)を通じて学びます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	生徒指導・進路指導の意義と課題	生徒指導・進路指導の意義や役割、教育課程や校務分掌上の位置付け、課題について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
2	子どもの発達と生徒指導・進路指導	子どもの姿を発達の観点から理解し、生徒指導・進路指導に活かす方法について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
3	学習理論と行動変容	学習理論と行動変容法を生徒指導に活かす方法について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
4	学校で活かすストレスマネジメントの実際(1)	生徒指導上の諸課題の予防に活かすストレス・マネジメントの基礎と応用について、認知に焦点を当てて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
5	学校で活かすストレスマネジメントの実際(2)	生徒指導上の諸課題の予防に活かすストレス・マネジメントの基礎と応用について、感情に焦点を当てて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
6	学校で活かすストレスマネジメントの実際(3)	生徒指導上の諸課題の予防に活かすストレス・マネジメントの基礎と応用について、行動に焦点を当てて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
7	生徒指導上の諸課題の理解と対応(1)-発達に関する課題の理解と対応-	発達障害、愛着障害、虐待等、子どもの発達に関する課題の理解と対応について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
8	生徒指導上の諸課題の理解と対応(2)-反社会的行動の理解と対応-	反社会的行動の現状と背景、対応と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
9	生徒指導上の諸課題の理解と対応(3)-いじめの理解と対応-	いじめの定義の変遷、現状と背景、対応と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
10	生徒指導上の諸課題の理解と対応(4)-不登校の理解と対応-	不登校の現状と維持要因、対応と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
11	生徒指導上の諸課題の理解と対応(5)-インターネット依存の理解と対応-	インターネット依存の現状と背景、生活や人生への影響と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
12	生徒指導上の諸課題の理解と対応(5)-自殺予防-	自殺の現状と背景、自殺予防における学校・教職員の役割とチーム支援の実際について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
13	生徒指導上の事例とチーム支援	生徒指導上の具体的な事例への対応とチーム支援について、討論を通じて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
14	家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導上の諸課題に対応するための家庭・地域・関係機関との連携について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
15	進路指導・キャリア教育とキャリア・カウンセリング	学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の視点とキャリア・カウンセリングについて学びます。また、キャリア教育と生徒指導の関係について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
成績評価の方法・基準									
レポート:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
発展的な学習として、関連する文献を積極的に読み、生徒指導・進路指導に関する理解を深め、実践に生きる力を養ってください。
テキスト
「生徒指導提要」文部科学省著（教育図書） ISBN:978-4877302740（生協で購入してください。）
参考書
参考文献は、授業時に紹介します。
学修成果に対するフィードバックの方法
レポートや課題について、講評・解説の時間を設けます。また、学修成果を学生間で共有する機会を設けます。
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク、発表、討論等を行います。
ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援
講義・演習、学生間の学修成果の共有等にICTを活用します。
実務経験のある教員による授業
学校・教育委員会・研修センター等における実務経験、スクールカウンセラーとしての経験に、専門領域（教育学、臨床心理学、生涯発達科学）の観点を加えて授業を行います。

科目名	生徒指導概論	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-01
担当者	藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	レ・コ・デ・イ(教育)、養教一、栄教一					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動です。本講座では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けます。									
学修到達目標									
他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や思考力、状況判断力を身に付けている。									
授業の進め方									
講義と演習(ロールプレイ、ペアワーク・グループワーク、発表、討論等)を通じて学びます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	生徒指導の意義と課題	生徒指導の意義や役割、教育課程や校務分掌上の位置付け、課題について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
2	子どもの発達と生徒指導	子どもの姿を発達の観点から理解し、生徒指導に活かす方法について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
3	学習理論と行動変容	学習理論と行動変容法を生徒指導に活かす方法について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
4	学校で活かすストレスマネジメントの実際(1)	生徒指導上の諸課題の予防に活かすストレス・マネジメントの基礎と応用について、認知に焦点を当てて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
5	学校で活かすストレスマネジメントの実際(2)	生徒指導上の諸課題の予防に活かすストレス・マネジメントの基礎と応用について、感情に焦点を当てて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
6	学校で活かすストレスマネジメントの実際(3)	生徒指導上の諸課題の予防に活かすストレス・マネジメントの基礎と応用について、行動に焦点を当てて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
7	生徒指導上の諸課題の理解と対応(1) - 発達に関する課題の理解と対応 -	発達障害、愛着障害、虐待等、子どもの発達に関する課題の理解と対応について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
8	生徒指導上の諸課題の理解と対応(2) - 反社会的行動の理解と対応 -	反社会的行動の現状と背景、対応と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
9	生徒指導上の諸課題の理解と対応(3) - いじめの理解と対応 -	いじめの定義の変遷、現状と背景、対応と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
10	生徒指導上の諸課題の理解と対応(4) - 不登校の理解と対応 -	不登校の現状と維持要因、対応と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
11	生徒指導上の諸課題の理解と対応(5) - インターネット依存の理解と対応 -	インターネット依存の現状と背景、生活や人生への影響と予防について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
12	生徒指導上の諸課題の理解と対応(5) - 自殺予防 -	自殺の現状と背景、自殺予防における学校・教職員の役割とチーム支援の実際について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
13	生徒指導上の事例とチーム支援	生徒指導上の具体的な事例への対応とチーム支援について、討論を通じて学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
14	家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導上の諸課題に対応するための家庭・地域・関係機関との連携について学びます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
15	予防的教育の実際	学習した内容を踏まえ、予防的教育の方法について考えます。				授業の内容に関わるレポート(4時間)			
成績評価の方法・基準									
レポート：50% S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A: 授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

発展的な学習として、関連する文献を積極的に読み、生徒指導に関する理解を深め、実践に生きる力を養ってください。

テキスト

「生徒指導提要」文部科学省著（教育図書） ISBN:978-4877302740（生協で購入してください。）

参考書

参考文献は、授業時に紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

レポートや課題について、講評・解説の時間を設けます。また、学修成果を学生間で共有する機会を設けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク、発表、討論等を行います。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

講義・演習、学生間の学修成果の共有等にICTを活用します。

実務経験のある教員による授業

学校・教育委員会・研修センター等における実務経験、スクールカウンセラーとしての経験に、専門領域（教育学、臨床心理学、生涯発達科学）の観点を加えて授業を行います。

科目名	教育相談	学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ`リング		研究室	W-01
担当者	藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	水曜日1限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、栄教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
教師が、学校において行う教育相談に関する理論を学ぶとともに、教育現場を想定した実践的な力も育成します。はじめに、学校教育における生徒と教師の関係性やカウンセリング理論の基礎について学習します。その後、教育相談における具体的な事例を交えながら、生徒および保護者に対する支援の方法について理解し応用的な力を伸ばします。									
学修到達目標									
学校における教育相談に関する様々な知見を習得するとともに、教師として、カウンセリング理論に基づいた基本的な教育相談の活動を学校教育の中で実践的に展開できるようにする。									
授業の進め方									
講義形式の授業、および、具体的な相談事例を通して、教育相談およびカウンセリングに関する基礎的な理論を学修します。また、ロールプレイを用いた演習を取り入れ、それらの理論を実践的に学びます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	はじめに	受講者のこれまでの体験をもとに、教育相談の意義について理解を深めるとともに、学校において教師が担う相談に関する課題についても考えます。				教育相談の役割についてレポートを作成する。(4時間)			
2	教育相談における教師	学校において、相談を受ける立場にある教師自身の自己理解について考察します。「エゴグラム」の理論をもとに、受講者自身の性格の傾向についても、演習課題を通して理解します。				エゴグラムに関するレポートを作成する。(4時間)			
3	教育相談における生徒	相談の当事者である生徒に対する理解を深めます。「自我同一性」「自立と依存」「家族関係」などを鍵概念に、発達段階の特性について正しく認識します。				発達段階に関するレポートを作成する。(4時間)			
4	教育相談におけるカウンセリング理論	来談者中心療法における重要な「傾聴」「受容」「共感」の考え方について学ぶとともに、ロールプレイを通してそれらの鍵概念を体得します。				来談者中心療法に関するレポートを作成する。(4時間)			
5	教育相談における関係性理論	相談(カウンセリング)における課題について、「転移」「逆転移」の鍵概念を取り上げます。学校における教育相談中で起こりうる対人関係の事例を取り上げながら、理解を深めます。				転移・逆転移に関するレポートを作成する。(4時間)			
6	教育相談における生徒理解の方法	生徒の文章や作品を通して、生徒理解を深める方法について学びます。投影法の「SCT」「PFスタディ」などを実習した後、実際の事例についても触れます。				投影法に関するレポートを作成する。(4時間)			
7	教育相談における心理的交流の方法	「交流分析」「アサーション」の理論を通して、より適切な心理的交流のあり方について学習します。ロールプレイにより、理解をさらに深めていきます。				交流分析・アサーションに関するレポートを作成する。(4時間)			
8	中間のまとめ	前半の講義に関する振り返りの課題に取り組みます。また、グループ学習や発表を通して学修を深めます。				授業前半の振り返りのレポートを作成する。(4時間)			
9	教育相談による生徒支援不登校の事例	教育相談における不登校に関する事例を取り上げ、多角的に考察します。発達課題とともに、家族関係を含めた生育環境や学校における人間関係という視点から、理解を深めます。				不登校事例に関するレポートを作成する。(4時間)			
10	教育相談による生徒支援いじめの事例	教育相談におけるいじめに関する事例を取り上げ、多角的に考察します。SNSを介したいじめにも注目し、その特徴を読み解きながら、対応の仕方についても考えます。				いじめに関するレポートを作成する。(4時間)			
11	教育相談による生徒支援非行・虐待・体罰などの事例	教育相談での非行・虐待・体罰に関する事例を取り上げます。非行は家族や友人関係について、虐待は家族関係について、体罰は生徒教師関係について考察し、対応する力を養います。				非行・虐待・体罰に関するレポートを作成する。(4時間)			
12	教育相談による保護者支援	教育相談を活用した保護者支援について学びます。援助の必要な貧困家庭を例に上げ、保護者支援のアプローチについて、具体的な対応方法を学びます。				保護者支援に関するレポートを作成する。(4時間)			
13	校内における教育相談体制の構築	教育相談における組織的な取り組みの必要性について学びます。校内の援助資源の有効活用を考えながら、事例に沿った支援会議を演習します。				支援会議の事例に関するレポートを作成する。(4時間)			
14	教育相談における他機関との連携	学校内のみならず、地域の専門機関(医療、福祉、行政)との連携支援の大切さを理解し、その考え方や具体的な連携の方法を学びます。				他機関との連携に関するレポートを作成する。(4時間)			
15	まとめ	学校において教育相談を実施することの意義を再考するとともに、相談場面における具体的な方法についても振り返ります。話し合い活動を通して、今後の課題について検討します。				授業後半の振り返りのレポートを作成する。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
レポート:50% 小テスト:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
理論的な学習に加えて、ペア・ワークやグループワーク等を通して実践的に学びます。授業で扱うテーマに関わる文献を積極的に読み、演習、レポート、課題に反映させてください。
テキスト
授業の中で資料を配布します。
参考書
「スクールカウンセラー実践活動事例集」文部科学省編 「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」文部科学省 編
学修成果に対するフィードバックの方法
提出された課題のフィードバックのために、講評・解説の時間を設けます。
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
ペア・ワーク、グループ・ワーク、意見交換等を行います。
ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援
授業や学生相互の意見交換にICTを活用します。
実務経験のある教員による授業
学校・教育委員会・研修センターにおける実務、スクールカウンセラーとしての経験に、専門領域（教育学・臨床心理学・教育心理学）の観点を加え、授業を行います。

科目名	教育実習事前指導	学年学期	3年後期	単位数	1	ナバリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
教育実習をより円滑・効果的に行うための授業です。学部における教育と教育実習との間の距離をできるだけ少なくし、教育実習に抵抗感なく臨めるよう教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主たるねらいとします。併せて、教員に求められる資質や能力等について理解を深めるとともに、自身の学びが不十分な分野等について理解・把握し、教育実習に向けて必要不可欠な準備を進めることがねらいです。									
学修到達目標									
教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につける。教員に求められる資質や能力等について理解を深めるとともに、自身の学びが不十分な分野等について理解・把握し、学びを深め課題解決等に取り組み、教育実習に臨めるようになる。									
授業の進め方									
教育実習の認識を深めるとともに、教育実習の実際を知る機会を提供します。また、教育実習に臨むにあたり、課題や素朴な疑問等について意見交換等をし、教育実習に臨む課題や不安等を解消し、教育実習に臨む準備を整える機会を提供します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	事前指導ガイダンス	・教育実習事前指導の位置づけ ・授業内容と進め方 ・教育実習報告会の持ち方について					本時の学修内容の整理・記録(2時間)		
2	教育実習に向けての課題等の検討	教育実習に向けての課題や素朴な疑問点等についてグループ討議をし、まとめる					各自の課題の洗い出しとまとめ(4時間)		
3	教育実習に向けて先輩から学ぶ	前時にまとめた課題や疑問点等について、先輩との意見交換をとおして理解を深める					先輩の意見・助言等についてまとめる(4時間)		
4	教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。					本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)		
5	教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。					本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)		
6	教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。					本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)		
7	ICTを活用した授業実践について	ICTを活用した授業について、外部講師をお招きし、学校現場の具体的な授業実践について学ぶ。					事前にICTの活用法について情報収集をしておく。授業レポート提出(4時間)		
8	教育実習に向けて	教育実習に向けて 教育実習報告会の総括 教職に就く意思 教育実習の心得と事前準備					学校現場の課題について考えておく。授業後レポートの提出(4時間)		
成績評価の方法・基準									
受講態度:40% 出席レポート:20% レポート:40% S:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、期待以上の成果を上げることができた。A:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、期待どおりの成果を上げることができた。B:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、十分な成果を上げることができた。C:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、実習に臨むことができる成果を上げることができた。									
履修上の注意(学生へのメッセージ)									
教育実習を履修する者は必ず履修してください。									
テキスト									
テキストは使用しません。 講義内容に応じて、必要な資料を配布します。									
参考書									
講義の中で随時、参考となる書籍等について紹介します。									
学修成果に対するフィードバックの方法									
受講レポート等に記載された内容を分析・整理し、質問や理解が不十分と思われる内容等については、受講者全員に共通する内容として受け止め、講義の中で取り上げ補足説明等を行いフィードバックします。									
アクティブラーニング(双方向型授業等)の実施									
受講者自身が抱える課題等について整理・発表し、抱えている課題解決を図るとともに、今後の学修課題が具体的に認識できるように、全員で意見交換(質疑応答)を行います。									

実務経験のある教員による授業

学校現場の教員として、また、管理職としての経験を踏まえ、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的基本的な知識理解や、教員に求められる資質能力等の向上を図ります。

科目名	教育実習（中免）	学年学期	4年通年	単位数	4	ナパリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者（中免取得者）			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	中一(社会)、中一(保体)、中一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本科目は中学校教諭免許状を取得するために必要な教育実習です。教育実習期間は原則として3週間です。教育実習では、学習指導、生徒指導、教育相談、進路指導、学級経営、特別活動、部活動等に関する現在の学校教育の実際の姿について理解を深め、基本的な教育技術の基礎を修得していきます。</p>									
学修到達目標									
<p>授業分析、授業計画の作成、教材開発等にも十分な時間を取り、授業についての理解を深めるとともに、授業技術の基礎を身につけており、実習生それぞれの状況に応じた実習カリキュラムを作成することができる。また、学級経営や課外活動への参加等、教育現場で行われている授業以外の教育活動に参加することにより、教育実践の全体構造について理解する。</p>									
授業の進め方									
<p>教育実習生は原則として3週間の教育実習を行います。教育実習を行うためには3年次に『教育実習事前指導』を受講し、予め3年次に実習校への内諾を得ておく必要があります。</p>									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	教育実習直前ガイダンス	教育実習に臨むための留意点等を最終確認します。				教育実習に臨むための準備状況を確認し、不十分な点があれば整える。（4時間）			
2	教育実習（3週間）	生徒の心理・行動の理解、教師の仕事の理解、教育課程、学習指導等の実践的理解と教育技術の基礎の修得、自己研鑽課題の発見				実習校との打合せ、指導案の作成等。事後は振り返りや実習校へのあいさつなど（4時間）			
3	事後指導1：教育実習報告会に向けて	教育実習報告会の持ち方について				教育実習報告会資料の準備（1時間）			
4	事後指導2：教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
5	事後指導3：教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
6	事後指導4：教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
成績評価の方法・基準									
<p>実技：100% 教育実習校からの「教育実習評価報告票」（添付資料）の評価、事後指導の評価及び実習校への訪問指導教員の評価を総合的にみて評価をする。S：授業をはじめ教育活動に積極的に取り組み、期待以上の成果を上げることができた。A：授業をはじめや教育活動に積極的に取り組み、期待どおりの成果を上げることができた。B：授業をはじめ教育活動に積極的に取り組み、十分な成果を上げることができた。C：授業をはじめ教育活動に積極的に取り組み、成果を上げることができた。</p>									
履修上の注意（学生へのメッセージ）									
<p>教育実習を行うためには、履修条件が設けられています。履修条件については、「教職課程履修要項（教職課程履修の手引き）」等に記載しています。</p>									
テキスト									
<p>実習校の指示に従ってください。</p>									
参考書									
<p>実習校で使用するテキスト、副読本</p>									
学修成果に対するフィードバックの方法									
<p>実習終了後に提出される報告書等の内容を分析・評価し、成果と今後の課題を、フィードバックします。</p>									
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施									
<p>個々の学修成果を発表し、ディスカッションを行います。</p>									
実務経験のある教員による授業									
<p>学校現場の教員及び管理職としての勤務経験を活かし、教員に求められる資質能力の向上を図り、実践力の向上につなげます。</p>									

科目名	教育実習（高免のみ）	学年学期	4年通年	単位数	2	ナバリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子	必修選択	必修	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者（高免のみ）			履修対象入学年度 （読替科目）					
関連資格	高一（商業）、高一（情報）、高一（地歴）、高一（公民）、高一（保体）、高一（保健）、高一（英語）					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本科目は高等学校教諭免許状のみを取得するために必要な教育実習です。教育実習期間は原則として2週間です。教育実習では、学習指導、生徒指導、教育相談、進路指導、学級経営、特別活動、部活動等に関する現在の学校教育の実際の姿について理解を深め、基本的な教育技術の基礎を修得していきます。</p>									
学修到達目標									
<p>授業分析、授業計画の作成、教材開発等にも十分な時間を取り、授業についての理解を深めるとともに、授業技術の基礎を身につけており、実習生それぞれの状況に応じた実習カリキュラムを作成することができる。また、級経営や課外活動への参加等、教育現場で行われている授業以外の教育活動に参加することにより、教育実践の全体構造について理解している。</p>									
授業の進め方									
<p>教育実習生は原則として2週間の教育実習を行います。教育実習を行うためには3年次に『教育実習事前指導』を受講し、予め3年次に実習校への内諾を得ておく必要があります。</p>									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	教育実習直前ガイダンス	教育実習に臨むための留意点等を最終確認します。				教育実習に臨むための準備状況を確認し、不十分な点があれば整える。（4時間）			
2	教育実習（2週間）	生徒の心理・行動の理解、教師の仕事の理解、教育課程、学習指導等の実践的理解と教育技術の基礎の修得、自己研鑽課題の発見				実習校との打合せ、指導案の作成			
3	事後指導1：教育実習報告会に向けて	教育実習報告会の持ち方について				教育実習報告会資料の準備（1時間）			
4	事後指導2：教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
5	事後指導3：教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
6	事後指導4：教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
成績評価の方法・基準									
<p>実技：100% 教育実習校からの「教育実習評価報告票」（添付資料）の評価、事後指導の評価及び実習校への訪問指導教員の評価を総合的にみて評価をする。S：授業をはじめ教育活動に積極的に取り組み、期待以上の成果を上げることができた。A：授業をはじめや教育活動に積極的に取り組み、期待どおりの成果を上げることができた。B：授業をはじめ教育活動に積極的に取り組み、十分な成果を上げることができた。C：授業をはじめ教育活動に積極的に取り組み、成果を上げることができた。</p>									
履修上の注意（学生へのメッセージ）									
<p>教育実習を行うためには、履修条件が設けられています。履修条件については、「教職課程履修要項（教職課程履修の手引き）」等に記載しています。</p>									
テキスト									
<p>実習校の指示に従ってください。</p>									
参考書									
<p>実習校で使用するテキスト、副読本</p>									
学修成果に対するフィードバックの方法									
<p>実習終了後に提出される報告書等の内容を分析・評価し、成果と今後の課題を、フィードバックします。</p>									
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施									
<p>個々の学修成果を発表し、ディスカッションを行います。</p>									
実務経験のある教員による授業									
<p>学校現場の教員及び管理職としての勤務経験を活かし、教員に求められる資質能力の向上を図り、実践力の向上につなげます。</p>									

科目名	養護実習事前指導	学年学期	3年後期	単位数	1	ナパリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子・中島 節子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	養教一					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
教育実習をより円滑・効果的に行うための授業です。学部における教育と教育実習との間の距離をできるだけ少なくし、教育実習に抵抗感なく臨めるよう教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主たるねらいとします。併せて、養護教諭に求められる資質や能力等について理解を深めるとともに、自身の学びが不十分な分野等について理解・把握し、教育実習に向けて必要不可欠な準備を進めることがねらいです。									
学修到達目標									
教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につける。養護教諭に求められる資質や能力等について理解を深めるとともに、自身の学びが不十分な分野等について理解・把握し、学びを深め課題解決等に取り組み、教育実習に臨めるようになる。									
授業の進め方									
教育実習の認識を深め、教育実習の実際を知る機会を提供します。また、教育実習に臨むにあたり、課題や素朴な疑問等について意見交換等をし、教育実習に臨む課題や不安等を解消し、教育実習に臨む準備を整える機会を提供します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	事前指導ガイダンス	・養護実習事前指導の位置づけ ・授業内容と進め方 ・教育実習報告会の持ち方について				本時の学修内容の整理・記録(2時間)			
2	教育実習に向けての課題等の検討	教育実習に向けての課題や素朴な疑問点等についてグループ討議をし、まとめる				各自の課題の洗い出しとまとめ(4時間)			
3	教育実習に向けて先輩から学ぶ	前時にまとめた課題や疑問点等について、先輩との意見交換をとおして理解を深める				先輩の意見・助言等についてまとめる(4時間)			
4	教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。				本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)			
5	教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。				本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)			
6	教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。				本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)			
7	ICTを活用した授業実践について	ICTを活用した授業について、外部講師をお招きし、学校現場の具体的な授業実践について学ぶ。				事前にICTの活用法について情報収集をしておく。授業レポート提出(4時間)			
8	教育実習に向けて	教育実習に向けて 教育実習報告会の総括 教職に就く意思 教育実習の心得と事前準備				学校現場の課題について考えておく。授業後レポートの提出(4時間)			
成績評価の方法・基準									
受講態度：40% 出席レポート：20% レポート：40% S：教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、実習に臨む期待以上の成果を上げることができた。A：教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、実習に臨む期待通りの成果を上げることができた。B：教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、実習に臨む十分な成果を上げることができた。C：教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、実習に臨むことができる成果を上げることができた。									
履修上の注意(学生へのメッセージ)									
教育実習を履修する者は必ず履修してください。									
テキスト									
テキストは使用しません。 講義内容に応じて、必要な資料を配布します。									
参考書									
講義の中で随時、参考となる書籍等について紹介します。									
学修成果に対するフィードバックの方法									
受講レポート等に記載された内容を分析・整理し、質問や理解が不十分と思われる内容等については、受講者全員に共通する内容として受け止め、講義の中で取り上げ補足説明等を行いフィードバックします。									
アクティブラーニング(双方向型授業等)の実施									
受講者自身が抱える課題等について整理・発表し、抱えている課題解決を図るとともに、今後の学修課題が具体的に認識できるように、全員で意見交換(質疑応答)を行います。									

実務経験のある教員による授業

学校現場の教員として、また、管理職としての経験を踏まえ、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的基本的な知識理解や、教員に求められる資質能力等の向上を図ります。

科目名	養護実習	学年学期	4年通年	単位数	4	ナバリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子・中島 節子	必修選択	必修	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者（養教）			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	養教一					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本科目は養護教諭免許状を取得するために必要な教育実習です。教育実習期間は原則として3週間です。教育実習では、保健室経営を主に取り組み、併せて、学習指導、生徒指導、教育相談、進路指導、学級経営、特別活動、部活動等に関する現在の学校教育の実際の姿について理解を深め、基本的な教育技術の基礎を修得していきます。</p>									
学修到達目標									
<p>保健室経営に必要な基本的な知識・実践力を身につける。また、学校行事や学級経営、授業等、学校現場で行われている教育活動に積極的に取り組むことにより、教育実践の実際と全体構造について理解を深める。</p>									
授業の進め方									
<p>教育実習生は原則として3週間の教育実習を行います。教育実習を行うためには3年次に『養護実習事前指導』を受講し、予め3年次に実習校への内諾を得ておく必要があります。</p>									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	教育実習直前ガイダンス	教育実習に臨むための留意点等を最終確認します。				教育実習に臨むための準備状況を確認し、不十分な点があれば整える。（4時間）			
2	教育実習（3週間）	保健室経営の実践的な理解と必要な基本的な知識・技術の習得及び、生徒の心理・行動の理解、教員の仕事の理解、教育課程、学習指導等の実践的理解と教育技術の基礎の修得、自己研鑽課題の発見。				実習校との打合せ、実習計画や指導案の作成等。事後は実習の振り返りなど（4時間）			
3	事後指導1：教育実習報告会に向けて	教育実習報告会の持ち方について				教育実習報告会資料の準備（1時間）			
4	事後指導2：教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
5	事後指導3：教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
6	事後指導4：教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
成績評価の方法・基準									
<p>実技：100% 評価方法は教育実習校からの「教育実習評価報告票」（添付資料）の評価、事後指導の評価及び実習校への訪問指導教員の評価を総合的にみて評価をする。 S：保健室経営や教育活動に取り組み、期待以上の成果を上げることができた。A：保健室経営や教育活動に取り組み、期待どおりの成果を上げることができた。 B：保健室経営や教育活動に取り組み、十分な成果を上げることができた。C：保健室経営や教育活動に取り組み、成果を上げることができた。</p>									
履修上の注意（学生へのメッセージ）									
<p>教育実習を行うためには、履修条件が設けられています。履修条件については、「教職課程履修要項（教職課程履修の手引き）」等に記載しています。</p>									
テキスト									
<p>実習校の指示に従ってください。</p>									
参考書									
<p>実習校で使用するテキスト、副読本</p>									
学修成果に対するフィードバックの方法									
<p>実習終了後に提出される報告書等の内容を分析・評価し、成果と今後の課題を、フィードバックします。</p>									
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施									
<p>個々の学修成果を発表し、ディスカッションを行います。</p>									
実務経験のある教員による授業									
<p>学校現場の教員及び管理職としての勤務経験を活かし、教員に求められる資質能力の向上を図り、実践力の向上につなげます。</p>									

科目名	栄養教育実習事前指導	学年学期	3年後期	単位数	1	ナパリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子・廣田直子	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	栄教一					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
教育実習をより円滑・効果的に行うための授業です。学部における教育と教育実習との間の距離をできるだけ少なくし、教育実習に抵抗感なく臨めるよう教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主たるねらいとします。併せて、栄養教諭に求められる資質や能力等について理解を深めるとともに、自身の学びが不十分な分野等について理解・把握し、教育実習に向けて必要不可欠な準備を進めることがねらいです。									
学修到達目標									
教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につける。栄養教諭に求められる資質や能力等について理解を深めるとともに、自身の学びが不十分な分野等について理解・把握し、学びを深め課題解決等に取り組み、教育実習に臨めるようになる。									
授業の進め方									
教育実習の認識を深めるとともに、教育実習の実際を知る機会を提供します。また、教育実習に臨むにあたり、課題や素朴な疑問等について意見交換等をし、教育実習に臨む課題や不安等を解消し、教育実習に臨む準備を整える機会を提供します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	事前指導ガイダンス	・栄養教育実習事前指導の位置づけ ・授業内容と進め方 ・教育実習報告会の持ち方について				本時の学修内容の整理・記録(2時間)			
2	教育実習に向けての課題等の検討	教育実習に向けての課題や素朴な疑問点等についてグループ討議をし、まとめる				各自の課題の洗い出しとまとめ(4時間)			
3	教育実習に向けて先輩から学ぶ	前時にまとめた課題や疑問点等について、先輩との意見交換をとおして理解を深める。				先輩の意見・助言等についてまとめる(4時間)			
4	教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。				本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)			
5	教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。				本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)			
6	教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について、教育実習を終えた4年次生の発表を聞き、教育実習と教職についての理解を深める。				本時の学修内容の整理・記録。授業レポート提出(4時間)			
7	ICTを活用した授業実践について	ICTを活用した授業について、外部講師をお招きし、学校現場の具体的な授業実践について学ぶ。				事前にICTの活用法について情報収集をしておく。授業レポート提出(4時間)			
8	教育実習に向けて	教育実習に向けて 教育実習報告会の総括 教職に就く意思 教育実習の心得と事前準備				学校現場の課題について考えておく。授業後レポートの提出(4時間)			
成績評価の方法・基準									
受講態度:40% 出席レポート:20% レポート:40% S:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、期待以上の成果を上げることができた。A:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、期待通りの成果を上げることができた。B:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、十分な成果を上げることができた。C:教育実習に際して必要な事柄について理解・修得し、実習に臨むことができる成果を上げることができた。									
履修上の注意(学生へのメッセージ)									
教育実習を履修する者は必ず履修してください。									
テキスト									
テキストは使用しません。 講義内容に応じて、必要な資料を配布します。									
参考書									
講義の中で随時、参考となる書籍等について紹介します。									
学修成果に対するフィードバックの方法									
受講レポート等に記載された内容を分析・整理し、質問や理解が不十分と思われる内容等については、受講者全員に共通する内容として受け止め、講義の中で取り上げ補足説明等を行いフィードバックします。									
アクティブラーニング(双方向型授業等)の実施									
受講者自身が抱える課題等について整理・発表し、抱えている課題解決を図るとともに、今後の学修課題が具体的に認識できるように、全員で意見交換(質疑応答)を行います。									

実務経験のある教員による授業

学校現場の教員として、また、管理職としての経験を踏まえ、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的基本的な知識理解や、教員に求められる資質能力等の向上を図ります。

科目名	栄養教育実習	学年学期	4年通年	単位数	1	ナパリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子・廣田直子	必修選択	必修	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者（栄免）			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格						ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本科目は栄養教諭免許状を取得するために必要な教育実習です。教育実習期間は原則として1週間です。教育実習では、栄養教諭として求められる基本的な教育技術の基礎を修得するとともに、学習指導、生徒指導、教育相談、進路指導、学級経営、特別活動、部活動等に関する現在の学校教育の実際の姿について理解を深め、基本的な教育技術の基礎を修得します。</p>									
学修到達目標									
<p>栄養教諭に求められる基本的な知識・実践力を身につける。また、学校行事や学級経営、授業等、学校現場で行われている教育活動に積極的に取り組むことにより、教育実践の実際と全体構造について理解を深める。</p>									
授業の進め方									
<p>教育実習生は原則として1週間の教育実習を行います。教育実習を行うためには3年次に『栄養教育実習事前指導』を受講し、予め3年次に実習校への内諾を得ておく必要があります。</p>									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	教育実習直前ガイダンス	教育実習に臨むための留意点等を最終確認します。				教育実習に臨むための準備状況を確認し、不十分な点があれば整える。（4時間）			
2	教育実習（1週間）	栄養教諭としての実践的な理解と必要な基本的な知識・技術の習得及び、生徒の心理・行動の理解、教員の仕事の理解、教育課程、学習指導等の実践的理解と教育技術の基礎の修得、自己研鑽課題の発見。				実習校との打合せ、指導案の作成等。事後は振り返りや実習校へのあいさつなど（4時間）			
3	事後指導1：教育実習報告会に向けて	教育実習報告会の持ち方について				教育実習報告会資料の準備（1時間）			
4	事後指導2：教育実習Aグループ報告会	Aグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
5	事後指導3：教育実習Bグループ報告会	Bグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
6	事後指導4：教育実習Cグループ報告会	Cグループの発表・報告 学習指導案作りを含めた授業準備の取り組み状況について 授業で困ったこと、指導教諭から指摘された点など これから教育実習をする後輩への助言				教育実習報告会資料の準備と本時のまとめ（1時間）			
成績評価の方法・基準									
<p>実技：100% 評価方法は教育実習校からの「教育実習評価報告票」（添付資料）の評価、事後指導の評価及び実習校への訪問指導教員の評価を総合的にみて評価をする。 S：栄養教諭としての職務や教育活動に取組、期待以上の成果を上げることができた。A：栄養教諭としての職務や教育活動に取組、期待どおりの成果を上げることができた。B：栄養教諭としての職務や教育活動に取組、十分な成果を上げることができた。C：栄養教諭として職務や教育活動に取組、成果を上げることができた。</p>									
履修上の注意（学生へのメッセージ）									
<p>教育実習を行うためには、履修条件が設けられています。履修条件については、「教職課程履修要項（教職課程履修の手引き）」等に記載しています。</p>									
テキスト									
<p>実習校の指示に従ってください。</p>									
参考書									
<p>実習校で使用するテキスト、副読本</p>									
学修成果に対するフィードバックの方法									
<p>実習終了後に提出される報告書等の内容を分析・評価し、成果と今後の課題を、フィードバックします。</p>									
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施									
<p>個々の学修成果を発表し、ディスカッションを行います。</p>									
実務経験のある教員による授業									
<p>学校現場の教員及び管理職としての勤務経験を活かし、教員に求められる資質能力の向上を図り、実践力の向上につなげます。</p>									

科目名	教職実践演習（総経）	学年学期	4年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・小松 茂美・藤江 玲子・室谷 心	必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
対象：地歴・公民・福祉・商業・情報・社会 大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身につけているかどうかを各自に点検させ、受講生に現時点での自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。									
学修到達目標									
目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 生徒理解の能力及び生徒指導能力 教科の専門的知識及び指導力 学級経営能力 を身につける。									
授業の進め方									
「今後の自己の課題を見出す教職実践演習」をテーマとして、教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の趣旨と目的 授業の進め方等について説明します。				ガイダンスの内容を確認・整理・記録（4時間）			
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議				事前学習：期待される教員像 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
3	「学校・家庭・地域の連携及び協働」	「学校・家庭・地域の連携及び協働」について				事前課題：学校・家庭・地域の連携・協働の在り方／グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解について グループ討議・ロールプレイ				事前学習：子ども理解 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
5	生徒指導上の諸問題	生徒指導上の諸問題 グループ討議（校則・校内 規律を中心として）				事前学習：校則 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
6	生徒指導上の諸問題	児生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の 問題行動を中心として）				事前学習：問題行動 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
7	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） グループ討議（いじめ・不登校を中心に）				事前学習：いじめの現状 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） 発達障害の子どもの理解とその対応の仕方				事前学習：発達障害について グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）				事前学習：メディアリテラシーについて／グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）				事前学習：学校の危機管理 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教員に求められる人権感覚）（外部講師）				事前学習：学校現場の人権 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
12	教材研究と指導案の作成	教材研究と指導案の作成 地歴・公民・中学社会の授業を例として				事前学習：指導案 授業内容を確認し整理・記録する（4時間）			
13	指導案に基づく授業の実践と再検討	指導案に基づく授業の実践と再検討 情報・福祉の授業を例として				事前学習：模擬授業の準備 授業内容を確認し整理・記録する（4時間）			
14	学校におけるICT機器の効果的な活用法	学校におけるICT機器の効果的な活用法 グループ討議				事前学習：ICTの活用法 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポートのテーマについて 受講生各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定				事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出（4時間）			
成績評価の方法・基準									
受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% S：探究的な姿勢で意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを十分に理解した適切な内容である。他者の意見も踏まえ、建設的な意見も言える。 A：意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを理解した内容である。他者の意見を踏まえ、自分の意見が言える。B：概ね意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを概ね把握した内容である。自分の意見が言える。C：課題のねらいを概ね踏まえて、学習活動ができ、何とか自分の意見が言える。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

教職課程のまとめとなる授業です。積極的に参加し、見識を深め知識や技能を確実に身につけましょう。

テキスト

使用しません。

参考書

授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

学習のポートフォリオとリフレクションシートでフィードバックします。

科目名	教職実践演習（保健・保健体育）	学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・小松 茂美・藤江 玲子・岩間 英明	必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
対象：保健体育・保健（中・高）大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身につけているかどうかを各自に点検させ、受講生に自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。									
学修到達目標									
目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情的知識及び指導力 社会性及び対人関係能力 生徒理解の能力及び生徒指導能力 教科の専門的知識及び指導力 学級経営能力 を身につける。									
授業の進め方									
「今後の自己の課題を見出す教職実践演習」をテーマとして、教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の意義と目的 授業の進め方等について説明します。				ガイダンスの内容を確認・整理・記録（4時間）			
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議				事前学習：期待される教員像 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
3	「学校・家庭・地域の連携及び協働」	「学校・家庭・地域の連携及び協働」について				事前課題：学校・家庭・地域の連携・協働の在り方/グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解 グループ討議・ロールプレイ				事前学習：子ども理解 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
5	生徒指導上の諸問題	生徒指導諸問題 グループ討議（「校則・校内規律」を中心として）				事前学習：校則 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
6	生徒指導上の諸問題	生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の 問題行動を中心として）				事前学習：問題行動 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
7	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） グループ討議（いじめ・不登校を中心として）				事前学習：いじめの現状 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） 発達障害の子どもの理解とその対応の仕方				事前学習：発達障害について グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）				事前学習：メディアリテラシーについて/グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）				事前学習：学校の危機管理 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教師に求められる人権感覚）（外部講師）				事前学習：学校現場の人権 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
12	保健体育科の授業づくり	保健体育科の授業づくり 教材開発・カリキュラム構成				事前学習：指導致案と教材開発 授業内容を確認し整理・記録する（4時間）			
13	保健体育科の授業づくり	保健体育科の授業づくり 学習指導法・評価方法				事前準備：学習指導と評価 授業内容を確認し整理・記録する（4時間）			
14	保健体育科教員に求められる資質	保健体育科教員に求められる資質 グループ討議（教科経営を中心として）				事前準備：学校運営と体育科経営 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポートのテーマについて 受講生各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定				事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出（4時間）			
成績評価の方法・基準									
受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% S：探究的な姿勢で意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを十分に理解した適切な内容である。他者の意見も踏まえ、建設的な意見も言える。 A：意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを理解した内容である。他者の意見を踏まえ、自分の意見が言える。B：概ね意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを概ね把握した内容である。自分の意見が言える。C：課題のねらいを概ね踏まえて、学習活動ができ、何とか自分の意見が言える。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

教員の学びは、むしろ学校現場に出てからが本当のスタート言えます。そのため本講義は、これまでの学習の整理・復習だけでなく、自分自身が課題を見つけようとする積極的な姿勢が望まれます。

テキスト

使用しません。

参考書

授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

学習のポートフォリオとリフレクションシートでフィードバックします。

科目名	教職実践演習（養護教諭）	学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・小松 茂美・藤江 玲子・中島 節子	必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	養教一					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要 対象：養護教諭 大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身についているかどうかを各自に点検させ、受講生に自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。									
学修到達目標 目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 児童・生徒理解能力及び児童・生徒指導能力 養護の専門的知識及び指導力 保健室経営管理能力 を身につける。									
授業の進め方 「今後の自己の課題を見出す教職実践演習」をテーマとして、教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の意義と目的 授業の進め方等について説明します				ガイダンスの内容を確認・整理・記録（4時間）			
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議				事前学習：期待される教員像 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
3	「学校・家庭・地域の連携及び協働」	「学校・家庭・地域の連携及び協働」について				事前課題：学校・家庭・地域の連携・協働の在り方／グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解について グループ討議・ロールプレイ				事前学習：子ども理解 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
5	生徒指導上の諸問題	生徒指導上の諸問題 グループ討議（「校則・校内規律」を中心として）				事前学習：校則 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
6	生徒指導上の諸問題	生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の 問題行動を中心として）				事前学習：問題行動 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
7	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） グループ討議（いじめ・不登校を中心として）				事前学習：いじめの現状 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） 発達障害の子どもの理解とその対応の仕方				事前学習：発達障害について グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）				事前学習：メディアリテラシーについて／グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）				事前学習：学校の危機管理 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教師に求められる人権感覚）（外部講師）				事前学習：学校現場の人権 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
12	保健指導の再点検	保健指導の再点検 グループ討議（教材研究と情報活用）				事前学習：教材研究 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
13	子どもの健康課題に対応できる実践力	子どもの健康課題に対応できる実践力 情報 収集・実施・評価を中心として				事前学習：子どもの健康課題への対応 授業内容を確認し整理・記録する（4時間）			
14	保健室経営と組織活動における養護教諭の役割	保健室経営と組織活動における養護教諭の役割 グループ討議				事前学習：保健室経営 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポートのテーマについて 各自の到達点の確認 と今後の努力目標の設定				事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出（4時間）			
成績評価の方法・基準 受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% S：探究的な姿勢で意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを十分に理解した適切な内容である。他者の意見も踏まえ、建設的な意見も言える。 A：意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを理解した内容である。他者の意見を踏まえ、自分の意見が言える。B：概ね意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを概ね把握した内容である。自分の意見が言える。C：課題のねらいを概ね踏まえて、学習活動ができ、何とか自分の意見が言える。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

養護教諭は一人配置が多く、社会に出た時から実践力を求められます。基礎的なことを確認できるように、学内の講義・実習、教育実習で学んだことを関連付けて、自己の課題を明確にして講義にのぞみましょう。

テキスト

使用しません。

参考書

授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

学習のポートフォリオとリフレクションシートでフィードバックします。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）	学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・小松 茂美・藤江 玲子・廣田直子	必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	栄教一					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要 対象：栄養教諭 大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身についているかどうかを各自に点検させ、受講生に自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。									
学修到達目標 目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 児童・生徒理解及び児童・生徒指導能力 栄養教諭の専門的知識 「食に関する指導」能力 を身につける。									
授業の進め方 「今後の自己の課題を見出す教職実践演習」をテーマとして、教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の意義と目的 授業の進め方等について説明します。				ガイダンスの内容を確認・整理・記録（4時間）			
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議				事前課題：期待される教員像 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
3	「学校・家庭・地域の連携及び協働」	「学校・家庭・地域の連携及び協働」について				事前課題：学校・家庭・地域の連携・協働の在り方／内容のまとめ（4時間）			
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解 グループ討議・ロールプレイ				事前課題：子ども理解 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
5	生徒指導上の諸問題	生徒指導上の諸問題 グループ討議（「校則・校内 規律」を中心として）				事前課題：校則 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
6	生徒指導上の諸問題	生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の問題行動を中心として）				事前課題：問題行動 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
7	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） グループ討議（いじめ・不登校を中心として）				事前課題：いじめの現状 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） 発達障害の子どもの理解とその対応の仕方				事前課題：発達障害について グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）				事前学習：メディアリテラシーについて／グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）				事前課題：学校の危機管理 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教員に求められる人権感覚）（外部講師）				事前学習：学校現場の人権 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
12	「食に関する指導の全体計画」の作成	「食に関する指導の全体計画」の作成について グループ討議				事前学習：食に関する具体的指導計画 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
13	教科と特別活動で実施する「食に関する指導」の再点検	教科と特別活動で実施する「食に関する指導」の再点検 指導案の作成に関するグループ討議				事前学習：特別活動 グループ討議の「振り返り」提出（4時間）			
14	「食に関する指導」のコーディネーターとしての栄養教諭の役割	「食に関する指導」のコーディネーターとしての栄養教諭の役割 グループ討議				事前学習：栄養教諭の役割 グループ討議「振り返り」提出（4時間）			
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポートのテーマについて 受講生各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定				事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出（4時間）			
成績評価の方法・基準									

受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20%

S：探究的な姿勢で意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを十分に理解した適切な内容である。他者の意見も踏まえ、建設的な意見も言える。A：意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを理解した内容である。他者の意見を踏まえ、自分の意見が言える。B：概ね意欲的に取り組み、レポート及び発言は、課題のねらいを概ね把握した内容である。自分の意見が言える。C：課題のねらいを概ね踏まえて、学習活動ができ、何とか自分の意見が言える。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

教職課程のまとめとなる授業です。グループ討議などを中心に進めていきますが、栄養教諭の特性を踏まえて、健康栄養学科で学んだ専門科目の知識や技術等を応用し、積極的な姿勢で学んでほしいと思います。

テキスト

使用しません。

参考書

授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

学習のポートフォリオとリフレクションシートでフィードバックします。

科目名	社会科指導法	学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	平澤 香	必修選択	必修	科目種別	講義	オイスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(社会)					ディプロマポリシーとの関連性			

授業概要

本講義では、中学校社会科がめざす、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うために、中学校の社会科教員として必要な指導法の基礎を身に付けることをねらいとしています。さらに、戦後の中学校教育の変遷を踏まえるとともに、新たに登場した社会科について、カリキュラム、学習指導、評価といった様々な視点と、社会の変化や学校教育の諸課題と関連づけながら社会科教育の在り方を考察します。また、優れた実践例も紹介します。

学修到達目標

- ・社会科学習の意義やカリキュラム理論を理解し指導と評価が一体となった授業を構想するための年間指導計画を作成することができる。
- ・優れた先人の実践例から、生きる力や確かな学力を育成するための指導方法を習得する。

授業の進め方

教員から提示されるテーマを受講者がそれぞれ選択して調べ、その発表を中心に全体で議論を深めながら講義を進めます。また、フィードバックなどの作業的体験的な学習も随時取り入れます。

授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。

回	テーマ	内容	事前事後学修
1	オリエンテーション	オリエンテーション - 講義の概要 -	学習指導要領及び3分野の教科書を事前に熟読しておくこと(4時間)
2	社会科のあゆみ	戦後の社会科教育のあゆみ	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
3	社会科のカリキュラム理論	社会科学習の意義とカリキュラムの理論	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
4	地理的分野のカリキュラム	地理的分野の年間カリキュラム	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
5	地理的分野の評価	地理的分野の指導と評価のポイント	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
6	歴史的分野のカリキュラム	歴史的分野の年間カリキュラム	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
7	歴史的分野の評価	歴史的分野の指導と評価のポイント	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
8	公民的分野のカリキュラム	公民的分野の年間カリキュラム	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
9	公民的分野の評価	公民的分野の指導と評価のポイント	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
10	実践例(1)	学び方を学ぶ社会科学習の実践例	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
11	実践例(2)	話し合いや発表を生かした社会科学習の実践例	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
12	実践例(3)	インターネットやGISを活用した社会科学習の実践例	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
13	実践例(4)	調査・体験活動を重視した社会科学習の実践例(アウトキャンパス)	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
14	評価問題	社会科評価問題の工夫と改善	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)
15	主体的・対話的で深い学び	まとめ - これからの社会科を考える	前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)

成績評価の方法・基準

受講態度：50% 課題：30% レポート：20%
 S:到達目標達成のために進んで課題に取り組み、各回の授業内容をすべて理解し指導と評価が一体となった年間指導計画を作成することができる。A:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し年間指導計画を作成することができる。B:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解し年間指導計画を作成することができる。C:到達目標達成を理解して課題に取り組み、年間指導計画を作成することができる。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

中学校社会科の免許取得を希望する皆さんは、目指す社会科の教員像を明確にもつとともに、社会科好きの生徒を育成するには、どんな知識、概念や技能を身に付けなければならないかを常に念頭に置いて受講してください。

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）領解説 社会編」（東洋館出版社）（別途、指示します。）
「中学校社会科地図」（帝国書院）（別途、指示します。）
「新しい社会 地理」（東京書籍）（別途、指示します。）
「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」（帝国書院）（別途、指示します。）
「社会科 中学生の公民 よりよい社会をめざして」（帝国書院）（別途、指示します。）

参考書

「中学校学習指導要領」（東山書房）

学修成果に対するフィードバックの方法

受講生は、担当する模擬授業の学習指導案を作成・提出します。提出された学習指導案は添削のうえ返却しますので、添削内容をふまえて教材研究をさらに深め、学習指導案を改善して模擬授業に臨んでください。各模擬授業後には講評・解説の時間を設けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

受講生は、複数回の模擬授業を行います。それぞれの模擬授業には講評・解説をするとともに、受講生同士の意見交換や相互評価を行って成果と課題を共有します。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

地理分野の授業では、地形図の移り変わり等を調べられるソフト（今昔マップ、地理院地図）を使用し講義を行います。その他、社会科教材に活用できるICTの活用例や実践を取り扱います。

実務経験のある教員による授業

公立中学校教諭として勤務し、社会科の科目を主に担当しながら生徒の指導に携わった。

科目名	社会科指導法	学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	平澤 香	必修選択	必修	科目種別	講義	オイスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(社会)						ディプロマポリシーとの関連性		
授業概要									
<p>本講義では、中学校社会科がめざす、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うために、中学校の社会科教員として必要な指導法の基礎を身に付けることをねらいとしています。さらに、生徒の主体的な学習を実現するためにどうすればよいのかについて、「適切な課題を設けて行う学習」に焦点を当てながら、実践的に考察します。</p>									
学修到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の授業を実践するに当たっての教材開発の方法やICTを含めた教材教具の活用方法を身に付ける。 ・指導案作成や模擬授業を通して、社会科教員として必要な知識や技能を養う。 									
授業の進め方									
<p>本講義では、上高地でのアウトキャンパスで実際に資料の収集を行ったり、教材・教具を開発して指導案を作ったりするなどして模擬授業を行うとともに、学生相互で評価し合うなど、作業的・体験的な活動を多く取り入れて講義を進めます。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容			事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーション - 講義の概要 -			学習指導要領及び3分野の教科書を事前に熟読しておくこと(4時間)				
2	学習指導要領	現行学習指導要領とその解説			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
3	資料の収集と活用(1)	地理的分野の学習資料の収集と活用(アウトキャンパス)			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
4	教材教具の利用と開発(1)	地理的分野の教材教具の利用と開発			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
5	模擬授業(1)	地理的分野の授業づくりと模擬授業			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
6	資料の収集と活用(2)	歴史的分野の学習資料の収集と活用(アウトキャンパス)			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
7	教材教具の利用と開発(2)	歴史的分野の教材教具の利用と開発			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
8	模擬授業(2)	歴史的分野の授業づくりと模擬授業			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
9	資料の収集と活用(3)	公民的分野の学習資料の収集と活用(アウトキャンパス)			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
10	教材教具の利用と開発(3)	公民的分野の教材教具の利用と開発			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
11	模擬授業(3)	公民的分野の授業づくりと模擬授業			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
12	新しい社会科学習(1)	国際理解と社会科学習			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
13	新しい社会科学習(2)	情報化・ICTの活用と社会科学習			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
14	新しい社会科学習(3)	環境・資源エネルギーと社会科学習			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
15	主体的・対話的で深い学び	まとめ - 中学校社会科における授業改善の視点			前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
成績評価の方法・基準									
<p>受講態度：50% 課題：30% レポート：20%</p> <p>S:到達目標達成のために進んで課題に取り組み、各回の授業内容をすべて理解し指導案の作成や模擬授業を行うことができる。A:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し指導案の作成や模擬授業を行うことができる。B:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解し指導案の作成や模擬授業を行うことができる。C:到達目標達成を理解して課題に取り組み、指導案の作成や模擬授業を行うことができる。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

自分は社会科の教員としてどのような授業実践を行いたいかを明確にもってください。このため優れた教育者の著作にふれるとともに、恩師や先輩から現在の生徒の実態や社会科の授業の現状について直接話を伺っておいてください。

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」文部科学省編（東洋館出版社）（別途、指示します。）
「中学校社会科地図」（帝国書院）（別途、指示します。）
「新しい社会 地理」（東京書籍）（別途、指示します。） 他 別途指示します。
「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」（帝国書院）（別途、指示します。）
「社会科 中学生の公民 よりよい社会をめざして」（帝国書院）（別途、指示します。）

参考書

「中学校学習指導要領」（東山書房）

学修成果に対するフィードバックの方法

受講生は、担当する模擬授業の学習指導案を作成・提出します。提出された学習指導案は添削のうえ返却しますので、添削内容をふまえて教材研究をさらに深め、学習指導案を改善して模擬授業に臨んでください。各模擬授業後には講評・解説の時間を設けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

受講生は、複数回の模擬授業を行います。それぞれの模擬授業には講評・解説をするとともに、受講生同士の意見交換や相互評価を行って成果と課題を共有します。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

地理分野の授業では、地形図の移り変わり等を調べられるソフト（今昔マップ、地理院地図）を使用し講義を行います。その他、社会科教材に活用できるICTの活用例や実践を取り扱います。

実務経験のある教員による授業

公立中学校教諭として勤務し、社会科の科目を主に担当しながら生徒の指導に携わった。

科目名	地理歴史科指導法	学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤	
担当者	仁科 利明	必修選択	選択必修	科目種別	講義	オフィスアワー				
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)						
関連資格	中一(社会)						ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要										
本講義は、中学校学習指導要領にもとづいて中学校社会科がめざす目標や教科としての特色について学ぶとともに、地理的分野と歴史的分野の目標と内容、分野相互の共通点や関連性などについて理解と認識を深めていきます。また、国際社会に生きる平和で民主的な社会を形成していく生徒の、地理的認識を養い歴史的思考力を培うことを目的に、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して中学校社会科における各分野の指導に必要な基礎的知識や技能の修得をめざします。										
学修到達目標										
中学校社会科の各分野の目標と内容への理解を深め、生徒の地理的認識を養い歴史的思考力を培う授業のあり方を検討し、教材研究の深化、学習指導計画の立案、授業目標の設定、指導内容の精選、学習指導案の作成、教育実習を念頭にいた模擬授業を通して、生徒の主体的な学びを支援する実践的な指導力を身につけている。										
授業の進め方										
講義のほか、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業後の考察などを組み合わせて展開します。模擬授業は、地理的分野および歴史的分野をそれぞれ受講生が交代で行い、授業後の意見交換や相互評価などを通して成果と課題を共有し、自らの授業作りに役立てていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義ガイダンス 中学校社会科の目標	講義の概要、到達目標、授業の進め方、評価方法などを説明します。中学校社会科の目標について学習指導要領をもとに考察します。				学習指導要領解説社会編の第1章、第2章第1節を事前に読み予習する。(4時間)				
2	地理的分野と歴史的分野の目標と内容	地理的分野と歴史的分野の目標とについて理解を深め、各分野の内容を考察します。				中学時代のノートなどを見直し授業で学んだことを整理する。(4時間)				
3	中学校社会科の授業と教材研究、模擬授業の計画	生徒の学びを支援する授業のあり方と教材研究について考えます。本講義で受講生が行う模擬授業担当と日程を検討します。				学習指導要領解説社会編の第2章第2節を事前に読んで予習する。(4時間)				
4	地理的分野の授業のあり方と教材研究	生徒が地理的な見方・考え方を働かせる授業のあり方を考察し、教材研究の具体的な進め方について考えます。				教科書や資料集以外で授業に活用できる教材について考えておく。(4時間)				
5	地理的分野の授業と学習指導案の作成	受講生が担当する模擬授業の学習指導案一次案を素材として検討し、模擬授業の展開を支える学習指導案を作成していきます。				担当授業の教材研究を進めて事前に学習指導案1次案を作成する。(4時間)				
6	地理的分野の学習指導案の検討 地理的分野の模擬授業	模擬授業の学習指導案二次案を受講生相互に検討します。地理的分野の模擬授業を行い、受講生同士の意見交換や相互評価を行います。				担当する授業の教材研究を深めて学習指導案2次案を作成する。(4時間)				
7	地理的分野の模擬授業	前時に続き地理的分野模擬授業を行います。授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行い、成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
8	地理的分野の模擬授業のまとめ 意見交換と考察	地理的分野の模擬授業を通じた成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
9	教材研究と学習指導案の再考	模擬授業の体験をふまえ、教材研究の重要性や学習指導案の意義、授業の進め方などについて考察します。				事前の教材研究と担当授業のでき具合の関係を振り返り整理する。(4時間)				
10	歴史的分野の授業のあり方と教材研究	生徒が歴史的な見方・考え方を働かせる授業のあり方を考察し、教材研究の具体的な進め方について考えます。				教科書や資料集以外で授業に活用できる教材について考えておく。(4時間)				
11	歴史的分野の授業と学習指導案の作成	受講生が担当する模擬授業の学習指導案一次案を素材として検討し、模擬授業の展開を支える学習指導案を作成していきます。				担当授業の教材研究を進めて事前に学習指導案1次案を作成する。(4時間)				
12	歴史的分野の学習指導案の検討 歴史的分野の模擬授業	模擬授業の学習指導案二次案を受講生相互に検討します。歴史的分野の模擬授業を行い、受講生同士の意見交換や相互評価を行います。				担当する授業の教材研究を深めて学習指導案2次案を作成する。(4時間)				
13	歴史的分野の模擬授業	前時に続き歴史的分野模擬授業を行います。授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行い、成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
14	歴史的分野の模擬授業のまとめ 意見交換と考察	歴史的分野の模擬授業を通じた成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
15	地理歴史科指導法の研究とまとめ	地理的分野と歴史的分野の目標や授業のあり方、授業方法などを改めて考察し、今後の課題を明確にしていきます。				講義や模擬授業で得たことを整理して提出物や試験に備える。(4時間)				
成績評価の方法・基準										
受講態度：20% レポート：30% 課題：30% 定期試験：20% S:教科科目の目標や内容を理解して教材研究を深め、教育実習水準の学習指導案を作成して意欲的に模擬授業を行い、指導力を高めている。A:目標や内容を理解して教材研究を基に学習指導案を作成し、模擬授業等に積極的に取り組んでいる。B:目標や内容を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業等に取り組んでいる。C:内容に沿って学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。										

履修上の注意（学生へのメッセージ）

学校現場での指導経験を活かした講義展開をします。生徒に何を伝え、考えさせるかという問題意識を持つとともに、新聞や関連書籍を読んで教科指導に関わる基礎的知識を蓄積し、自らのものの見方や考え方を深めてください。

テキスト

「中学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省編（東洋館出版社）（生協で購入してください。）
「新しい社会 地理」矢ヶ崎典隆ほか著（東京書籍）（別途、指示します。）
「新しい社会 歴史」矢ヶ崎典隆ほか著（東京書籍）（別途、指示します。）
「新しい社会 地図」矢ヶ崎典隆ほか著（東京書籍）（別途、指示します。）

参考書

「中学校学習指導要領」文部科学省編（東山書房）
「アドバンス中学地理資料」（帝国書院）
「アドバンス中学歴史資料」（帝国書院） 他は講義の中で紹介します。
「新編地理資料」内山美彦ほか著（東京法令出版）
「最新世界史図説タペストリー」帝国書院編集部編（帝国書院）
「山川詳説日本史図録」詳説日本史図録編集委員会編（山川出版社）
新聞の記事も活用します。

学修成果に対するフィードバックの方法

受講生は、担当する模擬授業の学習指導案を作成・提出します。提出された学習指導案は添削のうえ返却しますので、添削内容をふまえて教材研究をさらに深め、学習指導案を改善して模擬授業に臨んでください。各模擬授業には講評・解説の時間を設けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

受講生は、複数回の模擬授業を行います。それぞれの模擬授業には講評・解説をするとともに、受講生同士の意見交換や相互評価を行って成果と課題を共有します。

実務経験のある教員による授業

公立高等学校教諭として勤務し、地理歴史科の科目を主に担当しながら生徒の指導に携わっている。

科目名	地理歴史科指導法	学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	仁科 利明	必修選択	選択必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(社会)				ディプロマポリシーとの関連性				
授業概要									
本講義は、地理歴史科指導法の内容を発展させ、中学校社会科がめざす目標や教科の特色、地理的分野と歴史的分野の性格と目標、分野相互の関連性などについての理解と認識をさらに深めます。また、生徒の地理的認識を養い歴史的思考力を培う授業はどうあるべきかを意識して教材研究や学習指導案を深めていくとともに、複数回の模擬授業への取り組みを通して中学校社会科における各分野の指導に求められる総合的な知識と高い技能の修得をめざします。									
学修到達目標									
中学校社会科の各分野の目標と内容をふまえ、各分野の授業のあり方を追求し、年間および単元学習指導計画の立案、教材研究を深めた学習指導案の作成、指導内容の精選、生徒の学習活動の検討、評価の観点について考察しながら各分野の模擬授業に取り組み、教育実習に臨むためのより実践的な指導力を身につけている。									
授業の進め方									
講義のほか、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業後の考察などを組み合わせて展開します。模擬授業は、教育実習を想定したより実践的なものになります。模擬授業後の成果と課題を受講生が共有し、一人一人の授業作りに役立つ取り組みを深めます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	講義ガイダンス 学習目標と学習指導計画	授業概要、学修目標、授業の進め方、成績評価方法などを説明します。各分野の目標にもとづいて学習指導計画を考えていきます。				教科書にもとづいて各科目の年間指導計画を事前に立案する。(4時間)			
2	模擬授業の展開 教材研究と学習指導案 A	模擬授業 A～Cの担当と日程を検討します。教材研究を深め、指導法の模擬授業体験をふまえて学習指導案を作成していきます。				担当授業を年間および単元指導計画のなかに位置づけて考える。(4時間)			
3	学習指導案 Aの検討 模擬授業 A	模擬授業 Aの学習指導案を相互に検討します。模擬授業 Aを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて事前に学習指導案 Aを作成する。(4時間)			
4	模擬授業 A	前時に続いて模擬授業 Aを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)			
5	模擬授業 Aのまとめと考察	模擬授業 A全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)			
6	授業内容と学習活動の検討 学習指導案 Bの作成	授業者が展開する授業内容と生徒の主体的な学習活動との関連について検討します。模擬授業 Bの学習指導案を作成していきます。				生徒の主体的な学びを支援する授業内容と指導方法を考える。(4時間)			
7	学習指導案 Bの検討 模擬授業 B	模擬授業 Bの学習指導案を相互に検討します。模擬授業 Bを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて事前に学習指導案 Bを作成する。(4時間)			
8	模擬授業 B	前時に続いて模擬授業 Bを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)			
9	模擬授業 Bのまとめと考察	模擬授業 B全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)			
10	学習活動と評価観点の検討 学習指導案 Cの作成	生徒の学習活動をどのように評価するか、評価の観点の設定などについて検討します。模擬授業 Cの学習指導案を作成していきます。				生徒の学習活動について何をどのように評価するかを考える。(4時間)			
11	学習指導案 Cの検討 模擬授業 C	模擬授業 Cの学習指導案を相互に検討します。模擬授業 Cを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて事前に学習指導案 Cを作成する。(4時間)			
12	模擬授業 C	前時に続いて模擬授業 Cを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)			
13	模擬授業 Cのまとめと考察	模擬授業 C全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)			
14	模擬授業 A～Cの分析とまとめ	模擬授業 A～C全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から分析します。				模擬授業の成果と教育実習に向けての課題や改善点を整理する。(4時間)			
15	地理歴史科指導法の研究とまとめ	各分野の目標や授業のあり方、授業内容や指導技術などを改めて考察し、教育実習に向けて成果と課題を明確にしていきます。				講義や模擬授業で得たことを整理して提出物や試験に備える。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
受講態度：20% レポート：30% 課題：30% 定期試験：20%									
S：指導法の学びを発展させ、教材を精選した模擬授業を行うと共に考察等も主体的に取り組み、実践的な指導力を習得している。A：指導法の学びに基づいて教材研究を深めた模擬授業を行い、指導力の向上をめざしている。B：指導法の学びをふまえて学習指導案を作成し、模擬授業等に取り組んでいる。C：指導法の学びに沿って学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

学校現場での指導経験を活かした講義展開をします。広い視野と十分な教材研究を土台に、現代世界の諸課題への生徒の理解を深め、平和で民主的な社会の実現を考えさせるという問題意識を持った模擬授業の取り組みを期待します。

テキスト

「中学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省著（東洋館出版社） 地理歴史科指導法 で購入済です。
「新しい社会 地理」矢ヶ崎典隆ほか著（東京書籍） 地理歴史科指導法 で購入済です。
「新しい社会 歴史」矢ヶ崎典隆ほか著（東京書籍） 地理歴史科指導法 で購入済です。
「新しい社会 地図」矢ヶ崎典隆ほか著（東京書籍） 地理歴史科指導法 で購入済です。

参考書

「中学校学習指導要領」文部科学省著（東山書房）
「アドバンス中学地理資料」（帝国書院）
「アドバンス中学歴史資料」（帝国書院） 他は講義の中で紹介します。
「新編地理資料」内山美彦ほか著（東京法令出版）
「最新世界史図説タペストリー」帝国書院編集部編（帝国書院）
「山川詳説日本史図録」詳説日本史図録編集委員会編（山川出版社）
新聞の記事も活用します。

学修成果に対するフィードバックの方法

受講生は、担当する模擬授業の学習指導案を作成・提出します。提出された学習指導案は添削のうえ返却しますので、添削内容をふまえて教材研究をさらに深め、学習指導案を改善して模擬授業に臨んでください。各模擬授業後には講評・解説の時間を設けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

受講生は、複数回の模擬授業を行います。それぞれの模擬授業には講評・解説をするとともに、受講生同士の意見交換や相互評価を行って成果と課題を共有します。

実務経験のある教員による授業

公立高等学校教諭として勤務し、地理歴史科の科目を主に担当しながら生徒の指導に携わっている。

科目名	公民科指導法	学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	田村 徳至	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(社会)、高一(公民)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>社会科・公民科教師として教育現場に立つても困らないだけの基礎的実践能力を身につけることを目的とします。第4講までは「公民」という教科にはどのような科目があり、その内容・目的は何であるかを理解し、第5講以降は高等学校新科目「公共」について具体的に学び、実際に教壇に立ち模擬授業を行い、授業とはどのようなものかを体験します。また、公民科における情報機器や教材の活用法についても学んでいきます。</p>									
学修到達目標									
<p>中学校社会科(公民的分野)と高等学校新科目「公共」の内容を包括的に理解して、それを正しくわかりやすく伝える力を身につける。</p>									
授業の進め方									
<p>講義計画の内容は受講生の数や進度によって変動することがあるので、必ずしも講義計画どおり進まないことがあります。模擬授業は教科書にそってその内容を教えるという一般的形態の授業を主としますが、具体的には授業者の工夫に任されます。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	講義のガイダンス	授業計画・講義概要に関すること。1年間の見通し。自分を表現する(自己紹介)				公民科の分野で掘り下げて講義してほしいテーマを考え次回提出。(4時間)			
2	教育課程上の社会科、公民科の位置づけについて	中学校社会科、高等学校公民科が目指すもの(1) - その目標を中心として -				テキストを通観して中学、高校時代の公民科の授業を振り返る(4時間)			
3	社会科、公民科を学ぶとは	中学校社会科、高等学校公民科が目指すもの(2) - その内容を中心として -				興味をもったテーマについてその理由を考えてまとめる(4時間)			
4	高等学校新科目「公共」について	「公共」で何を教えるのか。どう教えるのか。				公共の魅力と、同時に予想される困難性について考えをまとめる(4時間)			
5	公共の授業体験	模擬体験的教材を活用した授業を体験する(1) 政治的分野				体験的教材の特徴をまとめる(4時間)			
6	公共の授業体験	模擬体験的教材を活用した授業を体験する(2) 経済的分野				体験的教材の特徴をまとめる(4時間)			
7	公共の授業体験	模擬体験的教材を活用した授業を体験する(3) 倫理的分野				体験的教材の特徴をまとめる(4時間)			
8	学習指導案	学習指導案の作成方法(1) 全体的なことについて				学習指導案の作成方法についてまとめる(4時間)			
9	学習指導案	学習指導案の作成方法(2) 中学校社会科公民的分野について				学習指導案の作成方法についてまとめる(4時間)			
10	学習指導案	学習指導案の作成方法(3) 高等学校公民科「公共」について				学習指導案の作成方法についてまとめる(4時間)			
11	学術論文読解	社会科公民的分野、高等学校公民科に関する学術論文を読む				自分が読んだ学術論文について内容をまとめる(4時間)			
12	授業実習に学ぶ	中学校社会科、高等学校「公共」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Aグループ				行われた模擬授業について自分なりの批評を整理、記録する(4時間)			
13	授業実習に学ぶ	中学校社会科、高等学校「公共」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Bグループ				行われた模擬授業について自分なりの批評を整理、記録する(4時間)			
14	授業実習に学ぶ	中学校社会科、高等学校「公共」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Cグループ				行われた模擬授業について自分なりの批評を整理、記録する(4時間)			
15	授業論を深める	各自の模擬授業を振り返り、反省点や学んだ点を出し合って授業への理解を深める				講義と模擬授業実践を顧みて、教職について認識を深めたこと、新たにしたことなどを記録する(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>課題:40% レポート:40% 受講態度:20%</p> <p>S:教科科目の目標や内容を理解して教材研究を深め、教育実習水準の学習指導案を作成して模擬授業を行うことができる。A:教科科目の目標や内容を理解し、教材研究をもとに学習指導案を作成して模擬授業を行うことができる。B:教科科目の目標や内容をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。C:担当科目の内容に沿って学習指導案を作成することができる。</p> <p>受講態度とは模擬授業の合評会で、生産的な意見および自らの授業に生かせる点等を積極的に表明すること。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

本講義は前期の土曜日に3回集中講義として行われます。教師として重要な資質は、単に教え方が上手だというだけでなく、授業に対する周到な準備、授業時間に遅れないなど授業に対する真剣な態度です。毎回きちんと出席し、積極的に発言することが求められます。

テキスト

「高校社会「公共」の授業を創る」橋本康弘 編著（明治図書） ISBN:9784182538230（生協で購入してください。） 後期開講の「公民科指導法」でも使用します。
「新版 テキストブック公民教育」唐木清志 他48名著日本公民教育学会編（第一学習社） ISBN:9784804077314（生協で購入してください。） 後期開講の「公民科指導法」でも使用します。

参考書

「高等学校学習指導要領解説 公民編」（東京書籍）
「中学校学習指導要領解説 社会科」（東洋館出版社）
「中学校、高等学校学習指導要領」（東山書房）

学修成果に対するフィードバックの方法

指導案・模擬授業については、模擬授業を行った後に改善点も含めフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

疑似体験型教材を活用しての授業体験、模擬授業等に対し、「良かった点」「改善点」を受講者全員で評価・ディスカッションするなど意見交換を行います。

実務経験のある教員による授業

公立中学校に教員として勤務し、社会科の授業を担当した。学級担任として生徒指導・道徳指導・キャリア教育に携わった。

科目名	公民科指導法	学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	非常勤	
担当者	田村 徳至	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー				
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)						
関連資格	高一(公民)						ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要										
前期の講義を受けて、後期では主に高等学校の「政治・経済」と「倫理」をとりあげます。教壇での模擬授業を繰り返し実践することにより、教師としての実践的能力を身につけます。模擬授業は受講生が交代して行い、終了後、自己評価・相互評価を行い、担当者がコメントします。										
学修到達目標										
現代社会のより深い展開である政治・経済と倫理の科目について理解を広め、わかりやすく教えることができるようになる。										
授業の進め方										
講義計画にある模擬授業の回数は受講生の数によって変動することがあるので、必ずしも計画通り進まないことがあります。各自3回の模擬授業実施を予定しています。授業する単元については、各自の希望を尊重します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	政治経済の教育課程上の位置づけについて	「政治・経済」その目標と内容について				「政治・経済」の目標と内容をまとめる(4時間)				
2	学術論文読解	「政治・経済」の学術論文を読む				論文の内容をまとめる(4時間)				
3	学術論文読解	前時に引き続き、「政治・経済」の学術論文を読む				論文の内容をまとめる(4時間)				
4	「政治・経済」の学習指導案	「政治・経済」の学習指導案作成について				「政治・経済」の学習指導案を作成する(4時間)				
5	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Aグループ				模擬授業についての感想、意見、要望を記録する(4時間)				
6	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Bグループ				模擬授業についての感想、意見、要望を記録する(4時間)				
7	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Cグループ				模擬授業についての感想、意見、要望を記録する(4時間)				
8	「政治・経済」のまとめ	政治・経済分野の授業の留意点について				政治・経済分野の授業の留意点についてまとめる(4時間)				
9	学術論文読解	「倫理」分野の学術論文を読む				論文の内容をまとめる(4時間)				
10	学術論文読解	前時に引き続き、「倫理」分野の学術論文を読む				論文の内容をまとめる(4時間)				
11	「倫理」の学習指導案作成	「倫理」の学習指導案作成に関する留意点				「倫理」の学習指導案を作成する(4時間)				
12	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Aグループ				模擬授業についての感想、意見、要望を記録する(4時間)				
13	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Bグループ				模擬授業についての感想、意見、要望を記録する(4時間)				
14	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Cグループ				模擬授業についての感想、意見、要望を記録する(4時間)				
15	政治・経済、倫理を教えることの意味をあらためて考える	今日のグローバル社会において、政治経済および倫理の教育が必要とされる時や場面を想像しながら自由闊達なディスカッションを行なう				これまでの講義の全体的な感想を記して提出(4時間)				
成績評価の方法・基準										
課題:40% レポート:40% 受講態度:20% S:科目相互の関連性などにも理解を深め、指導内容を精選した模擬授業を行うとともに、考察や相互評価なども主体的に取り組み実践的な指導力を習得している。A:教材研究を深めて模擬授業を行い、考察や意見交換などにも取り組んで指導力の向上をめざしている。B:学習指導案を作成し、模擬授業と授業後の考察や意見交換などに積極的に取り組んでいる。C:学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。										

履修上の注意（学生へのメッセージ）

よい授業とは、単に教え方が上手いというだけではありません。教師の授業に対する周知な準備・情熱・意欲、生徒と共に学ぼうとする真摯な態度が求められます。それを体感してほしいと思います。テキストは前期「公民科指導法」で購入していただいた2冊を使用します。

テキスト

(別途、指示します。)

参考書

「高等学校学習指導要領解説 公民編」(東京書籍)、「中学校学習指導要領解説 社会科」(東洋館出版社)、「中学校学習指導要領」(東山書房)「高等学校学習指導要領」(東山書房)。前期の「公民科指導法」で使用したテキストを活用します。

学修成果に対するフィードバックの方法

指導案・模擬授業については、模擬授業を行った後に改善点も含めフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

模擬授業やミニ発表会では、内容について「良かった点」「改善点」等を受講者全員で評価・ディスカッションすることで意見交換を行います。

実務経験のある教員による授業

公立中学校に社会科教諭として勤務した。学級担任を行いながら生徒指導・道徳教育・キャリア教育に携わった。

科目名	商業科指導法	学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	丸山 新吉	必修選択	必修	科目種別	講義	オイスカー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
わが国の商業教育は、商業学校通則の制定(明治17年)をその始まりとし、経済社会の発展に重要な役割を果たすと共に、国内外の産業界発展に尽力した多くの人材を輩出してきました。その内容は時代とともに急速に変化するものですが、本質を理解し、高等学校教育と専門教育の役割を十分理解した上で、商業教育の実践者としての在り方を考えてもらうことを目的としています。さらに、常に経済社会の変化について認識を深め、新しい教育をめざす教育の実践者としての資質・態度を養ってもらうことを目標とします。									
学修到達目標									
商業教育の本質を理解し、その内容を十分理解した上で、教師としての在り方を考えることができる。また、常に新しいビジネス社会の変化について認識を深め、新しい教育をめざす資質・態度を養えるようになる。									
授業の進め方									
教室での講義を中心としながらも、実践的な指導力の育成を目標に、できる限り履修者が主体的に学習できるよう、ホームワークを活用して授業を進めます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	商業科の教師を目指す				出身地の教員採用選考を調べ、自分の目指す教員像をまとめる(4時間)			
2	商業教育の意義と必要性	商業教育の基本理念、育む資質・能力、商業科担当教員への期待				テキストP.8~P.24を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
3	商業教育の歩み	明治期・大正期・昭和20年以前の商業教育				テキストP.26~P.31を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
4	商業教育の歩み	新教育制度と商業教育、科目構成・科目名の変遷(昭和25年から平成21年度版)				テキストP.31~P.38を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
5	高等学校学習指導要領と商業教育	学習指導要領の法的位置付けと理念、時代の進展等と商業科の改善 他				テキストP.40~P.48を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
6	商業科の教育課程の編成と実施	商業に関する学科の専門性、カリキュラム・マネジメントの必要性、法令や学習指導要領の規定、職業資格とのつながり 他				テキストP.50~P.58を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
7	商業科の学習指導	商業科教育における学習指導の理念と方向性				テキストP.60~P.63を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
8	商業科の学習指導	商業科教育における主体的・対話的で深い学びの実現				テキストP.64~P.72を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
9	基礎的科目の学習指導	「ビジネス基礎」・「ビジネスコミュニケーション」の指導内容と指導方法				テキストP.74~P.85を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
10	マーケティング分野の学習指導	「マーケティング」・「商品開発と流通」・「観光ビジネス」の指導内容と指導方法				テキストP.86~P.99を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
11	マネジメント分野の学習指導	「ビジネス・マネジメント」・「グローバル経済」・「ビジネス法規」の指導内容と指導方法				テキストP.100~P.113を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
12	会計分野の学習指導	「簿記」・「財務会計」・「財務会計」・「原価計算」・「管理会計」の指導内容と指導方法				テキストP.114~P.131を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
13	ビジネス情報分野の学習指導	「情報処理」・「ソフトウェア活用」・「プログラミング」・「ネットワーク活用」・「ネットワーク管理」の指導内容と指導方法				テキストP.132~P.151を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
14	総合的科目の学習指導	「課題研究」・「総合実践」の指導内容と指導方法				テキストP.152~P.160を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
15	まとめ	商業科指導法 のまとめ				商業科指導法 で学んだ内容をレポートにまとめて提出(4時間)			
成績評価の方法・基準									
出席レポート:50% 出席レポート(講義のまとめ・感想・質問)50% レポート(期末課題)50% S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

早期にテキストを入手して事前に熟読しておいてください。

テキスト

「商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する」日本商業教育学会著（実教出版） ISBN:978-4-407-34457-8（生協で購入してください。）

参考書

「高等学校学習指導要領解説 商業編」文部科学省著（実教出版） ISBN：978-4-407-32002-2

「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」（東山書房） ISBN：978-4-8278-1567-2

学修成果に対するフィードバックの方法

出席レポート（講義のまとめ・感想・質問）は、Eメールにて提出してください。質問については、後日、Eメールにて返答いたします。

実務経験のある教員による授業

1982年より松商学園高等学校にて商業・情報の授業に携わり現在に至る。校務分掌は教頭・生徒指導主事等を担当。

科目名	商業科指導法	学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	非常勤
担当者	丸山 新吉	必修選択	必修	科目種別	講義	オイスアワ			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)							ディプロマポリシーとの関連性	
授業概要									
<p>学習指導は学校における教育活動の中心であり、これを確実に行うことが教師の任務です。商業科指導法 の内容を受けて、年間指導計画と学習指導案(授業指導案)の作成を実際に行い、生徒として経験した内容も参考にしながら指導方法を検討し、受講者全員が模擬授業(50分)を行います。その際に授業担当以外の学生は、生徒として授業を受けながら評価をしてもらいます。教育の現場において、生徒が自ら学ぶための指導・援助が実践できる指導者の育成を目標とします。</p>									
学修到達目標									
<p>年間指導計画と学習指導案を実際に作成し、模擬授業(50分)を実際におこなって、相互に評価することができる。教育の現場において、生徒が自ら学ぶための指導・援助が実践できる指導者となる。</p>									
授業の進め方									
<p>教育実習を視野に入れた実践的な指導力の育成を目標に、できる限り履修者が主体的に学習できるよう、ホームワークを活用して授業を進めます。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	指導計画の意義と作成	教育課程と指導計画、指導計画の内容、年間指導計画の作成				テキストP.162～P.164を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
2	学習指導案の作成	目標及び内容の設定、教材研究、学習形態・指導方法の設定				テキストP.164～P.168を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
3	学習指導案の作成	「授業の場」のレイアウト設定、板書計画の作成				テキストP.168～P.171を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
4	学習指導案の作成	学習指導案の作成				テキストP.172～P.174を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
5	学習指導案の作成	学習指導案の作成(前回の続き)				テキストP.172～P.174を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
6	指導計画の実施・評価・改善	指導計画の実施、指導計画の評価と改善				テキストP.175～P.176を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
7	模擬授業と授業研究	模擬授業(50分)と授業観察(Aグループ)				模擬授業実習者は学習指導案を作成、終了後に反省・感想を提出、生徒役の学生は、終了後に改善点の指摘や感想を提出(4時間)			
8	模擬授業と授業研究	模擬授業(50分)と授業観察(Bグループ)				模擬授業実習者は学習指導案を作成、終了後に反省・感想を提出、生徒役の学生は、終了後に改善点の指摘や感想を提出(4時間)			
9	模擬授業と授業研究	模擬授業(50分)と授業観察(Cグループ)				模擬授業実習者は学習指導案を作成、終了後に反省・感想を提出、生徒役の学生は、終了後に改善点の指摘や感想を提出(4時間)			
10	模擬授業と授業研究	模擬授業(50分)と授業観察(Dグループ)				模擬授業実習者は学習指導案を作成、終了後に反省・感想を提出、生徒役の学生は、終了後に改善点の指摘や感想を提出(4時間)			
11	学習評価の理念と実際	評価の目的				テキストP.178～P.181を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
12	学習評価の理念と実際	目標に準拠した評価と評価の観点				テキストP.181～P.184を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
13	学習評価の理念と実際	評価方法の工夫				テキストP.184～P.192を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
14	魅力ある商業教育	商業高校における商業教育の魅力について				テキストP.194～P.201を予習(2時間)、講義内容をまとめる(2時間)			
15	まとめ	商業科指導法 のまとめ				商業科指導法 で学んだ内容をレポートにまとめて提出(4時間)			
成績評価の方法・基準									

出席レポート：50% 課題：50%
出席レポート(講義のまとめ・感想・質問)50% 課題(模擬授業)50%
S:学修到達目標を十分に達成しており、期待以上に卓越している。A:学修到達目標を十分に達成しており、期待どおりである。B:学修到達目標を十分に達成している。C:学修到達目標を達成している。

履修上の注意（学生へのメッセージ）

模擬授業で教える内容について、専門知識(商業)の習得をお願いします。また、板書時に誤字・筆順間違い等が無いように予習しておいて下さい。

テキスト

「商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する」日本商業教育学会著（実教出版） 商業科指導法 で購入済です。

参考書

「高等学校学習指導要領解説 商業編」文部科学省著（実教出版） ISBN：978-4-407-32002-2
「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」（東山書房） ISBN：978-4-8278-1567-2

学修成果に対するフィードバックの方法

出席レポート(講義のまとめ・感想・質問)は、Eメールにて提出してください。質問については、後日、Eメールにて返答いたします。模擬授業については、後日、講評や解説、生徒役学生の指摘や感想をEメールにてお送りします。

実務経験のある教員による授業

1982年より松商学園高等学校にて商業・情報の授業に携わり現在に至る。校務分掌は教頭・生徒指導主事等を担当。

科目名	情報科指導法	学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-31
担当者	室谷 心	必修選択	必修	科目種別	講義	オイスカー	月曜日3限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(情報)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
この授業は高校で「情報」を教える教師を目指す人のための科目です。高校の教科としての「情報」は何を目指すのか、また、どうすればそれを実際の授業で実現できるのか。将来皆さんが高校の「情報」の教師として、何をどんな風に教えていけばよいのか、それを考察することがこの授業の目的です。									
学修到達目標									
自ら授業計画をたて、目指す授業の指導案が書けるようになる。									
授業の進め方									
講義と課題の発表により、授業を進めます。 皆さんの課題の成果を授業にフィードバックさせながら、内容をステップアップさせていきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	理想の情報教育とは	今までに自分が受けてきた情報教育をふり返り、情報教育の理想とは何かを考えます。				他の人の考えと、自分の考えの比較検討を行い、「情報教育」の目指すものを考える。(4時間)			
2	指導要領を読む	高等学校学習指導要をよみ、文部科学省の目指す情報教育を理解します。				学習指導要領に書かれていることと、自分の理想との比較検討を十分に行う。(4時間)			
3	情報倫理	ネット上のさまざまなトラブルを考え、ネット社会での正しい態度「情報倫理」をどう教えるかを考えます。				ネット上、ネット外。社会の構成員としての態度の同異を検討する。(4時間)			
4	情報検索	情報源として、「図書館 vs インターネット」どのような使い分けを指導するか考えます。				自分の周りの情報をフロー型とストック型の視点で分けて、得手不得手を考える。(4時間)			
5	エントロピーと情報量	情報量の考え方を理解し、インフラストラクチャーの整備とマルチメディアデータの普及や利用との関係を考えます。				自分の携帯に入っている音楽や動画のファイルサイズを実際に計算してみること。(4時間)			
6	タイピング練習	コンピュータへのデータ入力法をいかに身につけさせるかを考えます。タイピング、マウス、音声入力などいろいろな入力方法の使い分けをどう教えるかを考えます。				音声入力やジェスチャー入力を試してみる。(4時間)			
7	ワープロを教える	高校生が身につけるべきワープロ技法を考えます。キー入力教育ではなくワープロ技法です。				生徒の手本となる書類を自分で作成してみる。(4時間)			
8	表計算ソフトを教える	ビジネスアプリで最も役立つといわれる表計算ソフトの価値と、高校生が身につけるべき表計算ソフトの技能を考えます。				表計算ソフトの技法について自分仕様のミニマムセットを作ってみる。(4時間)			
9	ヴァーチャル世界	教育におけるヴァーチャル世界の功罪を考えてみましょう。				自分の子供の頃と、これからの子供を取り巻く世界の違いをまとめてみる。(4時間)			
10	プログラミング教育	コンピュータを自由にコントロールする楽しさをどう伝えるか。また、モダンなプログラミング技法についても学びましょう。				並べ替えアルゴリズムを自分で実行できるように練習する。(4時間)			
11	情報発信	誰もが情報の発信者となる WEB2.0の世界、情報発信手段としてのホームページとアクセシビリティを考えます。				身近なページのアクセスビリティをチェックしてみる。(4時間)			
12	プレゼン入門	プレゼンテーションの教え方と教育におけるICTの活用。				分かりやすいプレゼン技法を纏める。(4時間)			
13	指導要領をもう一度	いろいろ学んだうえで、高等学校学習指導要領をもう一度読み、文部科学省の目指すところをもう一度考えます。				指導要領の良くできている点、足りない点をリストアップする。(4時間)			
14	理想の情報教育とは	あらためて、これからの情報教育の理想を考えます。				自分なりの高等学校「情報」のプランを組んでみる。(4時間)			
15	まとめ	各自が考えてきた、高等学校「情報」の指導プランを比較検討します。				他の人のプランとの比較を踏まえて、自分の「高等学校情報」のプランをより良くする。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
定期試験：60% 課題：40% 課題とは、授業中の議論への参加の割合とレポートです。 S:教科書の任意の範囲について、発展的な指導計画を立てることができる。 A:自ら選んだ範囲について、発展的な指導計画を立てることができる。 B:自ら選んだ範囲について、標準的な指導計画を立てることができる。 C:自ら選んだ範囲について、指導計画を立てることができる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
人に教えるには、まず自分がよく理解している必要があります。情報関連の授業をたくさん取り、いろいろな知識を身につけましょう。
テキスト
「高等学校学習指導要領解説情報編」文部科学省編（開隆館出版販売）（別途、指示します。）
参考書
「高等学校学習指導要領」文部科学省編
学修成果に対するフィードバックの方法
講義と課題の発表により、授業を進めます。 皆さんの課題の成果を授業にフィードバックさせながら、内容をステップアップさせていきます。
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
課題発表と、それに対するお互いの意見交換します。
ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援
クリッカー、電子黒板など適宜活用します。

科目名	情報科指導法	学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-31
担当者	室谷 心	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(情報)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
この授業は高校で「情報」という科目を教える教師を目指す人のための科目です。指導法 では高等学校での「情報」の授業の組み立てを実際にできるようにしましょう。 「情報科指導法 1」での考察を生かし、理想の授業を目指して実際に授業をやってみましょう。お互いの授業を検討し、検討成果を次の授業にフィードバックさせながらステップアップして、より良い授業の構成を考えていきます。									
学修到達目標									
指導案を作りそれに沿った授業ができるようになる。 自らの行った(模擬)授業を振り返り、次の授業の改善につなげられるようになる。									
授業の進め方									
受講学生で順番に教師役と生徒役を務め、典型的な題材について模擬授業を行い、人に説明することの難しさと、情報教育の要点の理解を目指します。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンスと班分け				情報科指導法 1で修得した指導案の作り方を復習し、模擬授業のテーマを考えておく。(4時間)			
2	テーマ選定	各自が行う模擬授業のテーマを選定します。全体として偏りがないように調整します。				希望する模擬授業のテーマを考えておく。決まったテーマについて準備を始める。(4時間)			
3	授業のゴールとデザインを考える	授業評価と授業設計の考え方や例を基に、テーマにふさわしい授業のデザインを考えます。				自分の提案したデザインと他の人のデザインの比較検討(4時間)			
4	指導案の作成法	情報科指導法 1で修得した事を思い出しながら、指導案の作成法と、教材準備について考えます。				情報科指導法 1の内容を良く復習する。指導案を作ってみる。(4時間)			
5	教材準備	情報科指導法 1で修得した事を思い出しながら、指導案の作成法と、教材準備について各人の準備状況を発表し比較討論を行います。とくに、情報機器の教材としての活用について検討します。				授業での議論を踏まえて指導案を修正し、補助教材の準備を行う。(4時間)			
6	模擬授業1(情報倫理)の準備	利用する補助教材を確定し、模擬授業1(情報倫理)のための教材研究を行い、指導案を仕上げます。				指導案に沿って授業の練習をする。(4時間)			
7	模擬授業1(情報倫理)	模擬授業1(情報倫理)を行います。他の学生は生徒役を演じます。				教師役も生徒役も授業内容の内容の評価を行う。(4時間)			
8	模擬授業1(情報倫理)の評価と反省	模擬授業1(情報倫理)に対する評価と反省を議論します。				議論した評価と反省を各自まとめる。(4時間)			
9	模擬授業2(デジタルデータ)の準備	模擬授業1の反省を踏まえて、模擬授業2(デジタルデータ)のための教材研究を行い、指導案を仕上げます。				模擬授業2の指導案を完成させておく。(4時間)			
10	模擬授業2(デジタルデータ)と評価	模擬授業2(デジタルデータ)を行います。他の学生は生徒役を演じ、お互いに講評を行い評価と反省を議論します。				教師役も生徒役も授業内容の内容の評価を行う。(4時間)			
11	模擬授業3(プログラミング)の準備	模擬授業1、2の反省を踏まえて、模擬授業3(プログラミング)のための教材研究を行い、指導案を仕上げます。				議論した評価と反省を各自まとめる。(4時間)			
12	模擬授業3(プログラミング)と評価	模擬授業3(プログラミング)を行います。他の学生は生徒役を演じ、お互いに講評を行い評価と反省を議論します。				模擬授業3の練習を十分に行う。(4時間)			
13	模擬授業4(表計算ソフト)の準備	今までの模擬授業にたいする反省を生かして、模擬授業4(表計算ソフト)のための教材研究を行い、指導案を仕上げます。				議論した評価と反省を各自まとめる。模擬授業4の練習を十分に行う。(4時間)			
14	模擬授業4(表計算ソフト)と評価	模擬授業4(表計算ソフト)を行いその評価と反省を議論します。				模擬授業についての反省を纏めておく。(4時間)			
15	全体の総括	各自、模擬授業についてのまとめを発表し討論します。				授業についての検討を深める。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
課題:50% 定期試験:50% 課題とは模擬授業およびその前後の議論への参加度のことで、S:教科書の任意の範囲について、発展的な指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。 A:自ら選んだ範囲について、発展的な指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。 B:自ら選んだ範囲について、標準的な指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。 C:自ら選んだ範囲について、指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

模擬授業に先立って指導案の作成があり、模擬授業の後お互いの授業について論評しあいます。教師役でない学生も授業の準備を行い、自分の授業計画と担当者の模擬授業との違いを考えてみましょう。

テキスト

「高等学校学習指導要領解説情報編」文部科学省編（開隆館出版販売） 情報科指導法 で購入済です。

参考書

「高等学校学習指導要領」（東山書房）
「上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン」向後千春著（技術評論社）

学修成果に対するフィードバックの方法

模擬授業の実施成果をフィードバックさせながら、内容をステップアップさせていきます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

課題発表と、それに対するお互いの意見交換を行います。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

プレゼンテーションツール、電子黒板などを利用します。

科目名	体育科指導法	学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ`リッ		研究室	S-13
担当者	岩間 英明	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	レ・コ・テ`ィ(教育)、中一(保体)、高一(保体)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、単元構成、授業展開の基本的な考え方及び評価方法の具体的な理解など、中学校および高等学校における体育授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について学習し、保健体育科の教師を目指す上で必要な能力やスキルの獲得を目的としています。自分のこれまでの経験を生かして、学習者としての子どもにとって『よい体育授業』とはどのようなものなのかを追究しながら、体育科教育の価値や意味を問い直していきます。									
学修到達目標									
体育学習を展開していく上で必要な基礎的な知識と基本となる事項を理解して、年間計画、単元構想、評価計画、授業展開などの力を身につけ、体育の指導案(細案)を書くことができる。併せて、体育の教材である各スポーツ種目について、その技術やルール、指導方法などについて理解している。また、保健体育科の教員として授業づくりの学修に主体的に取り組むとともに、スポーツ全般に興味・関心を持って最新の情報を得ようとしている。									
授業の進め方									
講義では体育授業を展開していく上で必要となる学習指導要領及び、各領域の基本的知識を学修した後、実際に指導案を作成する上で起こりやすい課題や、体育授業を実施する際に問題となる点について追究して、学修を深めていきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、最近の体育科教育に関する話題を盛り上げながら、体育の授業の特徴と体育教員の資質や役割と責務について考えていきます。				事前にシラバスを読んでくる。授業後、体育科教育の諸問題についてレポートにまとめる。(2時間)			
2	保健体育科の教科および体育分野・科目体育の目標	学習指導要領に基づき体育の教科目標について学習します。特に昨今、体育では何を問われているかを考え、子どもの立場から体育の教科としての意味をとらえ直します。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、体育の教科目標の背景についてまとめる。(2時間)			
3	保健体育科の教科の内容(1)体づくり運動、器械運動、陸上競技	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。各運動種目の区分やその指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。(内容項目A~C)				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目A~Cの指導内容についてまとめる。(5時間)			
4	保健体育科の教科の内容(2)水泳、球技	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。各運動種目の区分やその指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。(内容項目D~E)				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目D~Eの指導内容についてまとめる。(5時間)			
5	保健体育科の教科の内容(3)武道、ダンス、体育理論	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学修します。各運動種目の区分やその指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。(内容項目F~H)				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目F~Hの指導内容についてまとめる。(5時間)			
6	指導計画の作成と内容の取り扱い(1)	体育のカリキュラム構成について、小学校から高等学校までの12年間の学習を踏まえた年間計画の作成と、内容の取り扱いについて学修します。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って年間指導計画を作成する。(4時間)			
7	指導計画の作成と内容の取り扱い(2)	スコープ(内容構成)とシーケンス(展開構成)の2つの視点から、体育の単元構想について学修し、単位時間の指導案の形式的な理解をします。また、体育科におけるICT教育の基本について学びます。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って単元構想案を作成する。(4時間)			
8	指導計画の作成と内容の取り扱い(3)	体育授業の学習方法と、ICT教育のメリット・デメリットについて学び、具体的な単位時間の指導案作成について学修します。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って授業指導案を作成する。(4時間)			
9	学習評価の目的と方法(1)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、体育学習の学習評価について、指導と評価の関係や観点別学習状況評価など、評価についての基本的な考え方を学修します。				事前に資料を読む。授業のまとめとして評価計画を作成してみる。(4時間)			
10	学習評価の目的と方法(2)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、体育学習の学習評価の設定について、具体的に学習活動に即した評価規準の作成の仕方を学修します。				事前に資料を読む。授業のまとめとして評価補助簿を作成してみる。(4時間)			
11	指導案作成(1)	種目の特性や生徒の実態のとらえ方、それまでの既習内容を踏まえた教材化(教材作成)の仕方、単元の目標や展開の仕方、評価の仕方など、これまでの学修を総合的にとらえ、具体的な単元構想を立てます。				単元構想についてこれまでの復習をしており、授業後、課題に即した単元構想を立てる。(5時間)			
12	指導案作成(2)	前時までに作成した単元構想の中から任意の1時間を選び、単元の展開に応じた学習方法に基づき、本時の目標と展開を作成します。				学習方法についてこれまでの復習をしており、授業後、課題に即した本時案を作成する。(5時間)			
13	指導案作成(3)	これまで一人一人が作成してきた指導案全体について、グループごとに意見交換や見直しを行い、それぞれの良い点や課題を見つけ出します。				事前に自分の指導案を完成させておく。授業後、指摘をされた部分の修正をおこなう。(5時間)			
14	模擬授業	代表者が模擬授業を行い、その他の人は生徒役となって授業者の指導について、体験をしながら授業観察をしていきます。				授業を受けた感想や指導案の内容についてまとめる。(5時間)			
15	講義全体のまとめ	模擬授業の様子をビデオで確認しながら授業分析を行い、課題を探っていきます。授業分析に基づいたディスカッションを通して、体育授業を創るということについて、基本的な考え方から実際の指導案作成、授業までを振り返ります。				これまでの学修を振り返り、体育授業を創り出すということの意味や方法をまとめる。(2時間)			
成績評価の方法・基準									

<p>定期試験：60％ レポート：40％ ここで示しているレポートには、指導計画、指導案、評価案など、授業づくりに関わるものを中心に、授業のまとめなど全てを含みます。Sの評価規準は定期試験9割以上で、レポートの内容が実際の授業で通用するレベルの場合です。Aは試験8割以上、レポートの内容・形式ともに概ね良好の場合です。Bは試験7割以上、レポートは内容が指導要領に適合しており、形式が整えられている場合です。Cは試験6割以上、レポートは形式が整えられているものです。</p>
<p>履修上の注意（学生へのメッセージ）</p> <p>より良い体育授業を模索していく姿勢で講義に臨んで下さい。そのためには学習指導要領を確実に理解するなど、主体的な学習態度と準備が必要です。学校現場の経験を生かした講義展開をします。</p>
<p>テキスト</p> <p>「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】」国立教育政策研究所 教育課程研究センター 編（東洋館出版社） ISBN:978-4-4910-4138-4（生協で購入してください。） 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】」国立教育政策研究所 教育課程研究センター編（東洋館出版社） ISBN:978-4-491-04705-8（生協で購入してください。） 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1560-3（生協で購入してください。） 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）保健体育編 体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1568-9（生協で購入してください。）</p>
<p>参考書</p> <p>「中学校・高等学校 保健体育 実技 準教科書」一般の書店では購入できませんので必要な人は申し出てください。 「中学校・高等学校 学習指導要領本体」</p>
<p>学修成果に対するフィードバックの方法</p> <p>授業時間内で指導案や模擬授業の内容について、討論・講評・解説の時間を設けてフィードバックします。</p>
<p>アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施</p> <p>指導案の内容や模擬授業についてディスカッションを通して、評価・検討をする時間を設定します。</p>
<p>ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援</p> <p>模擬授業についてはICTを活用し、映像により授業分析を行います。</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p> <p>公立中学校の保健体育科の教員として勤務し、生徒の運動・スポーツ・健康指導に携わりました。</p>

科目名	体育科指導法	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ`リング		研究室	S-13
担当者	岩間 英明	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
本講義は学習指導要領及び体育科指導法の講義内容を踏まえ、教材研究、単元構成、授業展開についての基本的な考え方と評価方法の具体的な理解など、体育授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について模擬授業を通して学び、保健体育科教員としての実践的指導力の獲得を目的としています。模擬授業では教師役、生徒役それぞれの立場からその授業について検討し、課題や解決策を考えたり、それらをレポートにまとめたりして、よりよい体育授業を追究していきます。									
学修到達目標									
学習指導要領や教科指導に関する内容を総合的に理解することができ、指定された領域の指導案(単元設定の理由、単元目標、単元計画、評価規準)及び、そのうちの1単位時間の本時案を作成して、実際に模擬授業を実施することができる。また、模擬授業では学校現場で実際に行われるレベルに少しでも近づけるようにする。保健体育科教員として授業づくりに主体的に取り組むとともに、多様な教授法にも挑戦をしようとしている。									
授業の進め方									
講義は模擬授業を中心に行います。受講者の人数によりTTによる指導とする場合もありますが、全員が1回以上、模擬授業で教師役を経験し、授業後に検討会を行います。また毎時間、授業についての感想・意見をレポートにまとめ提出することとします。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンスとして講義計画・学習展開について確認します。また、体育科指導法で学修した単元構想、評価、指導案等の基本的考え方や作成方法の確認をします。				事前にシラバスを読み、保体科指導法基礎の内容を復習しておく。(4時間)			
2	授業を創る手順の確認	授業を創り出すための知識や必要事項の内容について、さらに理解を深めます。また、授業づくりのための各種資料、ICTの活用などを含む実践事例に基づき、学校現場レベルの授業について考えます。				学習指導要領を再読し、自分の担当領域について十分理解しておく。(4時間)			
3	模擬授業(体づくり運動)	「体づくり運動」の模擬授業を行います。領域の内容の“体ほぐしの運動”と“体力を高めるための運動”のバランスを考え、1時間の授業を構成します。				学習指導要領の体づくり運動について予習し、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
4	模擬授業(器械運動)	「器械運動」の模擬授業を行います。領域の内容の4つの種目のうち一つの種目について、個に応じた学習課題の持たせ方や指導方法、安全配慮などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の器械運動について予習し、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
5	模擬授業(陸上競技)	「陸上競技」の模擬授業を行います。領域内容の各種目から一つの種目を選び、個に応じた学習課題の持たせ方や指導方法、安全配慮などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の陸上競技について予習し、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
6	模擬授業(球技 ゴール型)	「球技 ゴール型」の模擬授業を行います。領域内容のバスケットボール、サッカー、ハンドボールから一つ選び、チームや個人の課題の持たせ方、個人・集団技能の指導方法を考えて授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
7	模擬授業(球技 ネット型)	「球技 ネット型」の模擬授業を行います。領域内容のバレーボール、テニス、バドミントン、卓球から一つ選び、チームや個人の課題の持たせ方、個人・集団技能の指導方法を考えて授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
8	模擬授業(球技 ベースボール型)	「球技 ベースボール型」の模擬授業を行います。領域内容のソフトボールについて、チームや個人の課題の持たせ方、個人・集団技能の指導方法、個人差の考慮などを考えて授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
9	模擬授業(武道 剣道)	「武道」の模擬授業を行います。領域内容の3種目のうち、今回は学習条件を考慮して剣道を選択して、礼法や武道の特性、個人技能の指導方法などを中心に授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
10	模擬授業(ダンス)	「ダンス」の模擬授業を行います。領域の内容の3つのダンスから一つを選択し、ダンスの特性にあった指導の仕方を考えて1時間の授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
11	模擬授業(体育理論 中学校)	「体育理論」の模擬授業を行います。中学校の領域内容の3つから、一つを選択して、資料の活用やディスカッションなどを取り入れた課題学習などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
12	模擬授業(体育理論 高等学校)	「体育理論」の模擬授業を行います。高等学校の領域内容の3つから、一つを選択して、高校生にふさわしい資料の活用やディスカッションなどを取り入れた課題学習などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
13	模擬授業(選択制授業 領域内選択)	「選択制授業」の模擬授業を行います。器械運動の領域内選択とし、4種目のうちから複数種目を設定して、生徒に選択させた授業を行い、選択制授業の特徴と指導方法を考えた授業構成をします。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめる。(4時間)			
14	模擬授業のまとめ(1)	模擬授業全体を通して、単元計画、評価計画、指導案作成、教材研究、ICTの活用、資料づくりなど、授業の事前の準備を中心に振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。				全ての模擬授業のレポートを読み直し、授業の見方や評価についてレポートにまとめる。(4時間)			
15	模擬授業のまとめ(2)	模擬授業全体を通して、授業中の生徒への指示、指導方法、ICT活用方法、安全配慮、学習規律など、授業における生徒への対応を中心に振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。				全ての模擬授業のレポートを読み直し、生徒の対応の仕方についてレポートにまとめる(4時間)			
成績評価の方法・基準									
定期試験：50% レポート：20% 実技：30% ここで示した実技というのは模擬授業全般のことを指し、定期試験50%、レポート20%に加え、指導案、模擬授業の状況などを30%として総合的に評価していきます。Sは定期試験9割以上、模擬授業の指導案及び教授態度が現場で通用するレベル、レポートは適切な視点での授業評価ができた場合です。以下Aは定期試験8割以上で、模擬授業の指導案ならびに授業、レポートの授業評価が概ね良好な状況の場合、Bは定期試験7割以上、スムーズな模擬授業、自分なりの授業評価ができた場合、Cは定期試験6割以上、模擬授業は指導案、授業が形式通りに成立してきた場合とします。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

体育授業における様々な課題を総合的に捉え、指導案の作成力ならびに授業の展開力を身につけていくための講義です。主体的な学修態度と十分な準備が必要になります。学校現場の経験を生かした講義展開をします。

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1560-3（生協で購入してください。）
「高等学校学習指導要領（平成30年告示）保健体育編 体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1568-9（生協で購入してください。）
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校保健体育」国立教育政策研究所 教育課程研究センター編（東洋館出版社） ISBN:978-4-491-04138-4（生協で購入してください。）
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校保健体育」国立教育政策研究所 教育課程研究センター編（東洋館出版社） ISBN:078-4-49104705-8（生協で購入してください。）

参考書

「中学校・高等学校 保健体育教科書および体育実技の準教科書」 一般の書店では購入できませんので、必要な人は申し出て下さい。
「中学校・高等学校 学習指導要領本体」

学修成果に対するフィードバックの方法

全員が領域を分担して、指導者・生徒のそれぞれの立場に立って模擬授業を行い、授業後に指導の内容についてフィードバックを行います。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

模擬授業後に指導案の内容や授業の状況について全員でディスカッションする時間を設けます。さらに、後日の感想レポートなどを通して相互に評価・検討をしていきます。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

授業の内容により、ICTを活用した模擬授業を行い、指導に関する課題を見つけ、改善方法を考えます。

実務経験のある教員による授業

公立中学校に保健体育科教員として勤務し、生徒の運動・スポーツ・健康指導に携わりました。

科目名	保健科指導法	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリノ		研究室	S-13
担当者	岩間 英明	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、単元構成、授業展開についての基本的な考え方と評価方法の具体的な理解など、中学校および高等学校における保健授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について学修し、保健体育科の教師を目指す上で必要な能力やスキルの獲得を目的としています。自分のこれまでの経験を生かして、学習者としての子どもにとって『よい保健授業』とはどのようなものなのかを追究しながら、保健教育の価値や意味を問い直していきます。									
学修到達目標									
保健学習を展開していく上で必要な基礎的な知識と基本となる事項を理解して、年間計画、単元構想、評価計画、授業展開などの力を身につけ、保健の指導案(細案)を書くことができる。併せて、保健の教材である健康に関する各内容について理解している。また、保健体育科の教員として授業づくりの学修に主体的に取り組むとともに、スポーツ全般に興味・関心を持って最新の情報を得ようとしている。									
授業の進め方									
講義では保健授業を展開していく上で必要となる学習指導要領及び、健康に関する内容の基本的知識を学修した後、実際に指導案を作成する上で起こりやすい課題や、保健授業を実施する際に問題となる点について追究して、学修を深めていきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、最近の保健教育に関する話題を採り上げながら、保健の授業の特徴と体育教員の資質や役割と責務について考えしていきます。				事前にシラバスを読んでくる。保健教育の諸問題についてまとめる。(2時間)			
2	保健体育科の教科および保健分野・科目保健の目標	学習指導要領に基づき保健の教科目標について学修します。特に昨今、保健教育では何を問われているかを考え、子どもの立場から保健の教科としての意味をとらえ直します。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、保健の教科目標の背景についてまとめる。(2時間)			
3	保健体育科の教科の内容(1)	学習指導要領に基づき保健の教科内容について学修します。「心身の機能の発達と心の健康」「健康と環境」「傷害の防止」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目A~Cの指導内容についてまとめる。(5時間)			
4	保健体育科の教科の内容(2)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学修します。「健康な生活と疾病の予防」「現代社会と健康」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)			
5	保健体育科の教科の内容(3)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学修します。「生涯を通じる健康」「安全な社会生活」「健康を支える健康づくり」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)			
6	指導計画の作成と内容の取り扱い(1)	保健のカリキュラム構成について、小学校から高等学校までの12年間の学習を踏まえた年間計画の作成と、内容の取り扱いについて学修します。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って年間指導計画を作成する。(4時間)			
7	指導計画の作成と内容の取り扱い(2)	スコープ(内容構成)とシーケンス(展開構成)の2つの視点から、保健の単元構想について学修し、単位時間の指導案の形式的な理解をします。また、保健科におけるICT教育の基本について学びます。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って単元構想案を作成する。(4時間)			
8	指導計画の作成と内容の取り扱い(3)	保健授業の多様な学習方法(実習や実験、課題学習、養護教諭や栄養教諭などの専門性を有する教職員の参加、ICTの活用)について学び、単位時間の指導案作成について学修します。				事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って単位時間の指導案を作成する。(4時間)			
9	学習評価の目的と方法(1)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、保健学習の学習評価について、指導と評価の関係や観点別学習状況評価など、評価についての基本的な考え方を学修します。				事前に資料を読む。授業のまとめとして評価計画を作成してみる。(4時間)			
10	学習評価の目的と方法(2)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、保健学習の学習評価の設定について、具体的に学習活動に即した評価規準の作成の仕方を学修します。				事前に資料を読む。授業のまとめとして評価補助簿を作成してみる。(4時間)			
11	指導案作成(1)	生徒の実態のとらえ方、それまでの既習内容を踏まえた教材化(教材作成)の仕方、単元の目標や展開の仕方、評価の仕方など、これまでの学修を総合的にとらえ、具体的な単元構想を立てます。				単元構想についてこれまでの復習をしていただき、授業後、課題に即した単元構想を立てる。(5時間)			
12	指導案作成(2)	前時までに作成した単元構想の中から任意の1時間を選び、単元の展開に応じた学習方法に基づき、本時の目標と展開を作成します。				学習方法についてこれまでの復習をしていただき、授業後、課題に即した本時案を作成する。(5時間)			
13	指導案作成(3)	これまで一人一人が作成してきた指導案全体について、グループごとに意見交換や見直しを行い、それぞれの良い点や課題を見つけ出します。				事前に自分の指導案を完成させておく。授業後、指摘をされた部分の修正をおこなう。(5時間)			
14	模擬授業	代表者が模擬授業を行い、その他の人は生徒役となって授業者の指導について、体験しながら授業分析・観察をしていきます。				授業を受けた感想や指導案の内容についてまとめる。(5時間)			
15	講義全体のまとめ	模擬授業の様子をビデオで確認しながら、授業分析を行い課題を探っていきます。そうしたディスカッションを通して、保健の授業を創るということについて、基本的な考え方から実際の指導案作成までを振り返ります。また、保健の授業以外の健康教育や特別活動についても考えていきます。				これまでの学修を振り返り、保健授業を創り出すということの意味や方法をまとめる。(2時間)			
成績評価の方法・基準									

<p>定期試験：60％ レポート：40％ ここで示しているレポートには、指導計画、指導案、評価案など、授業づくりに関わるものを中心に、授業のまとめなど全てを含みます。Sの評価規準は定期試験9割以上で、レポートの内容が実際の授業で通用するレベルの場合です。Aは試験8割以上、レポートの内容・形式ともに概ね良好の場合です。Bは試験7割以上、レポートは内容が指導要領に適合しており、形式が整えられている場合です。Cは試験6割以上、レポートは形式が整えられているものです。</p>
<p>履修上の注意（学生へのメッセージ）</p> <p>より良い保健授業を模索していく姿勢で講義に臨んで下さい。そのためには学習指導要領を確実に理解するなど、主体的な学習態度と準備が必要です。学校現場の経験を生かした講義展開をします。</p>
<p>テキスト</p> <p>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 編（東洋館出版社） ISBN:978-4-4910-4138-4（生協で購入してください。） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編（東洋館出版社） ISBN:978-4-491-04705-8（生協で購入してください。） 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1560-3（生協で購入してください。） 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）保健体育編 体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1568-9（生協で購入してください。）</p>
<p>参考書</p> <p>「中学校・高等学校 保健体育 実技 準教科書」 一般の書店では購入できませんので必要な人は申し出てください。 「中学校・高等学校 学習指導要領本体」</p>
<p>学修成果に対するフィードバックの方法</p> <p>授業時間内で指導案や模擬授業の内容について、討論・講評・解説の時間を設けてフィードバックします。</p>
<p>アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施</p> <p>模擬授業後に指導案の内容や授業の状況について全員でディスカッションする時間を設けます。さらに、後日の感想レポートなどを通して相互に評価・検討をしていきます。</p>
<p>ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援</p> <p>模擬授業については、ICTを活用した映像による授業分析を行います。</p>
<p>実務経験のある教員による授業</p> <p>公立中学校に保健体育科教員として勤務し、生徒の運動・スポーツ・健康指導に携わりました。</p>

科目名	保健科指導法	学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	研究室	S-13
担当者	岩間 英明	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限	
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)				
関連資格	中一(保体)、高一(保体)、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性		
授業概要								
<p>本講義は学習指導要領及び保健科指導法の講義内容を踏まえ、教材研究、単元構成、授業展開についての基本的な考え方と評価方法の具体的な理解など、保健授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について模擬授業を通して学び、保健体育科教員としての実践的指導力の獲得を目的としています。模擬授業では教師役、生徒役それぞれの立場からその授業について検討し、課題や解決策を考えたり、それらをレポートにまとめたりして、よりよい保健授業を追究していきます。</p>								
学修到達目標								
<p>学習指導要領や教科指導に関する内容を総合的に理解することができ、指定された単元の指導案(単元設定の理由、単元目標、単元計画、評価規準)及び、そのうちの1単位時間の本時案を作成して、実際に模擬授業を実施することができる。また、模擬授業では学校現場で実際に行われるレベルに少しでも近づけるようにする。保健体育科教員として授業づくりに主体的に取り組むとともに、多様な教授法にも挑戦をしようとしている。</p>								
授業の進め方								
<p>授業は模擬授業を中心に行います。受講者の人数によりTTによる指導とする場合もありますが、全員が1回以上、模擬授業で教師役を経験し、授業後に検討会を行います。また毎時間、授業についての感想・意見をレポートにまとめ提出することとします。</p>								
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。								
回	テーマ	内容				事前事後学修		
1	ガイダンス	ガイダンスとして講義計画・学習展開について確認します。また、保健科指導法で学修した単元構想、評価、指導案等の基本的考え方や作成方法の確認をします。				事前にシラバスを読んでくる。保健科指導法の内容について再確認する。(4時間)		
2	授業を創る手順の確認	授業を創り出すための知識や必要事項の内容について、さらに理解を深めます。また、授業づくりのための各種資料、ICTの活用などを含む実践事例に基づき、学校現場レベルの授業について考えます。				学習指導要領を再読し、担当する内容について理解を深め、単元構想を練る。(4時間)		
3	模擬授業(心身の機能の発達と心の健康 1)	「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
4	模擬授業(健康と環境)	「健康と環境」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
5	模擬授業(傷害の防止 1)	「傷害の防止」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
6	模擬授業(健康な生活と疾病の予防)	「健康な生活と疾病の予防」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
7	模擬授業(現代社会と健康 1)	「現代社会と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
8	模擬授業(生涯を通じる健康 1)	「生涯を通じる健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
9	模擬授業(安全な社会生活)	「安全な社会生活」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
10	模擬授業(心身の機能の発達と心の健康 2)	「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
11	模擬授業(傷害の防止 2)	「傷害の防止」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
12	模擬授業(現代社会と健康 2)	「現代社会と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
13	模擬授業(生涯を通じる健康 2)	「生涯を通じる健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
14	模擬授業(健康を支える健康づくり)	「健康を支える健康づくり」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)		
15	模擬授業のまとめ	模擬授業全体を通して、教材づくり、指導案などの授業の事前準備や、生徒への指示、指導方法、ICT活用方法など、授業における生徒への対応について振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。				これまでの模擬授業のレポートを読み直し、課題とその解決方法をレポートにまとめる。(4時間)		
成績評価の方法・基準								
<p>定期試験：50% レポート：20% 実技：30%</p> <p>ここで示した実技というのは模擬授業全般のことを指し、指導案、模擬授業の状況などを30%として総合的に評価していきます。Sは定期試験9割以上、模擬授業の指導案及び教授態度が現場で通用するレベル、レポートは適切な視点での授業評価ができた場合です。以下Aは定期試験8割以上で、模擬授業の指導案ならびに授業、レポートの授業評価が概ね良好な状況の場合。Bは定期試験7割以上、スムーズな模擬授業、自分なりの授業評価ができた場合。Cは定期試験6割以上、模擬授業は指導案、授業が形式通りに成立できた場合とします。</p>								

履修上の注意（学生へのメッセージ）

保健授業の指導案作成、授業構成の力を身につけていくための講義です。できるだけ多くの資料を収集、準備をして講義ならびに模擬授業に取り組んでください。学校現場の経験を生かした講義展開をします。

テキスト

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1560-3（生協で購入してください。）
「高等学校学習指導要領（平成30年告示）保健体育編 体育編」文部科学省編（東山書房） ISBN:978-4-8278-1568-9（生協で購入してください。）
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校保健体育」国立教育政策研究所 教育課程研究センター編（東洋館出版社） ISBN:978-4-491-04138-4（生協で購入してください。）
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校保健体育」国立教育政策研究所 教育課程研究センター編（東洋館出版社） ISBN:978-4-491-04705-8（生協で購入してください。） 発行され次第連絡しますので、購入してください。

参考書

「中学校・高等学校 保健体育 教科書」 一般書店では購入できませんので、必要な人は申し出てください。
「中学校・高等学校 学習指導要領本体」

学修成果に対するフィードバックの方法

全員が領域を分担して、指導者・生徒のそれぞれの立場に立って模擬授業を行い、授業後に指導の内容についてフィードバックを行います。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

模擬授業後に指導案の内容や授業の状況について全員でディスカッションする時間を設けます。さらに、後日の感想レポートなどを通して相互に評価・検討をしていきます。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

授業の内容により、ICTを活用した模擬授業を行い、指導に関する課題を見つけ、改善方法を考えます。

実務経験のある教員による授業

公立中学校に保健体育科教員として勤務し、生徒の運動・スポーツ・健康指導に携わりました。

科目名	保健科指導法	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ`リング		研究室	S-23	
担当者	小松 茂美	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日1限			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)						
関連資格	中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性				
授業概要										
<p>本講義は養護教諭が保健の授業を担当することを想定して講義を展開していきます。保健授業における養護教諭の位置づけは、学習指導要領では「専門性を有する教職員」と示されている通り、保健授業の特定分野において保健体育科の教員以上の高い専門性が求められています。そのため、本講義では養護教諭の参加が求められることの多い保健授業の題材に特化して、その内容に関する幅広い知識とより深い理解をしていくことを目的としています。</p>										
学修到達目標										
<p>保健科指導法 の内容をさらに深化させ、養護教諭にふさわしい幅広い知識をより深く理解したレベルにまで引き上げる。教科書の内容はもちろん、生徒の興味・関心を高め、科学的認識と日常生活における実践力の向上につながるような内容についての理解と、それを子どもたちに指導していくための、養護教諭としての立場も加味した教授方法を習得している。</p>										
授業の進め方										
<p>講義は、保健の題材のテーマについて養護教諭としての視点を加え、その内容を周辺知識まで広げて、学修を展開します。そのため、予習段階の資料収集が必要であり、それをどのように授業に取り入れていくかを全員で討議・追究していきます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	講義計画や保健の目標について再確認します。					小・中・高で扱う保健の内容と目標についてまとめる。(4時間)			
2	心身の機能の発達と心の健康(1)	“身体機能の発達、生殖に関わる機能の成熟”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
3	心身の機能の発達と心の健康(2)	“精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
4	健康と環境	“身体对环境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
5	応急手当(1)	“中学校での応急手当”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
6	健康な生活と疾病の予防(1)	“疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
7	健康な生活と疾病の予防(2)	“感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、健康を守る社会の取組”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
8	現代社会と健康(1)	“健康の考え方”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
9	現代社会と健康(2)	“健康の保持増進と疾病の予防の生活習慣病、喫煙・飲酒”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
10	現代社会と健康(3)	“健康の保持増進と疾病の予防の薬物乱用、感染症とその予防”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
11	現代社会と健康(4)	“精神の健康”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
12	応急手当(2)	“高等学校での応急手当”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
13	生涯を通じる健康	“生涯の各段階における健康、労働と健康”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
14	健康を支える環境づくり	“環境と健康、食品と健康、保健・医療制度および地域の保健・医療機関”について、教科書の内容をさらに深めて学修していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。					事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)			
15	講義全体のまとめ	これまでの保健授業の内容について、理解の不十分な点や新たに生じた疑問などについて、全体および個人で討議しながら振り返り、講義全体のまとめをします。					これまでまとめた内容を読み直し、保健授業における養護教諭の役割を再認識する。(4時間)			
成績評価の方法・基準										
<p>定期試験：50% レポート：50% S：学修内容を十分理解し、探究的な姿勢を持ち課題に取り組み、学修到達目標を十分達成し、期待以上の学修成果を得ている。A：学修内容を十分理解し、探究的な姿勢を持ち課題に取り組み、学修到達目標を期待どおり達成できている。B：学修内容を理解し、課題に取り組み、学修到達目標を十分達成できている。C：学修内容を理解し、課題に取り組み、学修到達目標を達成できている。</p>										

履修上の注意（学生へのメッセージ）

養護教諭が保健の授業を行う意味について考えてください。そのためには主体的な学修態度と準備が必要です。学習指導要領や教科書の内容を理解して講義に臨んでください。学校現場の経験を活かし講義します。

テキスト

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（東山書房）（別途、指示します。）
「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」（東山書房）（別途、指示します。）
「中学校学習指導要領」（東山書房）（別途、指示します。）
「高等学校学習指導要領」（東山書房）（別途、指示します。）

参考書

「小学校学習指導要領解説 体育編」（東洋館出版社）
保健の教科書（小、中、高）の購入希望者は、申し出てください。

学修成果に対するフィードバックの方法

学生の発表内容を踏まえ、学修の成果を確認し、改善点と今後の学修課題が認識できるようにフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

個々の学生の発表に対し、その内容について「良かった点」「改善を要する点」等について受講者全員で評価・分析し、意見交換を行います。

実務経験のある教員による授業

養護教諭としてのメリットをどう授業内容に生かすことができるのか、中学校・高等学校での勤務経験を生かし、授業実践力の向上を図ります。

科目名	保健科指導法	学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	S-23
担当者	小松 茂美	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読書科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
本講義は養護教諭が保健の授業を担当することを想定して模擬授業を中心に講義を展開していきます。保健授業における養護教諭の位置づけは、学習指導要領では「専門性を有する教職員」と示されている通り、保健授業の特定分野において保健体育科の教員以上の高い専門性が求められています。そのため、本講義では養護教諭の参加が求められることの多い保健授業の題材に特化して、その内容について模擬講義を通して実践的に理解していくことを目的としています。									
学修到達目標									
模擬授業を通して保健科指導法 . . . の内容をさらに深化させ、養護教諭にふさわしい幅広い知識をより深く理解し、実践レベルに引き上げる。教科書の内容はもちろん、生徒の興味・関心を高め、科学的認識と日常生活での実践力向上につながるような内容についての理解と、養護教諭としての立場も踏まえ、それらを子どもたちに指導していくための教授方法を、習得している。									
授業の進め方									
保健の題材のテーマについて、養護教諭としての知識を活かしその内容を周辺知識まで広げて、模擬授業を中心に講義を進めます。指導案作成、模擬授業、その後の討議などを通して、養護教諭としての実践的な保健授業を追究していきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、保健授業における養護教諭の高い専門性とその役割について復習するとともに、模擬授業の担当を決めます。				事前にシラバスを読んでくる。保健授業における養護教諭の役割について復習する。(4時間)			
2	模擬授業 心身の機能の発達と心の健康(1)	“身体機能の発達、生殖に関する機能の成熟、”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
3	模擬授業 心身の機能の発達と心の健康(2)	“精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
4	健康と環境	“身体環境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
5	応急手当(1)	“中学校での応急手当”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
6	健康な生活と疾病の予防(1)	“疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
7	健康な生活と疾病の予防(2)	“感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、健康を守る社会の取組”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
8	現代社会と健康(1)	“健康の考え方”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
9	現代社会と健康(2)	“健康の保持増進と疾病の予防の生活習慣病、喫煙・飲酒”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
10	現代社会と健康(3)	“健康の保持増進と疾病の予防の薬物乱用、感染症とその予防”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
11	現代社会と健康(4)	“精神の健康”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
12	応急手当(2)	“高等学校での応急手当”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
13	生涯を通じる健康	“生涯の各段階における健康、労働と健康”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
14	健康を支える環境づくり	“環境と健康、食品と健康、保健・医療制度および地域の保健・医療機関”について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。				事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)			
15	模擬授業のまとめ	模擬授業全体を通して、授業中の生徒への指示、内容理解、指導方法、資料活用など、事前の準備や授業中の生徒への対応について、課題やその解決方法についてまとめます。				これまでの模擬授業のレポートを読み直し、課題とその解決方法をレポートにまとめる。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
定期試験：30% レポート：30% 模擬授業：40%									
S：教材研究を十分に積み、養護教諭としての特性を生かし、生徒が実生活での実践に活かせる知識の習得に繋がる学習活動の展開が十分期待でき、期待以上の学修到達目標達成状況である。A：教材研究を十分に積み、養護教諭の知識も活かし、生徒が興味・関心を高め意欲的に取り組む学習活動の展開が期待でき、期待どおりの学修到達目標達成状況である。B：教材研究を積み、養護教諭としての立場を考慮し、生徒が興味・関心を持ち取り組む学習活動の展開が期待でき、学修到達目標を十分達成している。C：教材研究を積み、生徒が興味・関心を持ち、授業に取り組む学習活動の展開が期待でき、学修到達目標を達成している。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

保健授業における養護教諭の役割をとらえ、より専門性の高い指導案の作成力と授業実践力を身につけていく講義です。主体的な学習態度と十分な準備が必要になります。学校現場での経験を活かし、講義します。

テキスト

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（東山書房）（別途、指示します。）
「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」（東山書房）（別途、指示します。）
「中学校学習指導要領」（東山書房）（別途、指示します。）
「高等学校学習指導要領」（東山書房）（別途、指示します。）

参考書

「小学校学習指導要領解説 体育編」（東洋館出版社）
保健の教科書（小、中、高）の購入希望者は、申し出てください。

学修成果に対するフィードバックの方法

学生の発表内容を踏まえ、学修の成果を確認し、改善点と今後の学修課題が認識できるようにフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

個々の学生の発表に対し、その内容について「良かった点」「改善を要する点」等について受講者全員で評価・分析し、意見交換を行います。

実務経験のある教員による授業

養護教諭としてのメリットをどう授業内容に生かすことができるのか、中学校・高等学校での勤務経験を生かし、授業実践力の向上を図ります。

科目名	地域教育活動	学年学期	2・3・4年通年	単位数	1	ナパリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・佐藤 厚彦・巻山 圭一	必修選択	選択必修	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：月曜日2限 後期：月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本科目は、地域の教育関係組織や団体等の諸活動に学生たちがボランティアとして参加し、地域社会に対する理解を深めるとともに、大学で学んだ理論を実際の場で検証する機会の提供を目的とします。具体的には、地域の教育関係組織・団体及び社会福祉関係の施設での教育活動を30時間以上行い、その活動証明書、レポート作成をもって単位の認定を行います。</p>									
学修到達目標									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の教育関係組織・団体での実際の体験や活動を通して、豊かな人間観、教育観を形成する一助とする。 2. 自発的、積極的の態度を身につけ、人間関係の構築(コミュニケーション)の仕方、社会人としての常識の基本を学ぶ。 3. 活動を通して地域社会を体験的に理解し、関心を深める。 									
授業の進め方									
<p>最初に本授業科目の意義とねらいを十分理解させた上で、受講生たちが参加できる地域の教育関係組織・団体や社会福祉施設等を一例として提示します。受講生は教育活動に参加して、その結果をレポートとして提出し、総括とします。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス1	地域教育活動の授業の意義とねらい及び学内手続きの方法(山崎)				シラバスの読み・活動先の調査(4時間)			
2	ガイダンス2	参加可能な機関・団体の一例紹介と参加者の心構え(巻山)				第1回授業の復習と自己の活動計画の検討、作成(4時間)			
3	地域教育活動への参加1	地域教育活動への参加(活動先でのガイダンス)(巻山)				教育活動先についての理解(4時間)			
4	地域教育活動への参加2	地域教育活動への参加(コミュニケーションの取り方)(巻山)				自己の活動態度等についての省察 - コミュニケーション - (4時間)			
5	地域教育活動への参加3	地域教育活動への参加(個別指導を中心として)(巻山)				自己の活動態度等についての省察 - 個別指導 - (4時間)			
6	地域教育活動への参加4	地域教育活動への参加(集団指導を中心として)(巻山)				自己の活動態度等についての省察 - 集団指導 - (4時間)			
7	地域教育活動への参加5	地域教育活動への参加(活動の中間総括)(巻山)				自己の活動態度等についての省察、活動報告会への準備(4時間)			
8	地域教育活動報告会	中間の活動報告と自己の課題の確認(佐藤)				中間活動報告レポートの作成(4時間)			
9	地域教育活動への参加6	地域教育活動への参加(中間教室との関わり)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察 - 中間教室 - (4時間)			
10	地域教育活動への参加7	地域教育活動への参加(特別支援学級との関わり)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察 - 特別支援学級 - (4時間)			
11	地域教育活動への参加8	地域教育活動への参加(放課後学習支援の取り組み)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察 - 放課後学習支援 - (4時間)			
12	地域教育活動への参加9	地域教育活動への参加(児童センターとの関わり)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察 - 児童センター - (4時間)			
13	地域教育活動への参加10	地域教育活動への参加(活動の総括)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察、活動報告会への準備(4時間)			
14	地域教育活動報告会	地域教育活動の活動状況の報告(佐藤)				自己の活動態度等についての省察と活動成果のまとめ(4時間)			
15	地域教育活動報告会	地域教育活動の活動状況の報告とまとめ(山崎)				レポートの作成(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>出席レポート：30% レポート：70%</p> <p>S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の活動で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の活動で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の活動で学んだことを表現できる。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

本授業は、学校教育活動との2科目の中から1科目選択という選択必修科目です。

テキスト

使用しません。

参考書

「キャリア教育が創出する新たな教育環境 地域連携で生み出す主体性と価値」山崎保寿著（松本大学出版会） 松本大学が行う帰納的教育手法として
の地域連携を参考にしてください。
必要に応じて提示します。

学修成果に対するフィードバックの方法

活動状況および学習の進度に応じて相談を受けます。

科目名	学校教育活動	学年学期	2・3・4年通年	単位数	1	ナパリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・巻山 圭一・佐藤 厚彦	必修選択	選択必修	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：月曜日2限 後期：月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本科目は、小・中・高・特各学校における教育活動に学生たちがボランティアとして参加し、学校という組織に対する理解を深めると共に、本学で学んだ教職に関する理論を実際の場で検証する機会を提供することを目的とします。具体的には、学校での教育活動を30時間以上行い、その活動証明書、レポート作成をもって単位の認定を行います。</p>									
学修到達目標									
<p>1、自己の子ども理解を深め、子ども観を形成する一助とする。 2、教育活動での体験をもとに、学内での教職課程科目への理解を深める。 3、自発的、積極的態度を身につけ、人間関係の構築の仕方、社会人としての常識の基本を学ぶ。</p>									
授業の進め方									
<p>最初に本授業科目の意義とねらいを十分に理解したうえで、それぞれの自己の興味・関心によって概ね半年以上にわたる教育活動に参加し、その結果をレポートとして提出し、総括をします。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス1	学校教育活動の授業の意義とねらい(山崎)				シラバスの読み、および教職課程履修の手引きの熟読(4時間)			
2	ガイダンス2	参加可能学校の紹介と参加者の態度・心構え(佐藤)				第1回授業の復習と自己活動計画の検討、作成(4時間)			
3	活動参加1	学校教育活動への参加(活動先でのガイダンス)(佐藤)				活動先への理解(4時間)			
4	活動参加2	学校教育活動への参加(教員の職務を中心に)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察-教員の職務-(4時間)			
5	活動参加3	学校教育活動への参加(学校の校務分掌の理解)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察-校務分掌-(4時間)			
6	活動参加4	学校教育活動への参加(学級内での活動-個別指導)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察-個別指導-(4時間)			
7	活動参加5	学校教育活動への参加(学級内での活動-集団指導)(佐藤)				自己の活動態度等についての省察-集団指導-、活動報告会準備(4時間)			
8	学校教育活動中間報告会	学校教育活動への参加状況の報告(巻山)				中間報告会レポート(4時間)			
9	活動参加6	学校教育活動への参加(生徒指導を中心に)(巻山)				自己の活動態度等についての省察-生徒指導-(4時間)			
10	活動参加7	学校教育活動への参加(学級活動を中心に)(巻山)				自己の活動態度等についての省察-学級活動-(4時間)			
11	活動参加8	学校教育活動への参加(学年・学校行事の活動を中心に)(巻山)				自己の活動態度等についての省察-行事関係-(4時間)			
12	活動参加9	学校教育活動への参加(児童会・生徒会活動を中心に)(巻山)				自己の活動態度等についての省察-児童・生徒会活動-(4時間)			
13	活動参加10	学校教育活動への参加(キャリア教育、進路指導を中心に)(巻山)				自己の活動態度等についての省察、活動報告会準備(4時間)			
14	学校教育活動報告会1	学校教育活動参加報告会(巻山)				自己の活動態度等についての省察、活動成果のまとめ(4時間)			
15	学校教育活動報告会2	学校教育活動参加報告会と全体でのまとめ(山崎)				総合レポートの作成(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>レポート：70% 出席レポート：30% S:到達目標達成のために探求心をもって課題に誠実に意欲的に取り組み、正しく文章で表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、活動内容と課題を文章で表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の活動で学んだことの振り返りし、文章で表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の活動で学んだことを表現できる。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

本授業は、小・中・高・特各校へのボランティア活動を主要な内容とするため、本学のボランティア活動を行う際の諸注意を遵守する。地域教育活動との2科目の中から1科目選択という選択必修科目です。

テキスト

使用しません。

参考書

「キャリア教育が創出する新たな教育環境 地域連携で生み出す主体性と価値」山崎保寿著（松本大学出版会） 松本大学が行う帰納的教育手法としての地域連携を参考にしてください。
必要に応じて提示します。

学修成果に対するフィードバックの方法

学生の活動状況および学習の進捗について相談を受けます。

科目名	教職特講演習（教師に求められる実践的指導力）	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-01
担当者	藤江 玲子・石井 良治	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日1限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
教職に就くために必要な力を身につけます。求められる教員の資質と能力について理解するとともに、授業力の向上と、教育課題への対応力の向上を図ります。									
学修到達目標									
(1)求められる教員の資質と能力について理解し、自分が目指す教員像を持つことができる。 (2)ねらいに応じた授業の流れを作ることができる。 (3)教育に対する課題意識を持ち、教育課題への対応例を示すことができる。									
授業の進め方									
模擬授業、意見交換、ロールプレイ等のグループ活動を行います。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業内容概要と授業計画、評価学校の役割について概観します。				授業レポート作成（2時間）			
2	自分が目指す教師像	学校生活を取り巻く環境を概観し、教師の役割と理想の教師像について考えます。				事前学習：理想の教師像／教師の役割まとめ（4時間）			
3	学習指導の基礎	「授業がつまらない」という訴えから、「児童生徒の期待に応える」を考えながら、学習指導の考え方について学びます。				事前学習：訴えの真意／期待に応える指導のまとめ（4時間）			
4	授業の流れをつくる	授業のしくみ（構造）についての基礎と学習指導案の作り方について学びます。				事前学習：授業構造／学習指導案の枠組みのまとめ（4時間）			
5	模擬授業	模擬授業を通して、「授業の導入」についてグループで意見交換します。				事前学習：授業の導入／導入場面の指導のまとめ（4時間）			
6	模擬授業	模擬授業を通して、「素材と教材化」についてグループで意見交換します。				事前学習：素材探し／教材化のまとめ（4時間）			
7	模擬授業	模擬授業を通して、「発問・板書の工夫」についてグループで意見交換します。				事前学習：発問のねらい／学習の深まりのまとめ（4時間）			
8	模擬授業	模擬授業を通して、「個人追究とグループ活動」についてグループで意見交換します。				事前学習：グループ活動／各追究の意義まとめ（4時間）			
9	模擬授業	模擬授業を通して、「評価」についてグループで意見交換します。				事前学習：学習評価／授業の中の評価まとめ（4時間）			
10	授業の構造化	模擬授業の経験を生かして、「主体的な学び」についてグループで意見交換し、自分の考えをまとめます。				事前学習：主体的な学び／学びの自立まとめ（4時間）			
11	教育の現状と課題	「教育の現状と課題」をテーマとして、グループワークを行います。				事前学習：グループワークの準備授業レポートの作成（4時間）			
12	学校で起こりうる問題と対応	学校の危機管理上の問題と対応について、意見交換を行います。				事前学習：意見交換の準備授業のまとめ（4時間）			
13	学校で起こりうる問題と対応	学校で起こりうる問題を想定し、グループで対応策を考えます。				事前学習：グループワークの準備授業のまとめ（4時間）			
14	学校で起こりうる問題と対応	学校で起こりうる問題を想定して、場面指導のロールプレイを行います。				事前学習：場面指導の準備授業レポート（4時間）			
15	教員に求められる資質と能力について	学校・教員が今求められているものについて整理を行い、今後の学びに向けた課題設定を行います。				事前学習：授業の振り返りレポート課題（6時間）			
成績評価の方法・基準									
受講態度：50% 出席レポート：30% レポート：20% S：探究的な姿勢で意欲的に取り組むことができる。討議の場では、課題を十分に理解した適切な発言内容であり、建設的な意見が言える。A：意欲的に取り組むことができる。討議の場では、課題を理解し他者の意見を受け止め、発言することができる。B：意欲的に取り組むことができる。討議の場では、課題を理解した発言内容であり、他者の意見を受け止めることができる。C：課題を理解し、取り組むことができる。討議の場では、概ね課題の内容を踏まえた発言ができる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

模擬授業を含む、教職に向けた実践的な授業です。2年次に配当されていますが、3～4年次で履修することを勧めます。

テキスト

「文部科学省『学習指導要領』（各自が使用しているもの）」

参考書

「学校経営の危機管理～トラブル対応と法的解釈～ 1・2」（第一法規）

学修成果に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックのために、講評等の時間を設けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

グループワーク、意見交換を行います。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

学生の意見交換や共同作業を行う場として、ICTを活用します。

実務経験のある教員による授業

教職経験・教育実習生の指導・教員研修等の実務経験を活かした視点から、授業を行います。

科目名	教職特講演習 (保健体育科教員としての基礎知識)	学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-03
担当者	佐藤 厚彦	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
本講義は基本的に中学校・高等学校の保健体育科教員として必要な専門知識を、実際の保健授業で活用できるようにより具体化した内容として学ぶことを目的としています。学習指導要領に示されている各領域の内容について、子どもに指導する際に押さえておかなければならない詳細なポイントを徹底したドリル学習により身につけていきます。									
学修到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び高等学校の保健体育科教員として、保健授業に活用できる程度までより詳細に具体化した知識として身につけている。 ・保健授業で実際に起こり得る学習指導の課題を例に、体育科教員としてどのような知識が必要なのかを考察し、説明することができる。 									
授業の進め方									
本講義ではこれまで「指導法」の講義で学んだ内容を復習した後、例題に沿って基本的な課題や問題を全員で考察して理解を深めていきます。さらにその後は、各自でいくつかの例題に取り組み、より確かな知識とします。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の目的、学習の進め方、使用するテキスト、講座の全体計画について確認します。				事前にシラバス及び学習指導要領を読んでくる。(4時間)			
2	学習指導要領(1)	体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識を深めます。				学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
3	学習指導要領(2)	体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識をより確かなものとします。				学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
4	現代社会と健康(1)	“健康の考え方、国民の健康課題”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				健康の考え方などについて予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
5	現代社会と健康(2)	“感染症と予防、生活習慣病と予防”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				感染症や生活習慣病について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
6	現代社会と健康(3)	“喫煙・飲酒・薬物乱用と健康、精神疾患と予防”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				薬物乱用や精神疾患について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
7	安全な社会生活(1)	“安全な社会づくり、事故の発生要因、交通安全”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				交通事故の要因などについて予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
8	安全な社会生活(2)	“応急手当、心肺蘇生法”について、その内容と実習を取り入れた指導方法について学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				応急手当について予習をしておき、わからなかった点を復習する。(4時間)			
9	生涯を通じる健康(1)	“生涯の各段階における健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				生涯の各段階における健康について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
10	生涯を通じる健康(2)	“労働と健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				労働と健康について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
11	健康を支える環境づくり(1)	“環境と健康、食品と健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				環境と健康などについて予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
12	健康を支える環境づくり(2)	“保健・医療制度、地域の保健・医療機関”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				保健・医療制度などについて予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
13	保健指導の多様な指導方法の実際	“ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング、実験、実習”などの多様な指導方法について学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				多様な指導方法について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
14	総合問題(1)	基本的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。				これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)			
15	総合問題(2)	応用的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。				これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
定期試験：80% 小テスト：20% 基本的には定期テスト及び講義内で実施する小テストの合計点数で評価しますが、得点の伸び率(学習の努力の度合い)も考慮していきます。Sは全体で9割以上の得点。Aは8割以上の得点。Bは7割以上の得点。Cは6割以上の得点を必要とします。また、それぞれ、15回の講義の得点変動を得点化して若干ですが加算します。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

体育教員として必要な保健の専門知識を身につけるため、演習問題に数多く取り組みます。内容が幅広いので、授業以外の時間も継続的に学習を進めていくことが重要になります。学校現場の経験を生かした講義展開をします。

テキスト

「2023年度 教員採用試験対策 ステップアップ問題集8 中学・高校保健体育」東京アカデミー編（七賢出版） ISBN:978-4864555302（生協で購入してください。） また、中学・高等学校（保健体育）学習指導要領解説をそれぞれ購入してください。
「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1560-3（生協で購入してください。）
「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1568-9（生協で購入してください。）

参考書

教員養成セミナー（時事通信社）、教職課程（共同出版）などの教員採用に関する月刊誌も読んでいくと、受講する上で大変参考になります。

学修成果に対するフィードバックの方法

総合問題や小テストを実施した際に、講評・解説の時間を設けてフィードバックを行います。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

授業内でグループワークを行い、意見交換や情報交換をすることで個々の考えを広げたり深めたりします。

実務経験のある教員による授業

公立小中学校に教員として勤務し、保健体育を主としながら児童生徒の指導に携わった。県教育委員会に指導主事として勤務し、保健体育を主として県内の先生方の授業づくりや教科指導法に関する指導及び教員採用試験業務に携わった。

科目名	教職特講演習 (保健体育科の学習指導法)	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-03
担当者	佐藤 厚彦	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本講義は基本的に中学校・高等学校の保健体育科教員として必要な専門知識を、実際の体育授業で活用できるようにより具体化した内容として学ぶことを目的としています。学習指導要領に示されている各領域の内容について、子どもに指導する際に押さえておかなければならない詳細なポイントを徹底したドリル学習により身につけていきます。</p>									
学修到達目標									
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び高等学校の保健体育教員として、体育授業に活用できる程度まで詳細に具体化した知識を身につけている。 ・体育授業で実際に起こり得る学習指導上の課題を例に、体育教員としてどのような知識が必要なかを考察し、説明することができる。 									
授業の進め方									
<p>本講義ではこれまで「指導法」の講義で学んだ内容を復習した後、例題に沿って基本的な課題や問題を全員で考察して理解を深めていきます。さらにその後は、各自でいくつかの例題に取り組み、より確かな知識とします。</p>									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の目的、学習の進め方、使用するテキスト、講座の全体計画について確認します。				事前にシラバス及び学習指導要領を読んでくる。(4時間)			
2	学習指導要領(目標及び内容)	体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識を深めます。				学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
3	学習指導要領(内容の取り扱い)	体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識をより確かなものとします。				学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
4	体づくり運動	「体づくり運動」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「体づくり運動」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
5	器械運動	「器械運動」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「器械運動」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
6	陸上競技	「陸上競技」について、その内容と実習を取り入れた指導方法について学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「陸上競技」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
7	水泳	「水泳」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「水泳」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
8	球技(ゴール型)	「球技(ゴール型)」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「球技(ゴール型)」について予習をしておき、わからなかった例題を復習する。(4時間)			
9	球技(ネット型)	「球技(ネット型)」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「球技(ネット型)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
10	球技(ベースボール型)	「球技(ベースボール型)」を中心に球技全般について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「球技(ベースボール型)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
11	武道(柔道)(剣道)	「武道(柔道)(剣道)」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「武道(柔道)(剣道)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
12	武道(相撲)及びダンス	「武道(相撲)」及びダンスについて、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「武道(相撲)」「ダンス」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
13	体育理論	「体育理論」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				「体育理論」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
14	総合問題(1)	基本的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。				これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)			
15	総合問題(2)	応用的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。				これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>定期試験：90% 課題：10% 基本的には定期テスト及び講義内で実施する課題の合計点数で評価しますが、得点の伸び率(学習の努力の度合い)も考慮していきます。Sは全体で9割以上の得点。Aは8割以上の得点。Bは7割以上の得点。Cは6割以上の得点が必要とします。また、それぞれ、15回の講義の得点変動を得点化して若干ですが加算します。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

体育教員として必要な体育の専門知識を身につけるため、演習問題に数多く取り組みます。内容が幅広いので、授業以外の時間も継続的に学習を進めていくことが重要になります。学校現場の経験を生かした講義展開をします。

テキスト

「2023年度 教員採用試験対策 ステップアップ問題集8 中学・高校保健体育」東京アカデミー編（七賢出版） ISBN:978-4864555302（生協で購入してください。） また、中学・高等学校（保健体育）学習指導要領解説をそれぞれ購入してください。
「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1560-3（生協で購入してください。）
「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」（東山書房） ISBN:978-4-8278-1568-9（生協で購入してください。）

参考書

教員養成セミナー（時事通信社）、教職課程（共同出版）などの教員採用に関する月刊誌も読んでいくと、受講する上で大変参考になります。

学修成果に対するフィードバックの方法

総合問題や小テストを実施した際に、講評・解説の時間を設けてフィードバックを行います。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

授業内でグループワークを行い、意見交換や情報交換をすることで個々の考え方を広げたり深めたりします。

実務経験のある教員による授業

公立小中学校に教員として勤務し、保健体育を主に児童生徒の指導に携わった。県教育委員会に指導主事として勤務し、保健体育を主として県内の先生方の授業づくりや教科指導法に関する指導及び教員採用試験業務に携わった。

科目名	教職特講演習（養護教諭としての基礎知識）	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	S-19	
担当者	中島 節子	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)						
関連資格	養教一、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性				
授業概要										
本講義は、養護教諭として必要な専門知識と技術を獲得することを目的とします。そのため、健康に関する基礎的事項をはじめ、児童生徒が罹患しやすい疾病の成り立ち、予防、治療、保健室でのケア等の知識を修得します。また、養護教諭の職務に関する学校保健情報、健康診断、健康相談、保健室運営等についての知識を深め、養護教諭としての基礎能力を高め、実践につなげていけるようにします。										
学修到達目標										
養護教諭としての専門的知識と技術を復習しながら理解できる。 健康相談活動、応急手当、保健指導などを事例に応じた対応を実践できる。 実技、演習に積極的に参加することができる。										
授業の進め方										
専門的知識を深めるために、各回テーマを決めて、事例検討、確認問題と解説を繰り返しながら進めます。また、実践力を身につけるためにロールプレイング、演習しながら技術を向上させます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	オリエンテーション 養護教諭の職務と必要な能力	オリエンテーションを行います。養護教諭の職務および必要な能力について討議します。					養護教諭の職務について予習、復習する。(4時間)			
2	保健室の機能と経営	保健室の法的根拠、保健室の機能、保健室の経営、保健室登校について確認問題を行い、解説をしながら学習します。					保健室の機能と経営について予習、復習する。(4時間)			
3	感染症予防	感染症の種類、関係法令について学び、感染症予防について学習します。					感染予防について予習、復習する。事例について基礎的な部分を調べレポートする。(4時間)			
4	危機発生時における対応	危機発生時における対応について演習を含めて学びます。危機発生時の児童生徒の心のケアについて関係者との連携を含めて学びます。					危機発生時の事例に対応できるように予習し、実施したことについて復習する。(4時間)			
5	健康観察	健康観察の目的、実施、養護教諭の処置と対応について学びます。健康観察の実施は演習を交えて行います。					健康観察について実践できるように予習してくる。実践したことについて復習をする。(4時間)			
6	健康観察と事後措置	健康観察の方法と事後措置について事例を通して考えます。ロールプレイング方式で実践できる能力を養います。					健康観察(フィジカルアセスメント含)について、実践できるように予習する。(4時間)			
7	健康診断	健康診断の計画、準備、実施方法について確認問題を行い、解説しながら学習します。発達障害などの特殊な場合の健康診断の方法を検討、実施します。					健康診断と発達障害についてについて予習レポートする。(4時間)			
8	健康診断の事後措置	健康診断の事後措置の方法について事例を用いて考えます。最近の疾病傾向と対策について学びます。					児童生徒の多い疾患についてレポートにまとめる。(4時間)			
9	児童生徒に多い疾患	心疾患、腎疾患、糖尿病などの疾患について確認問題を行います。それぞれの事例を通して保健指導等の方法を考えます。ロールプレイングをしながら面接方法を検討します。					疾患について基礎的なことを予習しレポートにまとめる。事例の展開を考える。(4時間)			
10	児童生徒に多い疾患	アレルギー疾患などの疾患について確認問題を行います。それぞれの事例を通して保健指導等の方法を考えます。ロールプレイングをしながら面接方法を検討します。					疾患について基礎的なことを予習しレポートにまとめる。事例の展開を考える。(4時間)			
11	救急処置	救急体制の整備と応急手当について実技を含めた確認問題を行います。事例を通して実際の対応の仕方を考えます。					救急蘇生法について予習し、事例に対応できるようにしておく。(4時間)			
12	学校に多い外傷の対応	打撲、外傷、捻挫、骨折、脱臼、熱傷の対応についての確認問題を行います。事例を通して、実際の対応を演習します。					学校に多い外傷の病態をまとめ、対応について予習し事例に対応できるようにする。(4時間)			
13	養護教諭に必要な専門知識1	食育、性教育についての確認問題を行います。保健指導を指導案を作成して模擬指導を行います。					食育、性教育について予習復習する。保健指導案を作成する。(4時間)			
14	養護教諭に必要な専門知識2	飲酒、喫煙、薬物乱用について健康被害と予防教育について確認問題を行います。					飲酒、喫煙、薬物乱用について予習、復習する。(4時間)			
15	学校環境衛生基準	学校環境衛生の法的根拠と検査についての確認問題を行います。解答を解説しながら学びます。					学校環境衛生の法的根拠と検査方法について予習、復習する。(4時間)			
成績評価の方法・基準										
課題:30% 定期試験:60% 実技:10% 既習学習を復習しながら応用、実践できる能力が身についているか確認します。レポート提出は確実にできている。S:事前学習を行い養護教諭としての基礎的知識や技術が身につくまで、事例に応じて応用できる。A:養護教諭としての基礎的知識や技術が身につくまで、事例に対応できる。B:養護教諭として基礎的知識や技術は身につくまで、事例に対応する場合には指導を必要とする。C:養護教諭としての基礎的知識や技術は一応身につくまで、応用するにはかなりの指導を要する。										

履修上の注意（学生へのメッセージ）

養護教諭の免許取得に向けての科目です。養護教諭に必要な専門的知識・技術を身につけ、実践に結びつけることが前提となります。1、2年生で学修した養護教諭関連の内容を復習してください。

テキスト

必要に応じて資料を配布します。

参考書

「よくわかる養護教諭」時事通信出版局編（時事通信社）

「新養護概説 第11版」采女智津江著（少年写真新聞社）

学修成果に対するフィードバックの方法

提出されたレポートを添削の上返却しフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

授業内でグループワークを行い意見交換を行います。作成したレポートをもとにプレゼンテーションを行います。

ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援

クリッカーを利用して知識の核に異をします。

実務経験のある教員による授業

保健師、看護師としての実務経験と看護学校での学生指導に携わった。

科目名	教職特講演習（養護教諭としての実践的指導力）	学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	S-19
担当者	中島 節子	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	養教一、中一(保健)、高一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
養護教諭の職務の中でも特に専門的能力に必要な保健指導、健康相談等に関する基礎的知識を深く学び、児童生徒に対する指導、健康相談が実践できる能力を培うことが目的です。保健室に来室する児童生徒の事例を通して対応の仕方を学びます。それらを考えることで養護教諭の役割についての理解を深めます。									
学修到達目標									
養護教諭としての保健指導や、健康相談を基礎的な知識をもって、模擬で実施できる。養護教諭としての実践に結びついた判断をしたり、コミュニケーションができる。演習、アウトキャンパスに目的意識をもって積極的に参加できる。									
授業の進め方									
学校で遭遇する機会が多い健康相談事例について、各自が事前レポートを書いてから事例の対応についてディスカッションをします。また、ロールプレイングを交えて実際に対応できる能力を身につけます。アウトキャンパスで、教育現場での体験学習も行います。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、指導のために必要な能力、資料・教材の活用の仕方、観察方法を学びます。				養護教諭についての既習学習の内容を復習する。（4時間）			
2	フィジカルアセスメント	養護診断を行う時のフィジカルアセスメントの方法について演習を交えながら学びます。				フィジカルアセスメントについて予習復習する。（4時間）			
3	事例1	腹痛、頭痛などの内科的な身体症状を訴える事例について対応を展開し、検討します。				事前に提示した疾患や腹痛、頭痛について学習する。（4時間）			
4	事例2	腰痛、関節痛などの外科的な身体症状を訴える事例について対応を展開し、検討します。				事前に提示した疾患や腰痛、関節痛について学習する。（4時間）			
5	事例3	精神症状を訴える事例について展開します。医療が必要と判断される場合の連携や治療中のこどもとの関わりについて学びます。				事前に提示した精神疾患について学習する。（4時間）			
6	事例4	不定愁訴があり、疾患を否定される事例を展開します。情報の分析の仕方を検討します。				事前に提示した症状や疾患について学習する。（4時間）			
7	事例5	いじめ、不登校などの事例を展開し、養護教諭のかかわりについて検討します。				いじめ、不登校について学習する。（4時間）			
8	事例6	性の逸脱行動、虐待に関する事例を展開し、養護教諭の役割について検討します。				性の逸脱行動、虐待について学習する。（4時間）			
9	集団指導1	集団指導が実施できるように、指導案の作成方法や教材研究の基本を学びながら、各自でテーマを決めて実際に指導案を作成します。				テーマについての資料集めと指導案作成をする。（4時間）			
10	集団指導2	各自のテーマと対象に合わせて、指導案に基づいて教材を作成し、集団指導を行えるように準備します。				指導のための教材を作成する。（4時間）			
11	集団指導の実施	集団指導をお互いに実施し、評価・検討します。				各自の集団指導の振り返りをする。（4時間）			
12	養護教諭に必要な専門的知識・解剖	養護教諭に必要な消化器、循環器、脳神経、感覚器などの人体の解剖や生理学について学びます。				解剖学、生理学の復習する。（4時間）			
13	養護教諭に必要な専門的知識・法律	学校保健安全法など養護教諭に必要な法律について学びます。				養護教諭に関連した法律について復習する。（4時間）			
14	学校保健	学校保健における養護教諭の役割を学び、学指導要領の内容を確認します。小、中、高の指導内容の特徴を発達段階に合わせて検討します。				小、中、高の学習指導要領の内容を確認する。（4時間）			
15	まとめ	養護教諭に必要な資質と能力について個々の考えをもとに討議します。				養護教諭に必要な資質と能力についてまとめる。（4時間）			
成績評価の方法・基準									
定期試験：70% 課題：30% 既習学習を復習しながら応用、実践できる能力が身についているか確認します。レポート提出は確実にできている。S:養護教諭としての知識や技術が身につくまで、事例に応じて応用できる。A:養護教諭としての基礎的知識や技術が身につくまで、事例に対応できる。B:養護教諭としての基礎的知識や技術は身につくまで、事例に対応する場合には指導を必要とする。C:養護教諭としての基礎的知識や技術は一応身につくまで、応用するにはかなりの指導を要する。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
養護教諭としての実践能力を身につけるために、事例を展開していきます。コミュニケーションやカウンセリング能力、他者との連携についてもロールプレイングなどで実践していくので積極的に参加してください。
テキスト
必要に応じて資料を配布します。
参考書
「新訂版 学校保健実務必携 第4次改訂版」学校保健・安全実務研究会編（第一法規出版）
学修成果に対するフィードバックの方法
提出された課題を添削の上返却しフィードバックします。学生間でもお互いの実施した内容を評価しあいます。
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
テーマについてプレゼンテーションを行います。グループワークを行い意見交換を行います。
ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援
クリッカー等で知識の確認をします。
実務経験のある教員による授業
行政や病院で保健師としての勤務、看護学校で専任教員として勤務していた。

科目名	教職特講演習（学校課題の理解と教師の対応力）	学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	石井 良治	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
近年、保護者などからの学校に対する意見や要望は多様化しています。場合によっては、保護者と学校が対立し合い、互いに苦しむ状況に陥ることも珍しくはありません。そのような状況を未然に防ぐためには、教職員の初期対応が非常に重要であると言われています。本授業では、複数の事例をとおして学び、教員としての対応能力（コミュニケーション能力）を高めながら教員と保護者などとの良好な関係づくりのあり方、また危機管理の基本姿勢について学びます。									
学修到達目標									
学校におけるトラブルの具体的な事例について学び、その背景や課題を理解することができる。 教員に求められる重要な力の1つである「対応力」「危機対応意識」を高め、多角的に分析する態度を身につける。									
授業の進め方									
いくつかの具体的な事例をもとに、講義とグループ討議やロールプレイを交えながら、問題点の所在を明らかにしたり、教師の姿勢のあり方を考えたりして、解決の糸口を見つけます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業概要と授業計画 学校の役割、保護者や地域住民からの要求、トラブル事例について概観します。				レポート提出準備：本時のまとめ（2時間）			
2	相談と向き合う	「子供が元気がない」という保護者の相談から、その状況と保護者の困惑を受け止め、対応について考えます。				事前学習：相談の現状 レポート提出準備：本時のまとめ（4時間）			
3	要求と向き合う	「学校でけがをした」という場面で、連絡・報告などのすれ違い事例から、保護者との連携の大切さを考えます。				事前学習：報告・連絡・連携 / レポート提出準備：本時のまとめ /（4時間）			
4	訴えと向き合う	「授業がつまらない」という訴えから、その言葉の裏にある思いを受け止め、学習の楽しさについて考察します。				事前学習：学習の成立 / 課題レポートの提出準備（4時間）			
5	教師の創意工夫	児童生徒の立場から授業の魅力や学習意欲を考察し、学習指導の工夫、改善をもとに、児童生徒の期待に応える授業について考えます。				事前学習：学習指導の流れ 課題レポート提出準備（4時間）			
6	相談と向き合う	「家庭生活リズムの乱れ」についての相談から、保護者との連携、登校渋りがテーマです。学校チームとして対応することを考えます。				事前学習：不登校の現状 / レポート提出準備：本時のまとめ（4時間）			
7	児童生徒の居場所	学校生活における安全と安心を保障するために、集団づくりの教師の姿勢や配慮点について考えます。				事前学習：学級経営 / レポート提出準備：本時のまとめ /（4時間）			
8	要求と向き合う	保護者からの要求があった。その要求に対して集団討論を通して、解決の方向を示します。				事前学習：集団討論 / レポート提出準備：本時のまとめ（4時間）			
9	保護者とのつながり	保護者との関係づくりをするときの自分の具体的な取り組みについてプレゼンします。				事前学習：保護者対応と信頼 / レポートの提出準備（4時間）			
10	児童生徒や保護者と向き合う	児童生徒の悩みや苦情の場面において、具体的な模擬指導を通して、問題解決のポイントを体感します。				事前学習：子どもの意識調査結果 / レポート提出準備：本時のまとめ（4時間）			
11	学校安全	危機管理の考え方を理解し、学校生活で発生するトラブルをもとに、危機管理意識を高めます。				事前学習：未然予防という考え方 / レポート提出準備：本時のまとめ /（4時間）			
12	学校安全	「学校行事」の準備と運営の場面を想定し、演習を通してリスク管理の基本姿勢を学びます。				事前学習：学校危機管理 / 課題レポートの提出（4時間）			
13	日常の危機管理意識	教員の日常の学校生活の中に潜むトラブルを想定し、信用失墜行為に当たる事例をもとに、教師自身の危機管理意識について考えます。				事前学習：ハインリッヒの法則 / レポート提出準備：本時のまとめ /（4時間）			
14	期待される教師像	児童生徒や保護者が寄せる期待に応える教員の姿をイメージし、「期待される教師」について考えます。				事前準備：理想とする教師像 / レポート提出準備：本時のまとめ（4時間）			
15	教育現場の課題（まとめ）	教育現場で抱えている諸課題をまとめ、苦情対応や保護者対応についてのまとめをします。（当初の目的が達成されたか、成果と課題）				事前学習：学校現場で抱えている具体的な課題 / 課題レポートの提出 /（6時間）			
成績評価の方法・基準									
受講態度：25% 小テスト：35% 課題：40% 受講態度は、課題に取り組む姿勢で評価する。 S：課題を多角的にとらえ、討議の場では、発言内容が適切であり、視点をかえて発言できる。A：課題を的確に理解し、討議の場では、建設的な意見が言える。B：課題を十分理解し、討議の場では、他者の意見を受け止めてその差異を意識して発言できる。C：課題を理解し、討議の場では、概ね課題の内容を踏まえた発言ができる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

受講者自身の考え方や意見等を述べることで学修が深まりますので、意欲的・積極的に参加することを望みます。元中学校長の勤務経験を活かし、講義します。

テキスト

毎時間プリント資料を使用します。

参考書

「学校問題解決のための手引～保護者との対話を活かすために～」東京都教育委員会編 東京都教育委員会のHPから
「学校経営の危機管理～トラブル対応と法的解釈～1・2」（第一法規）

学修成果に対するフィードバックの方法

毎回ワークシートに記入された学修の振り返り（感想や自分の考え）をまとめ、次時の討議の資料としてフィードバックします。また、提出されたレポートは、添削の上返却し、フィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

毎回、課題に沿ったプレゼンテーションを実施し、他の受講者の感想や講評の機会を設けます。ペアワークや集団討論を通して、自分の考えを構築・検討する機会を設けます。

実務経験のある教員による授業

公立中学校に教員、校長として勤務し、英語の教科を主としながら生徒の指導に携わった。

科目名	教職特講演習（教職教養の基礎）	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
(目的) 本講義は、教職教養の教育学、教育心理学、一般教養の基礎的知識の総まとめと課題演習により、基礎的な教職教養を身につけ、一般教養に基づいた実践的な力を高めます。また、教育思想、教育史、教育課程、学習指導要領、教育心理学等の基礎的な知識の整理とまとめを行います。									
学修到達目標									
1. 教職教養の教育学分野の基礎的知識を確実に身につける。 2. 教職教養の教育心理学・発達心理学分野の基礎的知識を確実に身につける。 3. 教員採用選考試験の教育学分野及び教育心理学・発達心理学分野の問題に関する理解を深める。									
授業の進め方									
授業は、プリント資料を準備し、教育学、教育心理学の各分野の基礎的、基本的知識を体系的に整理し、毎時間の課題演習によりそれらの知識を確実に身につけることができるように講義と演習形式で行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 授業の内容と方法についての説明				資料による問題の作成と回答(4時間)			
2	心理学理論&心理学史	心理学理論&心理学史について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
3	外国の教育思想	外国の教育思想について的小テスト問題の回答と説明				資料による問題の作成と回答(4時間)			
4	学習理論・学習の過程	学習理論・学習の過程(動機付け、記憶と忘却、認知)について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
5	教育課程・学習指導要領	教育課程・学習指導要領について的小テスト問題の回答と説明				資料による問題の作成と回答(4時間)			
6	発達と発達理論	発達と発達理論について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
7	教育方法・情報教育	教育方法・情報教育について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
8	地域連携・学校経営	地域連携と学校経営について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
9	教育行政・教育法規	教育行政・教育法規について的小テスト問題の回答と説明				資料による問題の作成と回答(4時間)			
10	各種心理検査と教育現場での実際	各種心理検査と教育現場での実際について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
11	生徒指導・学校、学級経営	生徒指導・学校、学級経営について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
12	適応と適応機制・心理療法	適応と適応機制・心理療法について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
13	特別支援教育	特別支援教育について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
14	教育評価	教育評価について的小テスト問題の回答と説明				授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)			
15	まとめ	まとめ				授業の振り返りと反省レポート(4時間)			
成績評価の方法・基準									
小テスト:60% 出席レポート:40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆ど的小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

本講義を受講することで、教員採用選考試験に必要な教職教養を身に付けることができます。そのため、必ず3年生まで（4年生へ持ち越さない）で教職教養と一般教養をマスターして下さい。

テキスト

「教職教養完成30（最新版）」（時事通信社）
「2023版（最新版）絶対決める！」L&L総合研究編（新星出版社）
授業担当者が毎時間プリント資料を準備する。

参考書

「教員採用試験問題集 2023年版（最新版） 各県版（複数県を）」
複数県および教育委員会のHP等の情報を入手し、問題演習を徹底して行ってください。

学修成果に対するフィードバックの方法

教育委員会の最新情報等について、相談を受けます。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

学生の相互確認、グループ活動も取り入れます。

科目名	教職特講演習（教師に求められる文章表現能力）	学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-02
担当者	山崎 保寿・巻山 圭一	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>(目的) 教師に必要な文章表現能力を身につけ、学校現場で十分対応できる力を育成することを目的とします。</p> <p>(概要) 教師の仕事に文章表現能力がいかに関わるかについて概説し、教師が文章表現能力を身につけておく必要性を理解させるとともに、文章表現の基礎的知識、文章表現の技法について学び、個性的、魅力的な小論文を書くことができる力が身につくような講義を目指します。</p>									
学修到達目標									
<p>文章表現の基礎を身につける。</p> <p>自分の考えを整理し、相手によくわかるように的確に文章表現できる。</p> <p>自らの経験に基づき「自分らしさ」を出した個性的な小論文を書くことができる。</p>									
授業の進め方									
<p>毎回、教科書および設定したテーマに即した基本的知識・情報を提供するとともに、実際に小論文を書く練習を繰り返すことによって、文章表現能力が高められるように創意工夫をします。随時、添削指導も行います。</p>									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	教師の表現能力	教師の仕事と文章表現の機会（山崎）				課題レポート - 教師の仕事と表現能力 -（4時間）			
2	文章表現の基礎	文章表現の基本的スタイル 作文と小論文（山崎）				課題レポート - 文章表現の基礎 -（4時間）			
3	文章表現のルール	文章表現・表記の基本的ルール（山崎）				課題レポート - 文章表現のルール -（4時間）			
4	文章表現法	「起承転結」型の文章表現法（山崎）				課題レポート - 起承転結の文章 -（4時間）			
5	文章表現法	「序論・本論・結論」型の文章表現法（山崎）				課題レポート - 三段型の文章表現 -（4時間）			
6	課題小論文	課題小論文の書き方（1） 小論文の傾向（巻山）				課題レポート - 課題小論文 -（4時間）			
7	課題小論文	課題小論文の書き方（2） 小論文に必要な事前準備（巻山）				課題レポート - 課題小論文 -（4時間）			
8	課題小論文	課題小論文の書き方（3） 内容構成 相互評価（巻山）				課題レポート - 課題小論文 -（4時間）			
9	課題小論文	課題小論文の書き方（4） 内容構成 自己評価（巻山）				課題レポート - 課題小論文 -（4時間）			
10	教育時事問題	教育時事問題に関する小論文（巻山）				課題レポート - 教育時事 -（4時間）			
11	自己体験	自己体験を入れた小論文（山崎）				課題レポート - 自己体験小論文 -（4時間）			
12	具体事例	具体的事例を入れた小論文（山崎）				課題レポート - 具体的事例と小論文 -（4時間）			
13	自分自身のこと	自分の趣味や現在の関心に関する小論文（山崎）				課題レポート - 自分らしい小論文 -（4時間）			
14	教職観・教師観	自分の教職観や教師観がはっきりしている小論文（山崎）				課題レポート - 教職観・教師観 -（4時間）			
15	まとめ	まとめ 「自分らしさ」を出した個性的な小論文（山崎）				総合レポート（4時間）			
成績評価の方法・基準									
<p>出席レポート：80%</p> <p>小論文への取り組み度：20%。S：課題に意欲的に取り組み、出題のねらいを理解して、論理的な文章で表現できる。A：課題に意欲的に取り組み、段落構成を工夫した文章で表現できる。B：課題に意欲的に取り組み、出題意図を概ね理解し、文章で表現できる。C：課題を理解して、意欲的に取り組み、時間内に表現しようとする。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

将来教職への進路をめざしている方は、できるだけ受講するようにして下さい。できれば2年次、3年次と継続して履修をし文章表現能力を身につけて下さい。

テキスト

「手取り足取り論作文（最新版）」（時事通信社）（生協で購入してください。）
毎時間、授業者がプリント資料を準備して行います。

参考書

その都度、必要に応じて紹介します。

学修成果に対するフィードバックの方法

学生が提出した小論文を添削し返却します。

科目名	教職特講演習 (学校体育実技指導の基礎)	学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	S-13
担当者	岩間 英明	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本講義は体育指導において、生徒が新しい運動スキルを獲得したり、陥りやすい運動課題の解決法を見つけ出したりするには、どのような指導をしていけばよいのかを実技を通して分析・研究していき、スポーツの指導実践能力を高めることを目的としています。本講義では各種スポーツの特性の理解や、それに適した指導法ならびに、指導の際の言葉かけ、運動の場づくりといった指導展開をする上でポイントとなることについて学習していき、生徒が生き生き取り組む体育授業について追究していきます。</p>									
学修到達目標									
陸上競技のハードル走、器械運動のマットと跳び箱、体づくり運動、ダンス、武道の柔道と剣道、バレーボール、サッカー、バスケットボールの指導方法と、技術のポイントを学習し、分かりやすく説明したり実技指導ができる。実技の指導に関して生徒がわかりやすい言語表現ができる。実技能力の向上に主体的に取り組もうとする。									
授業の進め方									
中学校・高等学校の授業でおこなわれるなじみ深いスポーツ種目を中心に展開していきます。各種スポーツの特性の理解、運動技能・技術の指導、学習集団の指導といった点に着目し、実技による学習を展開していきます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	生徒が主体的に学ぶ体育の授業とは	生徒が主体的に学習するための教師の手だてや教師の基本的な体育授業に対する考え方について				自己紹介、体育の授業や先生に対する各自の思いをまとめておく(4時間)			
2	<陸上競技> 腰を高く保った走り方	腰を落とさず、高い位置に保ち、ももを上げ、腕の振り方で推進力をつける走り方を体感し、指導方法を学ぶ。				自分の走り方について知り、考えておく(4時間)			
3	<陸上競技> とび越すハードル走からまたぎ越すハードル走へ	ふみ切り位置と着地の位置に着目し遠くでふみ切り、近くに着地する走法をマスターする。フォームの分析の方法を知る。				前回の復習を行う(4時間)			
4	<陸上競技> とび越すハードル走からまたぎ越すハードル走へ	ハードル上での前傾姿勢、ふり上げ脚、抜き脚のフォームをマスターし、ハードルを越えた第一歩を正しく前方へふみ出す学習をする。				陸上競技についてのまとめを再度行う(4時間)			
5	<器械運動> マット運動の個々の技と連続技を学ぶ	回転系、展開系の個々の技を学びポイントを知る。				マットの単技で自分ができる技、挑戦したい技について考えておく(4時間)			
6	<器械運動> 連続技を学ぶ	アドバイスと補助の仕方、つまずきの見つけ方を学ぶ。連続技の構成と技術のポイントを学ぶ。				連続技で自分ができる技、構成について考えておく(4時間)			
7	<器械運動> とび箱運動の様々なとび方を学ぶ	腕立開脚とび、閉脚とび、台上前転とび等のポイントとつまずき、安全な指導について学ぶ。				とび箱運動の様々なとび方について理解しておく(4時間)			
8	<体づくり運動> 体力を高める運動について	体力を高める運動を様々な考案し、目的、注意事項、効率等考えて模擬授業ができるようにする。				体力を高める運動について学習指導要領を理解しておく(4時間)			
9	<体づくり運動> 体ほぐしの運動について	体ほぐしの運動について目的、効率、生徒の意欲等を考えて考案し、模擬授業ができるようにする。				体ほぐしの運動について学習指導要領を理解しておく(4時間)			
10	<ダンス> 創作ダンスに取り組もう	模倣の動きを恥ずかしながら伸び伸びと演ずる。				普段目に付くダンスのステップを見てイメージしておく(4時間)			
11	<ダンス> 創作ダンスに取り組もう	様々なテーマを即興で数多く動いてみる。いくつかのフレーズを考案、演じ、作品を作る。模擬授業を行う。				前回学んだ動作を取り入れた模擬授業を考えておく(4時間)			
12	<武道> 剣道の基本技、柔道の基本技について学ぶ	剣道・柔道の基本の技、動作、修得と安全な指導について学習する。				剣道・柔道の基本技・ルールを事前に理解しておく(4時間)			
13	<球技> バレーボール	フローターサーブ、アンダーハンドサーブ、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスなどの基本的な技の学習と三段攻撃、ディフェンス等の修得、指導法の学習				バレーボールのルール・戦術を事前に調べ、理解しておく(4時間)			
14	<球技> バスケットボール	相手ディフェンスをかかわしてのドリブルやパスなどの基本プレーの修得と指導方法の学習				バスケットボールのルール・戦術を事前に調べ、理解しておく(4時間)			
15	<球技> サッカー	基本的なプレーの修得と3人対2人のミニゲームなどの学習と指導方法の学習				サッカーのルール・戦術を事前に調べ、理解しておく(4時間)			
成績評価の方法・基準									
<p>実技：50% 受講態度：50% 毎時間の授業における実技の状況によって評価します。 上記の受講態度は、技能のポイントと指導方法についての知識・理解度...15%、授業に対する意欲度...20%、安全に対する配慮...15%の割合で評価します。 評価基準は合計点数で、90%以上をS、80~89%をA、70~79%をB、50~59%をCとします。</p>									

履修上の注意（学生へのメッセージ）
<p>体育教員に必要な実技能力の向上及び指導のポイントなど学習していきます。教員採用試験でも体育実技の能力は問われますので、教員を目指す人はできるだけ受講することを勧めます。学校現場の経験を生かした講義展開をします。</p>
テキスト
<p>「中学校・高等学校保健体育 体育実技 準教科書」（別途、指示します。） 一般の書店では購入できませんので必要な人は申し出てください。</p>
参考書
<p>なし</p>
学修成果に対するフィードバックの方法
<p>授業時間内に限らず、朝、昼休み、授業の空いている時間などを利用して、課題とした実技練習ならびにその指導方法に関する解説の補習を行います。</p>
アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施
<p>授業を途中で区切りながら、学生同士が相互に指導し合ったり、技術の研究をしたりなど、指導法及び技術習得についてのディスカッションを行います。</p>
ICTを活用した双方向型授業や自主学修支援
<p>ICTを活用し、映像による個々の指導方法や技術の習得状況などを分析していきます。</p>
実務経験のある教員による授業
<p>公立中学校に保健体育科の教員として勤務し、生徒の運動・スポーツ・健康指導に携わりました。</p>

科目名	教職特講演習（教育理論の基礎知識）	学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	
担当者	各教員	必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度（読替科目）					
関連資格	中一(保体)、高一(保体)、小二種免					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
本講義は学校現場における教育課題について、教科指導を中心に取り上げ、教員としての基礎的な知識技能や取り組み姿勢を理解することを目的としています。特に、小学校から中学校への「接点」「連続性」に視点を当て、児童生徒に指導する際に押さえておかなければならないポイントを学修しますので、中学校免許を取得する上で、役立ちます。									
学修到達目標									
教員として、授業改善や授業展開など学習指導の基本的な知識や連携についての考え方を身につけている。学校現場の教育的諸課題を理解した上で、児童生徒への関わり方を理解し、実践する態度を身につけている。									
授業の進め方									
毎回の講義は学校現場の教育的諸課題について、自分自身の経験や各種資料を参考にディスカッションや発表を行い、各自でそれをレポートにまとめていきます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の目的、学習の進め方を確認します。学校現場の教育課題の問題に組み、現在の自分の力、意識を認識します。				事前にシラバスを読み、教育課題について整理をする。(4時間)			
2	学力観の移り変わり	主に学習指導要領について概観するとともに、総則より学習指導の創意工夫について理解を深めます。				学習指導要領の総則を読み、キーワードについてまとめる。(4時間)			
3	発達段階と学び	小学校から中学校における学びの共通点、また発達段階に即した指導学習の特徴について整理し、学びの連続性について考えます。				「主体的な学び」についてレポートにまとめる。(4時間)			
4	児童生徒の実態（学校生活満足度）	児童生徒の実態を調査データをもとに考察し、学校生活の具体的な場面での具体的な指導支援について検討し、児童生徒理解を深めます。				調査データをもとに問題点を洗い出し具体的な改善策を考える。(4時間)			
5	児童生徒の実態（学習習慣）	児童生徒の実態を調査データをもとに考察し、学習習慣の形成について具体的な指導支援について検討し、児童生徒理解を深めます。				学習習慣形成の問題点を洗い出し具体的な支援策をレポートにまとめる。(4時間)			
6	学びのつながり	国語、社会、英語などにおける小学校、中学校の発達段階に即した学習指導の特徴について、「主体的・対話的で深い学び」の観点から検討します。				英語の学習について、小学校から中学校の接続についてまとめる。(4時間)			
7	学びのつながり	音楽、図画工作、総合的な学習などにおける小学校、中学校の発達段階に即した学習指導の特徴について、「主体的・対話的で深い学び」の観点から検討します。				総合的な学習について、小学校から中学校の接続についてまとめる。(4時間)			
8	学びのつながり	「学び直し」「重ね塗り学習」などの実践例をもとに、学習のつまづきや支援のあり方、個別指導などの課題について、集団討論します。				学習のつまづきに対応する支援について自分の考えをまとめる。(4時間)			
9	教材研究と教科書	授業構想を進めるにあたって不可欠である教材研究について、具体的な指導場面を例に、素材の教材化と価値について理解を深めます。				1つの単元について、単元展開を考え、評価基準とあわせてまとめる。(4時間)			
10	授業構想の基本	1時間の授業の学習指導について、「生徒の期待に応える学習指導」の観点から授業構想、教材研究、指導の創意工夫などを考えます。				児童生徒が期待する授業について、その内容と理由をまとめる。(4時間)			
11	授業改善	授業改善の必要性やその視点などについて理解を深め、実際の指導案の作成を通して授業改善の具体を演習します。				「よい授業」について自分の経験を元に整理し、レポートにまとめる。(4時間)			
12	授業改善	書き上げた指導案をもとに、指導の工夫や改善の方向を探り、授業の質の保障について討論します。				工夫点の根拠を明らかにし、児童生徒の予想される反応や効果についてまとめる。(4時間)			
13	模擬授業	授業構想(しくみ)の基本を理解し、自分の工夫した学習活動や指導法を模擬授業で実践します。				「授業づくり」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)			
14	模擬授業	模擬授業と意見交換をして、授業改善の具体的な課題を追究します。				「授業改善」について復習し、レポートを完成させる。(4時間)			
15	基礎的な理論のまとめ	小中学校の学習指導のつながりやその課題など、これまでの学習に基づいてレポートをまとめます。				総合的にこれまでの学習内容について復習し、レポートを完成させる。(4時間)			
成績評価の方法・基準									
受講態度：30% レポート：70% 受講態度は、課題への取り組み姿勢で評価する。レポートは毎時間提出するものと、まとめとして提出するものの2種類があり、それぞれに評価し、その合計点によって評価します。S：課題を高度に分析し、多様な視点からさらに追究を深めようとする。A：課題を分析的にとらえ、創意を生かした考えをまとめることができる。B：課題を的確に理解し、他者の意見との差異を意識して考えをまとめることができる。C：課題を理解し、自分の考えを自分の言葉で表現できる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

教員として必要な基礎的知識や技能を身につけるため、レポートに数多く取り組みます。内容が幅広いので、授業以外の時間も継続的に学習を進めていくことが重要になります。

テキスト

必要に応じて資料を配付します。

参考書

教員養成セミナー（時事通信社）、教職課程（共同出版）などの教員採用に関する月刊誌も読んでいくと、受講する上で大変参考になります。

学修成果に対するフィードバックの方法

提出された学修振り返りのワークシートに記述された考えや感想をまとめ、次時においてフィードバックし、討議の資料とします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

授業内でグループワークを行い、課題解決の方向性を見いだします。また、一人ひとりが個人の課題についてプレゼンテーション実施の機会を設けます。

科目名	教育実践特講	学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ`リッヅ		研究室	S-23
担当者	小松 茂美・山崎 保寿・藤江 玲子	必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-	木曜日2限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	高一(商業)、高一(情報)、中一(社会)、高一(地歴)、高一(公民)、中一(保体)、高一(保体)、養教一、中一(保健)、高一(保健)、中一(英語)、高一(英語)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
現場の教育実践を直接参観することにより教育及び授業に対する理解・関心を深める契機とし、実際の授業の参観を通して4年次に行う教育実習へのスムーズな移行ができるようにします。長野県内の中学校、高等学校等の授業を参観し、参観後レポートを提出し、その提出したレポートに基づいてディスカッションや模擬授業を行い、他者と意見を交わしながら授業に対する基本的な理解を深めます。									
学修到達目標									
授業参観の基本的な態度・心得について理解を深め授業の見方を身につけ、参観後のディスカッションと模擬授業をとおして、授業実践力を身につけると共に、自己表現力・コミュニケーション能力を向上させる。併せて、よい授業・わかる授業についての理解を深める。									
授業の進め方									
授業参観を少なくとも2回(2日間)行い、参観後レポートを提出し、提出したレポートに基づいてディスカッションを行います。授業参観の経験を活かし、各自作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、授業力の向上を図ります。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の見方について 授業参観の基本的心得について				授業内容を確認し記録整理する (4時間)			
2	高等学校の訪問	授業参観 取得を目指している免許教科の授業参観				事前学修:参観のポイント確認 参観レポート提出(4時間)			
3	高等学校の訪問	授業参観 授業参観 と異なる教科の授業参観				事前学修:参観のポイント確認 参観レポート提出(4時間)			
4	中学校の訪問	授業参観 取得を目指している免許教科の授業を中心に授業参観				事前学修:参観のポイント確認 参観レポート提出(4時間)			
5	ディスカッション	高等学校の授業参観で学んだこと				事前学修:授業参観記録の確認 課題レポート提出(4時間)			
6	ディスカッション	中学校の授業参観で学んだこと				事前学修:授業参観記録の確認 課題レポート提出(4時間)			
7	ディスカッション	授業参観をとおして学んだこと教育実習にどう生かすのか				事前学修:自己課題の確認 課題レポート提出(4時間)			
8	学習指導案の作成と教材研究	学習指導案の作成と教材準備について再確認する				事前学修:学習指導案の基礎基本 学習指導案提出準備(4時間)			
9	指導案の作成と教材研究	模擬授業に向けた学習指導案の作成と教材研究				事前学修:教材研究 学習指導案提出準備(4時間)			
10	指導案の作成と教材研究	模擬授業に向け学習指導案をもとに教材作成				事前学修:教材の準備 学習指導案提出と教材作成(4時間)			
11	模擬授業と板書の実際	Aグループによる模擬授業とその評価				事前学修:模擬授業の準備 授業レポート提出(4時間)			
12	模擬授業と板書の実際	Bグループによる模擬授業とその評価				事前学修:模擬授業の準備 授業レポート提出(4時間)			
13	模擬授業と板書の実際	模擬授業のまとめ(反省と課題)				事前学修:模擬授業の準備 授業レポート提出(4時間)			
14	授業評価	授業評価について(よくわかる授業、良い授業にするために)				事前学修:授業の評価 課題レポート提出準備(4時間)			
15	まとめ	良い授業の条件について まとめ				事前学修:良い授業とは 課題レポートの提出(4時間)			
成績評価の方法・基準									
受講態度:20% 出席レポート:30% 実技:30% レポート:20% S:授業参観力、よい授業・わかる授業についての理解に優れ、授業実践力の向上が期待以上である。A:授業参観の心得、よい授業・わかる授業について理解しており、授業実践力の向上が期待どおりである。B:授業参観の心得、よい授業・わかる授業について理解し、教授法を工夫し授業実践に活かすことが十分期待できる。C:授業参観の心得、よい授業・わかる授業について理解しており、授業実践や教授法の工夫に活かすことが期待できる。									

履修上の注意（学生へのメッセージ）

授業参観を通して見出した課題を受講者が相互に出し合い、よい授業、よくわかる授業とはどのような授業かについて、本講義を通して理解を深めます。学校現場の経験を踏まえ、授業を進めます。

テキスト

必要に応じて、プリント資料を配布します。

参考書

「大西流授業の見方 授業を見る目を高めるノウハウ25」大西貞恵 / 玉置崇著（KKプラネクス 2010年）

学修成果に対するフィードバックの方法

学生の発表内容を踏まえ、学修の成果を確認し、今後の学習課題が認識できるようにフィードバックします。

アクティブラーニング（双方向型授業等）の実施

個々の受講者の発表に対し、受講者全員で成果、改善を要する点等について意見交換を行います。

実務経験のある教員による授業

教員としての勤務経験を生かし、学校現場の実情を踏まえた支援、アドバイスを行い、授業実践力の向上を図ります。

科目名	介護等体験入門（総経・人間）	学年学期	3年前期	単位数	1	ナパリング		研究室	W-01
担当者	藤江 玲子・尻無浜 博幸	必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
履修条件	教職課程履修者			履修対象入学年度 (読替科目)					
関連資格	中一(社会)、中一(保体)、中一(保健)					ディプロマポリシーとの関連性			
授業概要									
<p>本授業は、介護等体験(社会福祉施設5日間及び特別支援学校2日間)の事前指導として開講しています。したがって、介護等体験の意義・目的を理解し、介護等体験を行うにあたって必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付けることを目的とします。介護等体験を行う社会福祉施設や特別支援学校の法的根拠や実態、最近の動向等に関する基礎的知識をもって実習に対処できるように進めます。</p>									
学修到達目標									
<p>1. 介護等体験の意義・目的を十分に理解し、介護等体験を行う学校・社会福祉施設に関する基本的な知識を身につける。 2. 介護等体験を行うにあたっての基本的な知識、技能、態度を身につける。 3. 介護等体験の日々の記録の取り方を理解し、自己の目標がどの程度達成されたか検証する態度を身につける。</p>									
授業の進め方									
介護等体験の準備科目として、授業は介護等体験に向けた準備を具体的に展開します。教室での講義を主として、必要に応じて特別支援学校や福祉現場の方から直接に話を伺う機会を設けます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	授業の進め方及び介護等体験の意義と目的について説明します。（藤江）				シラバスを事前に読んでおく（1時間）			
2	特別支援学校1	特別支援学校の概要について説明します。（藤江）				HPで長野県内の特別支援学校について調べる（4時間）			
3	特別支援学校2	特別支援学校での介護等体験の内容と記録について説明します。（藤江）				第2回授業の復習、希望した地域の特別支援学校のHPを調べる（4時間）			
4	社会福祉施設1	社会福祉施設の制度について説明します。（尻無浜）				第3回授業の復習、社会福祉施設の制度について調べる（4時間）			
5	社会福祉施設2	社会福祉施設での介護等体験について(記録指導)について説明します。（尻無浜）				第4回授業の復習、第1回授業で配布された「介護等体験記録」の内容を確認する（4時間）			
6	社会福祉施設3	社会福祉施設での介護等体験(アンケート実施 介護等体(尻無浜) 験先の決定)について説明します。				第5回授業の復習、希望する地域の社会福祉施設のHPを調べる（4時間）			
7	社会福祉施設4	社会福祉施設での介護等体験について(介護等体験先調整)について説明します。（尻無浜）				第6回授業の復習（4時間）			
8	まとめ	これまでの授業の総括（藤江）				これまでの授業の復習、介護等体験に臨むための準備（4時間）			
成績評価の方法・基準									
<p>課題：50% 受講態度：50% 受講態度（出席・意欲・理解度）と課題（各種提出物含む）を総合して評価します。S:授業内外の課題に積極的かつ自発的に取り組み、介護等体験に必要な知識、技能、態度を十分に身につけ、明確な自己課題を持てた。A:授業内の課題に積極的に取り組み、介護等体験に必要な知識、技能、態度を身につけ、自己課題を持てた。B:授業内の課題を通して、介護等体験に必要な知識、技能、態度を身につけ、自己課題を考えた。C:授業内の課題を通して、介護等体験に必要な知識、技能、態度を理解した。</p>									
履修上の注意（学生へのメッセージ）									
介護等体験ではいかに事前準備をして臨むかが学びの深さ、広さを決定します。授業内の準備には制約がありますので、自発的に準備を行い、自己課題を明確にもって体験に臨み、自己課題の解決に繋げてください。									
テキスト									
「介護等体験ガイドブック 新フィリア」全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟編（ジアース教育新社） ISBN:978-4-86371-522-6 C3037（生協で購入してください。）									
参考書									
「社会福祉六法 最新版」（新日本法規）									
学修成果に対するフィードバックの方法									
提出された課題について、講評・添削を行います。									